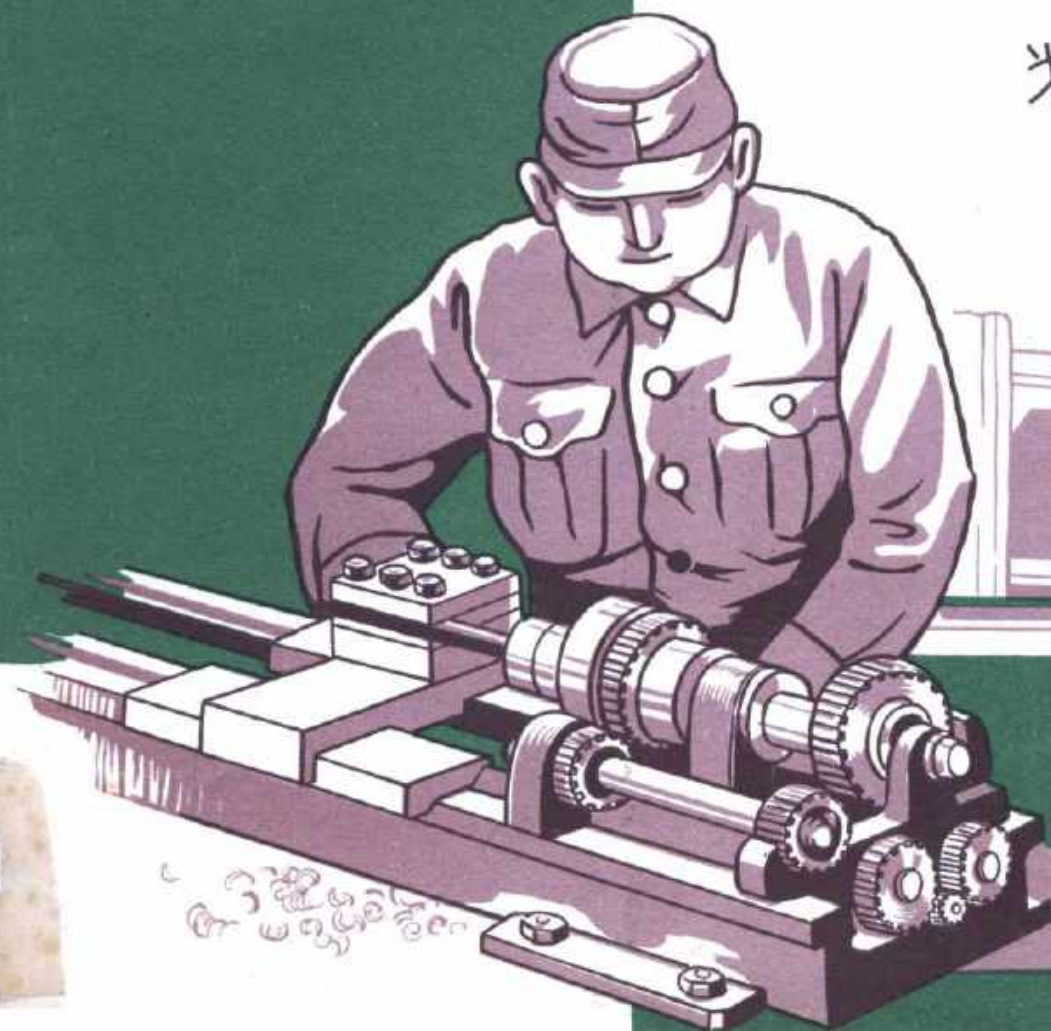


8B-2
年少労働調査資料
第15集

小企業に働く年少者

◆ 金属及機械器具製造業 ◆

第1部 事業場調査 第2部 個人調査



労働省婦人少年局

1951年12月

は し が き

小企業の労働形態を特色づけているものの一つは、多数の年少労働者が雇用されていること、その労働条件の好ましくないことであると、いわれてきた。

たとえば、労働基準法の適用状況にかんする諸統計資料をみても、小企業に雇用されている年少労働者の比重はいちじるしく重し、労働基準法の違反の件数もこの部に圧倒的に多い。

このように、小企業は年少労働者と切れない縁があり、また深刻な問題をもつとも多く含んでいる。したがって、年少労働保護の重点の一つはこの部面におかれねばならず、もしもこれが盲点となる場合は、年少労働保護の全貌が盲目になるにもひとしい。

ところが、小企業にたいして、その経済対策とおなじく労働対策の重要さも、かねてから注目されており、これら諸対策の基礎的資料として、小企業の労働実態を把握するために幾度も調査もころみられ、信頼できる若干の貴重な資料もすでに世にあきらかにされている。

しかし、それらは概して一般的な労働問題あるいは成人労働者の問題の観点からとりあつかわれているものが多く、もつばら年少労働問題の視野からとりあげられているものはきわめて少く、あつてもそれは部分的なものか、少数のケースの調査にすぎない。そこで、われわれは、もつばら年少労働問題の観点から、小企業に働く年少者の労働実態の把握をこころみたくである。

小企業の中でも、産業別にみれば、繊維工業にもつとも多くの問題がふくまれて

いると従来からみられていたが、その産業労働の性別構成からみて、そこに働く年少者の問題は女子労働問題の一環としてとりあつかうこともできるので、こゝではおもに男子年少労働者の労働実態を把握するために、この調査の対象として、金属工業および機械器具工業をえらんだわけである。

いまで行われた諸調査の結果からみると、小企業の労働形態の特性を、一般的に次のように要約することができよう。

第一に雇用の動的であること。第二に労働条件の不合理的であること、すなわち労働賃金の不安定、労働時間の不定なことなど。第三に労働環境の不備であることすなわち機械設備の不完全、安全衛生管理の不備そして福祉厚生施設の貧弱なことなど。第四に労働関係の封建的であること、すなわち労働契約の不明確、旧徒弟制度の濃厚な残存そして労働の非組織的であること、などである。このような諸要素は、とくに年少者の労働の中にその特性がいちじるしくあらわれていることが、この調査の結果を通じてはつきりと読みとることができるであろう。

われわれは、この調査の結果が、やがて、小企業に働く年少者の労働の状態を改善向上し、またそれを通じて、小企業自身の経営も改善発展されるための手がかりになることを期待しながら、この報告を世におくるしだいである。

なお、この調査にあたつては早稲田大学教育学部赤堀教授指導のもとに同大学学生の援助を煩はしたことを附記する。

目 次

第 一 部

事業場調査の報告

一 調査の目的	1
二 調査の方法	1
三 調査の結果	6
A 一般的事項調査	6
I 労働者数	6
II 平均年齢	8
B 雇用状況調査	8
III 雇用の推移	8
IV 年少労働者の雇用経路	10
C 労働条件調査	10
V 労働時間	10
VI 休日休暇制度	13
VII 賃金	17
VIII 厚生施設	32
IX 余暇利用のための施設および活動	34
X 年少労働者の職場指導	35
XI 労働組合	35

第 二 部

個人調査の報告

一 調査の方法	36
二 調査の結果	40
A 労働条件調査	40
I 基本事項	40
II 身上に関する事項	42
III 業務に関する事項	53
IV 労働条件に関する事項	64
B 余暇生活調査	87

第 一 部

一 調査の目的

小企業——金属及機械器具製造業——に従事している年少労働者の雇用状況、労働条件、労働環境および労働余暇施設等に関する実態を把握して、一般年少労働保護の対策の樹立や運営のための基礎資料とするのがこの調査の目的である。

なお、第二部の「個人調査」とは密接な関聯があるので、是非とも併読されるよう希望する。

二 調査の方法

1. 調査の基本期日 昭和 26 年 1 月末の賃金〆切日

2. 調査の期間 昭和 26 年 3 月中

3. 調査対象

東京労働基準局管轄内における金属および機械器具製造工業のうちから、次のような方法によつて対象をえらんだ。

(1) 東京都内の金属及び機械器具製造工業の事業場数は、東京労働基準局（1949 年 12 月現在）に提出された適用事業場名簿によると、金属工業は 3,963 事業場、機械器具工業は 9,521 事業場である。

此の中 50 人未満の事業場は金属工業は 3,801 事業場、機械器具工業は 9,009 事業場で、合計 12,810 事業場である。

そこで今回の調査事業場数を、この約 1% にあたる 100 事業場とした。

(2) 次にこの 100 事業場の規模別割合を次の通りに定めた。

すなわち 12,810 事業場の中 10 人未満の事業場は 8,784 事業場、10 人以上

50 人未満の事業場は 4,026 事業場で、その比率は約 2.2 対 1 であるので、規模別の事業場数を 70 事業場と 30 事業場とした。

(3) 次に規模別に定められた事業場を産業別に定めると次の通りである。

10 人未満の 8,784 事業場の中金属工業は 2,705 事業場で、機械器具工業は 6,079 事業場で、その比率は約 1 対 2.2 である。

10 人以上 50 人未満の 4,026 事業場の中、金属工業は 1,096 事業場、機械器具工業は 2,930 事業場で、その比率は約 1 対 2.6 である。

そこで 10 人未満の事業場は金属工業を 20 事業場、機械器具工業を 50 事業場とし、10 人以上 50 人未満の事業場は前者を 10 事業場、後者を 20 事業場とした。

(4) 地域分布は各監督署の管轄事業場数の多い順に番号を付し、その中より奇数番号を抽出して、対象地域とした。

(5) 以上の抽出方法によつて対象事業場を選定したが、急激な社会的経済変動によつて転業や廃業したもの、あるいは所在不明のものも多数あつたので、実際上は抽出された事業場の中、10 人未満の事業場は 31%、10 人以上 50 人未満の事業場は 87% しか把握されなかつた。そこで更に事業場を附加して調査したがい小企業ほど上記のような傾向が著しいので、企画された規模別事業場数の比は逆の結果となつた。すなわち実際に調査した事業場は 10 人未満の 22 事業

規 模 別 事 業 場 数

産業別	規 模 別		
	計	10人未満	10人以上 50人未満
計	93	22	71
機械器具工業	58	11	47
金 属	35	11	24

場、10 人以上 50 人未満の 71 事業場（1 対 3）である。そして産業別事業場数は金属工業 35 事業場、機械器具工業 58 事業場である。

「参考」

調査地域別事業場数

監督 署別	地区別	産業別	規模別				事業場数			
			予定した事業場数		実際に調査した事業場数		10人未満		10人以上 50人未満	
			10人未満	10人以上 50人未満	10人未満	10人以上 50人未満	10人未満	10人以上 50人未満		
			金属	機械	金属	機械	金属	機械	金属	機械
品川監督署	品川区、目黒区		3	15	1	6	3	5	5	8
向島 "	墨田区、葛飾区		6	7	2	2	3	1	5	3
中央 "	中央区、千代田区、大島、小笠原島、三宅島、八丈島		2	7	1	3	—	1	1	5
三田 "	港区		2	6	1	2	—	3	2	10
渋谷 "	渋谷区、世田谷区		1	5	1	2	—	1	4	7
板橋 "	板橋区、練馬区、豊島区		1	3	1	2	1	—	1	3
中野 "	中野区、杉並区		1	2	1	1	2	—	1	5
亀井戸 "	江戸川区、江東区		4	5	2	2	2	—	5	6
合 計			20	50	10	20	11	11	24	47

なお、産業中分類別による調査事業場数は次の通りである。

産業中分類別調査事業場数

機械器具製造業

(算用数字は産業分類番号による)

62 機械製造業 計 18 事業場

精密測定工具製造業 2
印刷機製造部品製造業 2
換気扇風機製造業 1
内燃機関製造業 2
金属工作機械製造業 5
繊維機械部品製造業 2
コンベヤー装置製造業 1
衝 撃 製 造 業 1
旋 盤 製 造 業 1
銅山機械製造業 1

63 電線及ケーブル製造業 計 1 事業場
被覆電線製造業 1

64 電気機械器具製造業 計 21 事業場

配電盤製造業 2
積算電力計製造業 1
無線電信機部品製造業 7
電流計製造業 1
ラジオ用コイル製造業 1
配線器具製造業 4
抵抗器製造業 1
変圧器製造業 1
乾電池製造業 1
蓄電池製造業 1
交換機製造業 1

65 自動車及附属品製造業 計 6 事業場
自動車部品及塗装業 6

67 鉄道車輛及附属品製造業 計 6 事業場

機関車部品製造業 6

68 自転車部品製造業 計 1 事業場

自転車部品製造業 1

70 専門機械、理化学用機械、計 10 事業場

測器、調整器、写真器械、
光学機械及時計製造業

プロメーター製造業 1
理化学用器具製造業 2
眼鏡レンズ製造業 4
映写機製造業 2
現象タンク現象機械製造業 1

74 その他の製造業 計 1 事業場

ボタン製造業 1

合 計 58 事業場

金属工業

第一次金属製造業

58 金属製錬、圧延、合金、鍛造
及鋳造業 計 14 事業場

1 鉛圧延伸錬業 1
2 鋅伸錬製造業 2
3 鋅物製造業 2
4 鉄鋼伸錬製造業 7
5 鋼 管製造業 1
6 鋼鋳造所製造業 1

金属製品製造業

61 その他の金属製品製造業 計 21 事業場

1 メ ッ キ 業 4
2 螺 子 製 造 業 2
3 ボイラー製造業 1
4 パ ネ 製 造 業 1
5 板 金 加 工 業 1
6 ボルト、ナット製造業 4
7 製 罐 業 3
8 金属プレス製造業 3
9 押出チューブ製造業 1
10 バケツ製造業 1

合 計 35 事業場

4. 調査項目及び調査票の様式 35

年少労働者実態調査

※記号
整理番号調査期間
自 月 日
至 月 日
調査者

A 一般的事項調査

1 産業の種類 (日本標準産業分類の 分類の小分類)	3 事業場名
2 主要生産品 の名称	4 所在地
5 事業場一般 的事項	創業年月 年 月 戦後復興時期 昭和 年 月 事業場の面積 (坪) 事業場 (坪) 作業場 (坪)
6 労働者数	17才 16才 15才 15才未満 男 女 男 女 男 女 男 女 年少労働者数
イ 常用労働者数	計 男 女 計 男 女 計 男 女 計 男 女 事業場内 事業場外 事業場内 事業場外 事業場内 事業場外 事業場内 事業場外
ロ 臨時労働者数	計 男 女 計 男 女 計 男 女 計 男 女 事業場内 事業場外 事業場内 事業場外 事業場内 事業場外 事業場内 事業場外
7 年少労働者の証明書交付	平均年齢 平均年齢 平均年齢 平均年齢 8 年少労働者の雇用経路

整理番号

B 雇用状況調査

9 雇用推移 イ 年度別推移	数 年月 1945年 1946年 1947年 1948年 1949年 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	総計	男	女	10 年少労働者の雇用経路 イ 公共職業安定所 ロ 営利的紹介人 ハ 学校 ニ 縁故 ホ 事業場直接 ヘ その他 備考
ロ 月別推移 (1950年)					
ハ 月別推移 (1951年)					

事業主に対する調査

I 余暇利用の為の施設、設備に関する事項

1 教養娯楽施設

- 図書室 ○集会の出来る部屋 ○教養娯楽のための諸設備 ○楽器
○その他() 名称と数量()

2 体育施設

- 運動場 ○プール ○運動用具 名称と数量()

II 余暇利用の活動状態に関する事項

3 数 養 組 楽

- 文化的集会 ○新聞図書館の購入 ○機関紙の発行 ○その他()
内容()回数(一月に、一年に)()
経費負担者()主催()

4 體育活動

- 運動会 ○諸競技会 ○その他()
内容()回数(一月に、一年に)()
経費負担者()主催()

III 年少労働者の職場指導、訓練に関する事項

5 技能習熟の為にどんな方法でどの位の期間指導しますか。

4 指導方法

- 基準法による技能養成
- 基準法外の指導（同業者と共同して指導する（どう云う係の人が）
単独で指導する（どう云う係の人が））
- 特に指導しない

17 結合式複合詞

- ☐ 永続的
☐ 1~3 日間
☐ 1 週間
☐ 一定期間

八、習熟態度

- 実際に仕事をしながら習う
- 事業場の仕事(生産)とは関係なく指導訓練のみ行う

IV 組合に関する事項

- 組合はありますか
☐ 有り(主な活動
☐ 無し

調査の結果

A 一般的事項調查

1 勞働者数

(1) 総労働者に対する年少労働者の構成比について

第1表 産業別年齢別労働者数

區 分		總 數	年 少 勞 動 者 數	17歲	16歲	15歲	15歲未滿
產 業 別	性 別						
合 計	計	2140	386	195	144	41	6
	男	1706	298	149	105	36	5
	女	434	88	46	36	5	1
機 械	計	1336	248	126	101	18	3
	男	1092	193	97	78	15	3
	女	244	55	29	23	3	0
金 屬	計	804	138	69	43	23	3
	男	614	105	52	30	21	2
	女	190	35	17	13	2	1

前記の調査目的と方法によつて把握した労働者数は、2,140 名(男子 1,706 名、女子 434 名)で、その産業別労働者数は、機械器具工業 1,336 名(男子 1,092 名、女子 244 名)、金属工業 804 名(男子 614 名、女子 190 名)である。此の中年少労働者数は 386 名(男子 298 名、女子 88 名)で、総数の約 18% に当る。此の構成比は、昭和 22 年度臨時国勢調査結果による工業部門の 12.5% よりも高くなっている。

次に産業別にその構成比をみると、機械器具工業は 18.6%，金属工業は 17.0% である。

又性別について比較すれば、男子総数に対する男子年少者の割合は 17.5% 女子は 19.7% である。産業別にみると、機械器具工業の男子年少者の割合は 17.8%、

第2表 産業別性別年少労働者数比率

産業別	区分		総数	年少労働者
	性別			
合 計	計		100	18.0
	男		100	17.5
	女		100	19.7
機 械	計		100	18.6
	男		100	17.8
	女		100	21.9
金 属	計		100	17.0
	男		100	17.1
	女		100	16.8

女子 21.9%，金属工業の男子年少者の割合は 17.1%，女子 16.8% である。

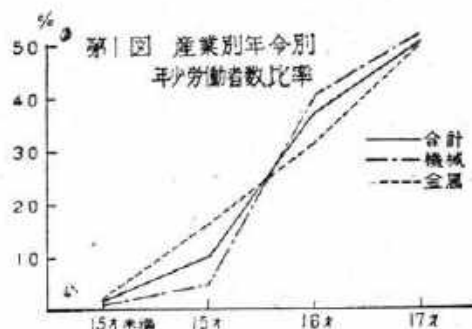
(2) 性別、年齢別、年少労働者数

年少労働者数は前述した通り 386 名で、その男女別比率は、男子 78% に対し女子は 22% である。これを産業別にみると、機械器具工業は男子 78%、女子 22% で、金属工業は男子 77%、女子 23% であり産業別による差異は殆んどみられない。参考に 1950 年 4 月に婦人少

年局で行った電球・真空管製造業に働く年少労働者の男女別構成比は、男子 27.9% に対し、女子 72.1% であった。

第3表 産業別性別年齢別年少労働者数比率

産業別	年齢別		年少労働者数	17歳	16歳	15歳	15歳未満
	性別						
合 計	計		100	50.5	37.3	10.6	1.6
	男		100	50.0	36.2	12.1	1.7
	女		100	52.2	40.9	5.7	1.2
機 械	計		100	52.2	40.8	5.7	1.3
	男		100	50.4	40.5	7.9	1.2
	女		100	52.7	41.8	5.5	0
金 属	計		100	50.0	31.2	16.7	2.1
	男		100	49.5	28.6	20.0	1.9
	女		100	51.5	39.4	6.1	3.0



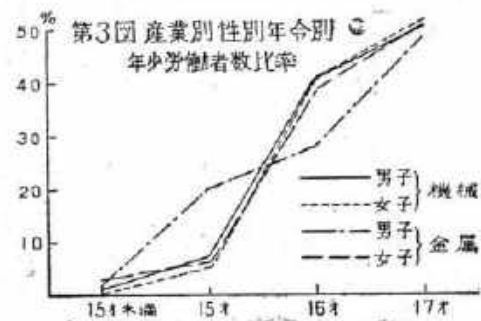
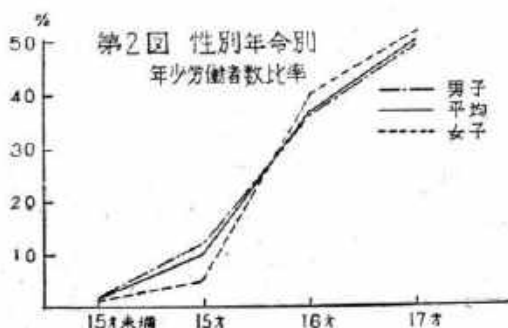
次に年齢別構成について比較すると、17歳 50.5%、16歳 37.3%、15歳 10.6%、15歳未満 1.6% である。

性別については、17歳と16歳はそれぞれ 2.2%、4.7% づつ男子より女子の方が比率は高く、15歳、15歳未満はそれぞれ 6.4%、0.5% づつ男子の方が高くなっている。

なお本調査で臨時労働者の占める割合は総数の 2.2% にすぎず、その性別は男子 1.8%、女子 2.7% である。（ここで云う臨時労働者とは、各事業場に定める個々の雇入規定による基準に従ったものである）。

以上労働者数について概況を述べたが、主な点を纏括すると次のとおりである。

(1) 総労働者に対する年少労働者の割合は 18



%である。

(2) 産業別に年少労働者の占める割合は、機械器具工業は 18%，金属工業は 17% となっている。

(3) 年少労働者の性別構成比は、男子 78%，女子 22% であり、女子の方がはるかに少ない。

又産業別の差は殆んどみられない。

(4) 年齢別については、17 歳が大半を占め、16 歳は 37% である。但し、15 歳未満が 1.6% みうけられた。

II 平均年齢

第 4 表 産業別平均年齢

平均年齢は、総数では 28.6

産業別	性別	計		
		計	男	女
総数		28.6	28.1	27.1
機械		28.0	28.5	25.2
金属		29.0	29.6	30.7

歳で、このうち、男子は、28.1 歳女子は 27.1 歳であり、産業別には金属工業の方が高い。参考に労働大臣官房労働

統計調査部、昭和 24 年、個人別賃金調査結果（30 人以上の事業場より抽出した）による産業別平均年齢は、金属工業 31.4 歳（男 32.2 歳、女 25.4 歳）機械器具工業 30.6 歳（男 31.8 歳、女 24.3 歳）となっている。これと本調査の性別平均年齢と比較した場合、女子の平均年齢が、はるかに高い事は注目される。

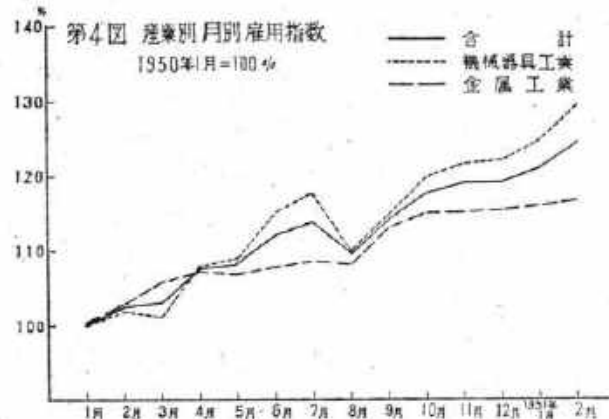
B 雇用状況調査

III 雇用推移

総労働者の推移についてのべると 1950 年 1 月を 100% として月別の雇用推移をみると、3 月までに 3.2% 上昇し、それより、6 月の朝鮮事変をさかいに 7 月までに 10.7% 増加し、8 月に 4.4% 減少しているが、9 月以後再び増加の傾向を示し 1951 年 2 月末には、9 月から約 15% の上昇率となっている。

第 5 表 産業別性別月別雇用指数

区分 月別	総数			機械			金属		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
1950年 1月	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2	102.4	104.4	93.9	102.0	104.0	93.3	102.8	105.0	94.7
3	103.2	103.7	101.2	101.3	102.0	98.3	105.8	106.1	104.6
4	107.6	108.1	105.4	107.7	108.2	105.5	107.4	108.0	105.2
5	108.1	108.8	105.1	108.9	109.7	105.5	106.8	107.4	104.6
6	112.2	115.1	100.3	115.3	118.7	100.0	107.8	109.8	100.6
7	113.9	115.9	105.7	117.8	120.9	103.8	108.4	108.5	107.8
8	109.5	114.7	87.9	109.8	119.2	67.4	108.1	108.1	112.5
9	114.3	115.3	110.2	114.9	118.2	100	113.1	111.0	122.3
10	117.8	118.2	116.2	119.8	122.7	106.6	115.0	111.6	127.6
11	119.0	119.1	118.3	121.6	124.2	109.9	115.2	111.6	128.2
12	119.2	118.9	120.4	121.8	123.6	113.8	115.5	112.0	128.2
1951年 1月	121.3	121.3	121.3	124.9	126.3	118.2	116.2	113.8	125
2	124.5	124.6	123.1	129.8	131.3	122.6	116.9	115.0	123.6



これを産業別にみると、機械器具工業は 3 月までに 1.3% 増加、それより 7 月までには 16.5% の急増を示し、8 月に 8.0% 減少したが 9 月より 1951 年

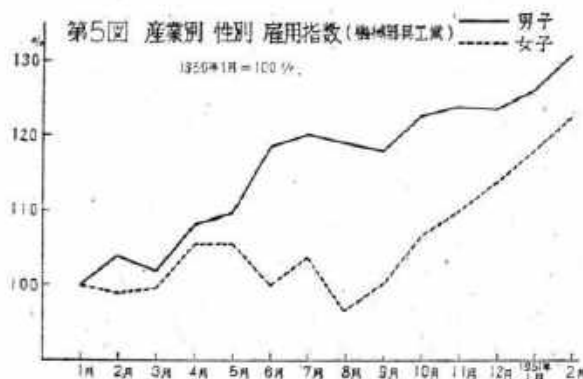
2 月末まで 20 % に増加している。

金属工業は 3 月末までの増加は 5.8 % で、機械器具工業より相対的に上廻っていたが、7 月までの増加率は僅か 2.6 % にすぎず、9 月以後の上昇率も、1951 年 2 月までに 8.8 % でとどまっている状態である。

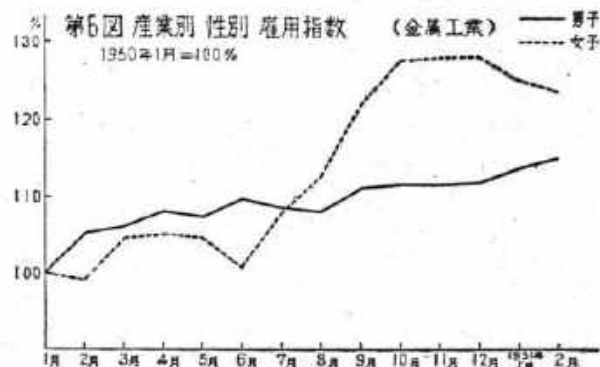
従つて全体の傾向としては 7 月の朝鮮事変をさかいとして 1951 年 1 月から漸次増加を示し、8 月には僅かの減少をみせたが 9 月より再び増加の傾向をたどっている。

産業別についてとくに注目される相違は機械器具工業が 8 月から 1951 年 2 月までに 20 % 増加しているのに対し、金属工業に於ては僅か 8.8 % にすぎないという点であり、従つて金属工業の方が増加率は相対的に僅少である。

更に男女別に比較すると、機械器具工業に於ては、7 月までに男子は 20.9 % 増加したが、8 月から 9 月にかけて 2.7 % 減少し、10 月より再び漸次増加し、1951 年 2 月末には約 13.1 % の増加となつている。これに対し女子は 5 月に 5.5 % 増加



したが、その後、8 月には 38.1 % の急減をみせ、9 月より漸次上昇の傾向をたどり、1951 年 2 月末までに 55.2 % の増加となつている。



金属工業の男子は全体的にあまり増減はなく、1951 年 2 月末までの増加率は 15 % である。これに対し、女子は 4 月までに 5.2 % の増加、6 月に 4.6 % 減少しそれより 10 月までの間に 27 % の急増をみせ 12 月までやや平穩を保ちその後 1951 年 2 月には 4.6 % 減少している。従つて金属工業の場合は、男子に比して女子の方がはるかに増加率は高い事を意味しているものである。

以上述べた事は労働者全体についての推移である。年少労働者のみの推移については、年齢が満 18 歳に達したために年少労働者でなくなつたものも相当含まれているなどによつて、その把握が非常に困難なので、本調査には除外する事にした。

以上の結果より 1950 年度における経済的、社会的変動が明白に雇用推移の上に現われているが、更に主な点を要約すれば次のとおりである。

- (1) 7 月の朝鮮動乱まで漸次雇用指数は上昇し、8 月に減少したが 9 月以降 1951 年 2 月末まで再び上昇傾向をたどっている。
- (2) 産業別にみると、機械器具工業は 9 月より 1951 年 2 月末までに 20 % 増加しているが、金属工業は僅かに 8.8 % である。
- (3) 男女別については機械器具工業の男子は、7 月までに 20.9 % 増加し、8 月

から 9 月にかけて僅かの減少をみせたが、再び 10 月より 1951 年 2 月末までに 13.1 % 増加している。

女子は 5 月まで漸次増加の傾向を示していたが、8 月に 38.1 % 急減し、9 月より 1951 年 2 月末までには 55.2 % の増加となつている。

金属工業の男子は 1951 年 2 月末までに 15 % の増加率を示めすのみである。これに対し女子は、1 月より漸次増加していたが、6 月より 10 月までに 27 % の

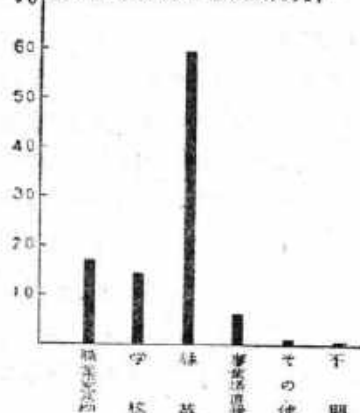
急激な増加率を示し、12 月より 1951 年 2 月末までに 4.6 % 減少している。従つて、女子労働力の方が、男子労働力に比して変動が非常に大きい事を現わしている。この点については、1949 年の電球・真空管製造工業実態調査においても年少労働者の雇用推移の変動がいろいろの事が立証されているが、年少労働者と女子労働者の現社会における社会的基盤の関連性を現わしているものとして、非常に興味深い点である。

IV 年少労働者の雇用経路

第 6 表 産業別雇用経路別年少労働者数

産業別	合 計		職業安定所		営利的紹介人		学 校		緑 故		事業場直接		そ の 他		不 明	
	実 数	%	実 数	%	実 数	%	実 数	%	実 数	%	実 数	%	実 数	%	実 数	%
合 計	386	100	66	17.2	—	—	56	14.5	229	59.2	26	6.7	6	1.6	3	0.8
機 械	248	100	57	23.0	—	—	36	14.5	145	58.3	4	1.6	3	1.3	3	1.3
金 属	138	100	9	6.5	—	—	20	14.5	84	60.0	22	15.9	3	2.1	0	—

第 7 図 雇用経路別年少労働者数比率



雇用経路については、緑故が最高で全体の殆んど大半以上を占め、次が安定所の 17.2 %、学校 14.5 % の割合になつている。先に行つた電球真空管製造工業の場合は職業安定所が 61.2 % で、緑故は 23.7 % であったのに比較すれば注目される事実である。

産業別についてとくに注目される大きな相違はみられないが、職業安定所からという者が機械器具工業 23 % に対し、金属工業は僅か 6.5 % であり、事業場直接という

以上の諸点で明らかな事は、緑故関係が金属および機械器具工業ともに多いという点で、これは小企業に多くみられる一つの特徴とも云われるべき形態であろう。

C 労働条件調査

V 労働時間

1. 拘束時間

拘束時間について事業場別に比較すれば、8 時間 21.5 %、8 時間 30 分 25.8 %、9 時間 49.5 %、9 時間 30 分 3.2 % となつている。

産業別については、機械器具工業は 8 時間 24.1 %、8 時間 30 分 32.8 % で両者合算すると 56.9 % で、全体の大半以上を占め、9 時間は 41.4 % となつている。これに対し、金属工業は 8 時間 17.1 %、8 時間 30 分 14.3 % で両者を合算すると 31.4 % にすぎず、9 時間は 62.9 % の多くを占めている。

者が機械器具工業は僅か 1.6 % に対し、金属工業は 15.9 % となつている。

第7表 産業別拘束時間別事業場数

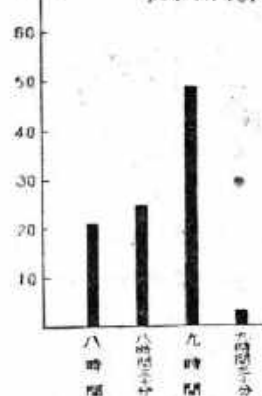
時間別 産業別			合 計	8.00 時間	8時間30分	9.00 時間	9時間30分
合	合	計	93	20	24	46	3
計	機	械	58	14	19	24	1
	金	属	35	6	5	22	2
10人未満	合	計	19	2	3	13	1
	機	械	10	—	2	8	—
	金	属	9	2	1	5	1
10人以上	合	計	74	18	21	33	2
	機	械	48	14	17	16	1
	金	属	26	4	4	17	1

第8表 産業別拘束時間別事業場比率

時間別 産業別			合 計	8.00 時間	8時間30分	9.00 時間	9時間30分
合	合	計	100	21.5	25.8	49.5	3.2
計	機	械	100	24.1	32.8	41.4	1.7
	金	属	100	17.1	14.3	62.9	5.7
10人未満	合	計	100	10.5	15.8	68.5	5.2
	機	械	100	—	20.0	80.0	—
	金	属	100	22.2	11.1	55.5	11.2
10人以上	合	計	100	24.4	28.4	44.5	2.7
	機	械	100	29.2	35.4	33.4	2.0
	金	属	100	15.4	15.4	65.3	3.9

又規模別にみると、10人未満の事業場の場合は9時間が68.5%、9時間30分は5.2%となっているが、10人以上50人未満の事業場の場合は9時間44.5%、

第8図 拘束時間別事業場数比率
9時間30分2.7%となっており、規模別の相違を現わしている。



第9表 規模別産業別実働労働時間別事業場数

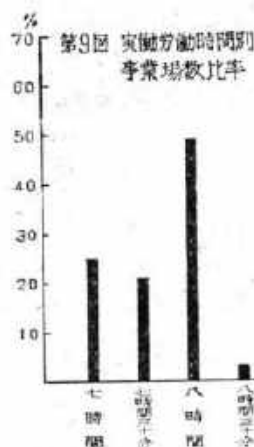
時間別 産業別			合 計	7.00 時間	7時間30分	8.00 時間	8時間30分
合	合	計	93	24	20	46	3
計	機	械	58	16	16	25	1
	金	属	35	8	4	21	2
10人未満	合	計	19	1	5	12	1
	機	械	10	—	3	7	—
	金	属	9	1	2	5	1
1050人未満	合	計	74	23	15	34	2
	機	械	48	16	13	18	1
	金	属	26	7	2	16	1

第10表 規模別産業別実働労働時間別事業場比率

時間別 産業別			合 計	7.00 時間	7時間30分	8.00 時間	8時間30分
合	合	計	100	25.8	21.5	49.5	3.2
計	機	械	100	27.6	27.6	43.1	1.7
	金	属	100	22.9	11.4	60.0	5.7
10人未満	合	計	100	5.3	26.3	63.1	5.3
	機	械	100	—	30.0	70.0	—
	金	属	100	11.2	22.2	55.4	11.2
1050人未満	合	計	100	31.1	20.3	45.9	2.7
	機	械	100	33.4	27.0	37.5	2.1
	金	属	100	26.9	7.7	61.5	2.9

2. 実働労働時間

次に就業規則やそれに類する事業場の定めに現われている実働時間について比較す



れば、7 時間 25.8 %、7 時間 30 分 21.5 %、8 時間 49.5 %、8 時間 30 分 3.2 % となつてゐる。

産業別については、機械器具工業は 7 時間 27.6 %、7 時間 30 分 27.6 %、8 時間 43.1 %、8 時間 30 分 1.7 % である。これに対し金属工業は 7 時間 22.9 %、7 時間 30 分 11.4 %、8 時間 60 %、8 時間 30 分 5.7 % となつてゐる。

更に規模別については、10 人未満の事業場の場合は 7 時間 5.3 %、7 時間 30 分 26.3 %、8 時間 63.1 % で、8 時間 30 分は 5.3 % (金属工業関係のみ) となつてゐる。これに比して 10 人以上 50 人未満の事業場の場合

は 7 時間 31.1 %、7 時間 30 分 20.3 %、8 時間 45.9 % で、8 時間 30 分は 2.7 % である。8 時間 30 分は労働基準法第 32 条一（使用者は、労働者に休憩時間を除き 1 日について 8 時間、1 週間について 48 時間を超えて労働させてはならない）の規定より上回る労働時間である。

3. 休 憩 時 間

事業場の定めに基いている休憩時間についてみると、1 時間のものは 58.1 %、次は 45 分の 22.5 % で、それについて 30 分の 12.9 %、1 時間 30 分 4.3 %、1 時間 15 分 2.2 % の順となつてゐる。

休憩 1 時間を超えて 1 時間 30 分までの事業場は、10 人未満の事業場では 78.5 % で、10 人以上 50 人未満の事業場では 60.9 % である。休憩 30 分については 10 人未満の事業場は 0 %、10 人以上 50 人未満事業場は 16.2 % となつており、休憩 45 分の事業場を合すると、10 人未満 21.5 %、10 人以上 50 人未満 39.1 % となつてゐる。

この結果によると、相対的には 10 人未満の事業場の方が休憩時間が長い事にな

第11表 規模別産業別休憩時間別事業場数

時間別 産業別			合 計	30 分	45 分	1 時間	1 時間 15分	1 時間 30分
合 計	合 計	機 械 属	93	12	21	54	2	4
	機 械 属	金 属	58	7	17	30	1	3
	金 属		35	5	4	24	1	1
10 人 未 満	合 計	機 械 属	19	—	4	14	—	1
	機 械 属	金 属	10	—	2	7	—	1
	金 属		9	—	2	7	—	—
1050 人 以 上	合 計	機 械 属	74	12	17	40	2	3
	機 械 属	金 属	48	7	15	23	1	2
	金 属		26	5	2	17	1	1

第12表 規模別産業別休憩時間別事業場比率

時間別 産業別			合 計	30分	45分	1 時間	1 時間 15分	1 時間 30分
合 計	合 計	機 械 属	100	12.9	22.5	58.1	2.2	4.3
	機 械 属	金 属	100	12.1	29.3	51.7	1.7	5.2
	金 属		100	14.3	11.5	68.6	2.8	2.8
10 人 未 満	合 計	機 械 属	100	—	21.5	73.6	—	4.9
	機 械 属	金 属	100	—	20.0	70.0	—	10.0
	金 属		100	—	22.2	77.8	—	—
1050 人 以 上	合 計	機 械 属	100	16.2	22.9	54.1	2.7	4.1
	機 械 属	金 属	100	14.6	31.3	47.9	2.1	4.1
	金 属		100	19.3	7.7	65.4	3.8	3.8

つてゐる。

以上規定上の労働時間について述べてきたが、総括すると次の諸点となる。

- (1) 拘束時間については 8 時間を超えて 8 時間 30 分までは 47.3 %、9 時間

は 49.5% である。

この規模別相違は、9 時間については 10 人未満の事業場は 68.5% で、10 人以上 50 人未満の事業場の場合は 44.5% であり、9 時間 30 分の場合は、10 人未満の事業場は 5.2% に対し、10 人以上 50 人未満の事業場は 2.7% である。従つて 10 人未満の事業場の方が 10 人以上 50 人未満の事業場より相対的に拘束時間は長時間である。

(2) 実働時間については 8 時間以下は 96.8% であるが、8 時間 30 分が 3.2% みられる。

8 時間 30 分について事業場規模別にみれば、10 人未満の事業場では 5.3%、10 人以上 50 人未満の事業場では 2.7% である。

(3) 休憩時間については、最高 1 時間 30 分であつて、45 分は 22.5%、45 分未満は 12.9%、1 時間は 58.1%、それ以上は 6.5% である。

Ⅶ 休日休暇制度

1 年次有給休暇制度

事業場の就業規則に類するものの年次有給休暇制度の有無別についてみると、「制度なし」の事業場は全体の 33.4% を占めている。

更にこの「制度なし」の事業場を規模別にみると、10 人未満の事業場の場合は

第13表 産業別規模別年次有給休暇有無別事業場数

産業別	区分	合 計			10 人 未 満			10人以上50人未満		
		合計	制度あり	制度なし	合計	制度あり	制度なし	合計	制度あり	制度なし
実 数	合 計	93	62	31	22	9	13	71	53	18
	機 械	58	40	18	11	5	6	47	35	12
	金 属	35	22	13	11	4	7	24	18	6
%	合 計	100	66.6	33.4	100	41.0	59.0	100	74.7	25.3
	機 械	100	68.9	31.1	100	45.5	54.5	100	74.5	25.5
	金 属	100	62.8	37.2	100	36.4	63.6	100	75.0	25.0

59.0% で大半を占め、10 人以上 50 人未満の事業場の場合は 25.3% で 4 分の 1 を占めている。

産業別については金属工業の 10 人未満の事業場の場合は 63.6%、10 人以上 50 人未満の場合は 25%、機械器具工業の 10 人未満の事業場の場合は 54.5%、10 人以上 50 人未満の事業場は 25.5% となつてゐる。

年次有給休暇制度については労働基準法で規定されている最低の労働条件を保障する制度であるにもかかわらず、今回の調査においても 33.4% の事業場はこの制度の規定がないのであり、しかも 10 人未満の零細企業の場合はその大半が占められている。又利用率はこれよりはるかにひくいものとみられるが、明確な資料はえられなかつた。

2 生理休暇制度

第14表A 産業別規模別生理休暇制度有無別事業場数

産業別	区分	合 計	制 度 あ り			制 度 な し		
			計	10人未満	10人以上50人未満	計	10人未満	10人以上50人未満
計		93	48	4	44	45	18	27
機 械		58	29	2	27	29	9	20
金 属		35	19	2	17	16	9	7

第14表B 産業別生理休暇制度有無別事業場数比率

産業別	区分	合 計	制度あり	制度なし
合 計		100%	51.6%	48.4%
機 械		100	50.0	50.0
金 属		100	54.2	45.8

同じく生理休暇制度の有無について比較すると、「制度有」の事業場は 51.6% 「制度無」の事業場は 48.4% である。但し此の中には、女子従業員の全く就業していない事業場が全体の 33% 含まれている。

次に規模別に有無状態を比較すれば、10 人未満の事業場に於ては「制度有」の

第15表 規模別生理休暇制度有無別事業場数及比率

区分			計	制度有	制度無	計	制度有	制度無
規模別	産業別							
10人未満	合計		22	4	18	100%	18	82
	機械		11	2	9	100	18	82
	金属		11	2	9	100	18	82
10人以上	合計		71	44	27	100	62	38
	機械		47	27	20	100	57	33
	金属		24	17	7	100	71	29

「参考」第16表 女子従業員就業率無事業場

10人未満	合計	(68%) 15
	機械	7
	金属	8
10人以上	合計	(23%) 16
	機械	13
	金属	3

事業場は 18 % で、82 % の事業場は制度を持っていない。但し女子従業員の全く就業していない事業場が 68 % を占めているので、この制度の無いことが重要な意味をもっている事業場の比率は、これよりもやや低くなるはずである。

次に 10 人以上 50 人未満の事業場については 38 % の事業場が制度を有していない。但しこの

中にも 23 % の事業場は女子従業員が就業していない事業場であつた。

第17表 産業別規模別生理休暇有給制無給制別事業場数

規模別		合計	10人未満			10人以上50人未満		
産業別	区分		合計	有給	無給	合計	有給	無給
合計	計	48	4	2	2	44	35	9
機械	械	29	2	2	0	27	22	5
金属	属	19	2	0	2	17	13	4

次に「制度有」の事業場のみについて生理休暇の有給制、無給制を比較すると、有給制は 77 %、無給制は 23 % である。

第18表 産業別生理休暇有給制無給制別事業場数比率

区分		合計	有給	無給
産業別				
合計	計	100	77	23
機械	械	100	83	17
金属	属	100	68	32

此の規模別は 10 人未満の事業場に於ては、有給無給は 50 % づい、10 人以上 50 人未満の事業場に於ては有給制は 79.6 % である。

3 年末年始休暇制度

年末年始休暇日数についての比較は

第19表 規模別産業別年末年始休暇日数別事業場数

日数別		合計	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	不明
規模別	産業別										
合計	計	93	4	21	24	24	10	4	2	1	3
	機械	58	4	13	16	14	6	2	1	—	2
	金属	35	—	8	8	10	4	2	1	1	1
10人未満	計	22	1	3	3	6	3	2	2	1	1
	機械	11	1	1	3	4	1	—	1	—	—
	金属	11	—	2	—	2	2	2	1	1	1
10人以上	計	71	3	18	21	18	7	2	—	—	2
	機械	47	3	12	13	10	5	2	—	—	2
	金属	24	—	6	8	8	2	—	—	—	—

5 日、6 日の各両日が 25.8 % で、次は 4 日の 22.6 % となつており、僅か 3 日間が 4.3 % であるにひきかえ 7 日以上が 18.3 % を占めている。その中で特に 9 日間および 10 日間の休暇制度をもつ事業場が 3.2 % あり、これが、いづれも 10 人未満の事業場であることは注目される。

規模別については 10 人未満の事業場は 7 日以上 10 日までが 36.4 % であるが、10 人以上 50 人未満の事業場は 12.7 % である。

又 4 日以下の場合は 10 人未満の事業場 18.2 %、10 人以上 50 人未満の事業場 29.6 % の傾向を示している。

第20表 規模別産業別年末年始休暇日数別事業場数比率

日数別		合 計 %	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	不明
規模別	産業別										
合 計	計	100	4.3	22.6	25.8	25.8	10.8	4.3	2.1	1.1	3.2
	機 械	100	6.9	22.4	27.6	24.2	10.4	3.4	1.7	—	3.4
	金 属	100	—	22.8	22.6	28.6	11.4	5.7	2.9	2.9	2.9
10人未満	計	100	4.6	13.6	13.6	27.3	13.6	9.1	9.1	4.6	4.5
	機 械	100	9.1	9.1	27.2	36.4	9.1	—	9.1	—	—
	金 属	100	—	18.2	—	18.2	18.2	9.1	9.1	9.1	—
10人以上 50人未満	計	100	4.2	25.4	29.5	25.4	9.9	2.8	—	—	2.8
	機 械	100	6.4	25.5	27.7	21.3	10.6	4.2	—	—	4.2
	金 属	100	—	25.0	33.3	33.3	8.4	—	—	—	—

産業別については機械器具工業は7日以上が15.5%、4日以下が29.3%、金属工業は7日以上が22.9%、4日以下は22.8%となっており、産業別による明白な相違はみられない。(金属工業の方に10日間の休暇がみられた。)

4 国民祝祭日休暇制度

第21表 規模別産業別国民祝祭日休暇日数別事業場数

日数別		合 計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	なし
規模別	産業別										
合 計	合 計	93	3	1	4	12	2	—	3	18	50
	機 械	58	1	1	2	8	2	—	3	12	29
	金 属	35	2	—	2	4	—	—	—	6	21
10人未満	合 計	22	—	—	—	4	—	—	—	3	15
	機 械	11	—	—	—	4	—	—	—	1	6
	金 属	11	—	—	—	—	—	—	—	2	9
10人以上 50人未満	合 計	71	3	1	4	8	2	—	3	15	35
	機 械	47	1	1	2	4	2	—	3	11	23
	金 属	24	2	—	2	4	—	—	—	4	12

第22表 規模別産業別国民祝祭日休暇日数別事業場数比率

日数別		合 計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	なし
規模別	産業別										
合 計	計	100	3.2	1.1	4.3	12.9	2.1	—	3.2	19.3	53.9
	機 械	100	1.7	1.7	3.4	13.9	3.4	—	5.2	20.7	50.0
	金 属	100	5.7	—	5.7	11.4	—	—	—	17.2	60.0
10人未満	計	100	—	—	—	18.1	—	—	—	13.7	68.2
	機 械	100	—	—	—	36.4	—	—	—	9.1	54.5
	金 属	100	—	—	—	—	—	—	—	18.2	81.8
10人以上 50人未満	計	100	4.2	1.4	5.6	11.3	2.8	—	4.2	21.1	49.4
	機 械	100	2.1	2.1	4.3	8.5	4.3	—	6.4	23.4	48.9
	金 属	100	8.3	—	8.3	16.7	—	—	—	16.7	50.0

国民祝祭日は1年に9日間あるが、元日休暇制度については前述したのでそれを除いた8日の国民祝祭日休日制度についてのべる。

本調査による結果としては元日以外の国民祝祭日は休まないという事業場の方が多い状態である。以下比較してみるならば「休暇無」の事業場が53.9%で大半以上を占め、さらにこれを規模別にみると、10人未満の事業場は68.2%、10人以上50人未満の事業場の場合は49.4%で経営規模の大小による相違をあらわし、又、産業別については機械器具工業50%に対し金属工業60%であり、ここにもわずかな違いをみせている。

次に休暇日数別を見ると、8日間休み事業場は19.3%、7日という事業場が3.2%、5日のみの事業場は2.1%となっており、4日が12.9%である。又3日以下は8.6%である。これを規模別に比較すると8日については10人未満の事業場は13.7%、10人以上50人未満の事業場は21.1%、5日以上7日まで10人未満の事業場0%、10人以上50人未満の事業場7%である。3日以下については10人未満の事業場0%に対し10人以上50人未満の事業場は11.2%である。産業別については8日は機械器具工業20.7%、金属工業17.2%、5日以

上 7 日まででは前者 8.6 %、後者 0 %、3 日以下前者 6.8 % に対し後者 11.4 % である。

4 やぶ入休暇制度

第23表 規模別産業別(1月)やぶ入休暇日数別事業場数

規模別	産業別		日数別	合 計	1 日	2 日	3 日	なし
	機械	金属						
合 計	計			93	14	12	1	66
	機械	金属		58	9	6	1	42
	機械	金属		35	5	6	—	24
10人未満	計			22	3	8	—	11
	機械	金属		11	2	3	—	6
	機械	金属		11	1	5	—	5
10人以上 50人未満	計			71	11	4	1	55
	機械	金属		47	7	3	1	36
	機械	金属		24	4	1	—	19

第24表 規模別産業別(1月)やぶ入休暇日数別事業場数比率

規模別	産業別		日数別	合 計	1 日	2 日	3 日	なし
	機械	金属						
合 計	計			100	15.0	12.9	1.1	71.0
	機械	金属		100	15.5	10.3	1.7	72.5
	機械	金属		100	14.3	17.1	—	68.6
10人未満	計			100	13.6	36.4	—	50.0
	機械	金属		100	18.2	27.3	—	54.5
	機械	金属		100	9.0	45.5	—	45.5
10人以上 50人未満	計			100	15.5	5.6	1.4	77.5
	機械	金属		100	14.9	6.4	2.1	76.7
	機械	金属		100	16.7	—	4.2	79.1

最も古い休日制度の一つとして、いわゆる「やぶ入」というのがあるが特に零細企業に多くみられるので、今回の調査の中にもこの項目を加えたのである。又この

休日を 1 月の場合と 7 月の場合と分けたのは古くからこの様なしきたりがあつた為である。

この休日制の有無別についてみると、1 月の場合は「制度有」が 29.0 % であり、これを、さらに規模別にみると、10 人未満の事業場は 50 %、10 人以上 50 人未満の事業場は 22.5 % である。産業別による大差は明白でない。

次に休日日数については 1 日が 15.0 %、2 日 12.9 %、3 日 1.1 % である。規模別は 10 人未満は 2 日が最も多いが、10 人以上 50 人未満の場合は 1 日が最も多い。

第25表 規模別産業別(7月)やぶ入休暇日数別事業場数

規模別	産業別		日数別	合 計	1 日	2 日	3 日	4 日	なし
	機械	金属							
合 計	計			93	20	13	5	1	54
	機械	金属		58	13	7	3	—	35
	機械	金属		35	7	6	2	1	19
10人未満	計			22	3	4	2	1	12
	機械	金属		11	3	1	—	—	7
	機械	金属		11	—	3	2	1	5
10人以上 50人未満	計			71	17	9	3	—	42
	機械	金属		47	10	6	3	—	28
	機械	金属		24	7	3	—	—	14

次に 7 月に行われるやぶ入制度について比較すると、制度を有する事業場は 42.0 % となつており、これをさらに規模別にみると 10 人未満の事業場は 45.5 %、10 人以上 50 人未満の事業場は 40.8 % であつて、1 月の場合の 22.5 % よりやや多い。

次に日数については 1 日 21.5 %、2 日 14.0 %、3 日 5.4 %、4 日 1.1 % である。(4日は金属工業 1 件である)これを規模別にみると 10 人未満の事業場の場合は 2 日間が最も多く、10 人以上 50 人未満の場合は 1 日が最高である。4 日間というのは 10 人未満の企業である。なお、その他メーカーに休む事業場 19 %、

第26表 規模別産業別(7月)やぶ入休暇日数別事業場数比率

規模別	産業別	日数別					
		合計	1日	2日	3日	4日	なし
合計	計	100	21.5	14.0	5.4	1.1	58.0
	機械	100	22.4	12.1	5.2	—	60.3
	金属	100	20.0	17.1	5.7	2.9	54.3
10人未満	計	100	13.6	18.2	9.2	4.5	54.5
	機械	100	27.3	9.1	—	—	63.6
	金属	100	—	27.3	18.1	9.1	45.5
10人以上 50人未満	計	100	23.9	12.7	4.2	—	59.2
	機械	100	21.3	12.8	6.4	—	59.6
	金属	100	29.2	12.5	—	—	58.3

(機械器具工業 19%, 金属工業 20%) 会社創立記念日休日 15% (機械器具工業 19%, 金属工業 8.6%) があつた。

以上年末年始休暇制度, 国民祝祭日休暇制度, やぶ入休暇制度等の週休制以外の休日制についてのべて来たが, 明白に規模別による相違が現われている事は注目に値するものである。

以上の主な点をあげると, 次の諸点である。

(1) 年次有給休暇制度については「制度無」の事業場は 33.4% である。

その規模別は 10 人未満の事業場は 59.0%, 10 人以上 50 人未満の事業場は 25.3% である。

(2) 生理休暇制度については, 「制度無」が 48.4% である。

この規模別内訳は 10 人未満の事業場は 82%, 10 人以上 50 人未満の事業場は 38% である。

次に「制度有」の事業場について, 有給制, 無給制を比較すると無給制は 23% である。

その規模別は 10 人未満の事業場は, 有給, 無給制両者とも半数づつであり,

10 人以上 50 人未満の事業場の無給制は 20.4% である。

(3) 年末年始休暇制度については 4 日以下は 26.9% 5 日と 6 日はそれぞれ 25.8% 7 日以上は 18.3% である。(不明 32% あり) 特に 9 ~ 10 日間の休日をもつ事業場については注目される。

7 日以上 10 日までの休日制をもつ事業場の規模別の比較は 10 人未満の事業場は 36.4%, 10 人以上 50 人未満の事業場は 12.7% である。

又 4 日以下の場合には 10 人未満の事業場 18.2% に対し, 10 人以上 50 人未満の事業場は 29.6% となつている。

(4) 国民祝祭日休暇制度については「年末年始の休暇の他は休暇無し」の事業場は 53.9% を占め, この規模別は 10 人未満の事業場 68.2%, 10 人以上 50 人未満の事業場 49.4% である。

(5) やぶ入休日制度については, 1 月の場合には 29% が制度を有し, 7 月の場合には 42% となつている。この規模別は, 前者は 10 人未満の事業場 50%, 10 人以上 50 人未満の事業場 22.5% である。後者の場合は 10 人未満の事業場 45.5%, 10 人以上 50 人未満の事業場 40.8% である。日数は最高 4 日までである。

Ⅶ 賃金

第27表A 産業別賃金支払制度別事業場数及び比率

産業別	区分	合計					
		時間給	日給	月給	不明		
実数	合計	93	11	54	14	14	14
	機械	58	10	30	9	9	9
	金属	35	1	24	5	5	5
比率	合計	100	11.7	58.1	15.1	15.1	15.1
	機械	100	17.3	51.7	15.5	15.5	15.5
	金属	100	2.9	68.5	14.3	14.3	14.3

1 支払制度

工員の賃金の支払制度について比較すると, 日給制が大半を占めている。次が月給制の 15.1% 時間給の 11.7% である。但し日給制, 又は月給制であつ

第27表B 産業別賃金支払制度別事業場数及び比率

産業別		区 分		合 計	差引く	差引かない	不 明
		合 機	計 械				
実 数	合 機	93	65	22	6		
	計 械	58	36	17	5		
		35	29	5	1		
比 率	合 機	100	75.8	23.6	0.6		
	計 械	100	60.4	31.0	8.6		
		100	84.0	13.0	3.0		

第28表 産業別賃金支払回数別事業場数及び比率

産業別		区 分		計	1 回	2 回	3 回	不 定	不 明
		合 機	計 械						
実 数	合 機	93	73	18	2	—	—	—	—
	計 械	58	49	9	—	—	—	—	—
		35	24	9	2	—	—	—	—
比 率	合 機	100	78.5	19.4	2.1	—	—	—	—
	計 械	100	84.5	15.5	—	—	—	—	—
		100	68.6	25.7	5.7	—	—	—	—

業場が 78.5%，2 回に分割するという事業場は 19.4% 3 回分割 2.1% である。但し実際には会社側納入金の関係で遅配されたり，月 3，4 回に分割されたりする事もあるという点は調査上明らかとなつた。

3 現 金 給 与

(1) 平 均 日 額

第 29 表に示されている通り，総労働者（成人労働者を含む）2,051 名（不明の者 38 名を除く）について，平均日額を算出すると 325 円（男子 353 円女子 205 円）である。

産業別にみると機械器具工業 334 円，金属工業 309 円となつている。

ても 30 分以上の遅刻，早退等の場合は給与を差引くという事業場が 69.9%（機械器具工業 62%，金属工業 83%）を占めている。

2 賃金支払回数

次に給料の支払回数について調べると，月 1 回に支払うという事

第29表 産業別性別総労働者現金給与総額及び平均日額

産業別 性別		区 分				現金給与総額	平 均 日 額
		実 働 人員数	延出勤 日 数	延 実 働 時 間 数	延 実 働 時 間 数		
合 計	計	2,051	50,774	410,448	16,481,989	325	
	男女	1,630	40,935	314,058	14,465,029	353	
		421	9,838	96,390	2,016,960	205	
機 械	計	1,252	30,659	252,724	10,253,154	334	
	男女	1,021	25,450	194,130	9,078,530	357	
		231	5,209	58,594	1,174,624	325	
金 属	計	792	20,115	157,724	6,228,835	309	
	男女	609	15,486	119,928	5,386,499	348	
		183	4,629	37,796	842,336	181	

第30表 産業別性別年少労働者現金給与総額及び平均日額

産業別 性別		区 分				現金給与総額	平 均 日 額
		実 働 人員数	延出勤 日 数	延 実 働 時 間 数	延 実 働 時 間 数		
合 計	計	343	8,064	63,323	1,355,337	168	
	男女	263	6,288	49,308	1,070,677	170	
		80	1,776	14,015	284,660	160	
機 械	計	219	5,059	39,340	842,268	166	
	男女	168	3,972	30,855	661,961	167	
		51	1,087	8,485	180,307	166	
金 属	計	124	3,005	23,983	513,069	170	
	男女	95	2,316	18,453	408,716	176	
		29	689	5,530	104,353	151	

次に年少労働者の平均日額を算出すれば，総労働者平均日額の約半額の 168 円（男子 170 円，女子 160 円）で，その産業別平均日額は機械器具工業 166 円（男子 167 円，女子 166 円）金属工業 170 円（男子 176 円，女子 151 円）である。年齢別に比較すれば，17 歳平均日額は 178 円で（男子 184 円，女子 160 円）産業別にみると機械器具工業 176 円（男子 180 円，女子 165 円）金属工業 182

第31表A 産業別性別年齢別 現金給与総額及び平均日額(17歳)

区分 産業別 性別		17 歳				
		実働 人員数	延出勤 日数	延実働 時間数	現金給与 総額	平均日額
合	計	181	4,149	32,683	742,403	178
計	男女	137	3,134	24,608	579,521	184
		44	1,015	8,075	162,882	160
機	計	113	2,441	19,067	431,344	176
械	男女	86	1,841	14,342	332,186	180
		27	600	4,725	99,158	165
金	計	68	1,708	13,616	311,059	182
属	男女	51	1,293	10,266	247,335	191
		17	415	3,350	63,724	154

第31表B 産業別性別年齢別 現金給与総額及び平均日額(16歳)

区分 産業別 性別		16 歳				
		実働 人員数	延出勤 日数	延実働 時間数	現金給与 総額	平均日額
合	計	132	3,257	25,730	529,788	162
計	男女	100	2,586	20,472	416,914	161
		32	671	5,258	112,874	168
機	計	91	2,305	17,982	372,348	161
械	男女	70	1,882	14,696	297,583	158
		21	423	3,286	74,765	176
金	計	41	952	7,748	157,440	161
属	男女	30	704	5,776	119,331	169
		11	248	1,972	38,109	153

円(男子191円,女子154円)である。16歳平均日額は162円(男子161円,女子166円)機械器具工業161円(男子158円,女子176円)金属工業161円(男子169円,女子153円)となっている。

15歳については,132円(男子136円,女子100円)機械器具工業127円(男子136円,女子100円)金属工業135円(男子135円,女子0円)である。

第31表C 産業別性別年齢別 現金給与総額及び平均日額(15歳)

区分 産業別 性別		15 歳				
		実働 人員数	延出勤 日数	延実働 時間数	現金給与 総額	平均日額
合	計	24	526	3,914	69,231	132
計	男女	21	462	3,440	62,847	136
		3	64	474	6,384	100
機	計	12	250	1,847	31,762	127
械	男女	9	186	1,373	25,378	136
		3	64	474	6,384	100
金	計	12	276	2,067	37,469	135
属	男女	12	276	2,067	37,469	135
		—	—	—	—	—

第31表D 産業別性別年齢別 現金給与総額及び平均日額(15歳未満)

区分 産業別 性別		15 歳 未 満				
		延実働 人員数	延出勤 日数	延実働 時間数	現金給与 総額	平均日額
合	計	6	132	996	13,915	105
計	男女	5	106	788	11,395	108
		1	26	208	2,520	97
機	計	3	63	444	6,814	108
械	男女	3	63	444	6,814	108
		—	—	—	—	—
金	計	3	69	552	7,101	101
属	男女	2	43	344	4,581	106
		1	26	208	2,520	96

15歳未満の分については平均日額105円(男子108円,女子97円)機械器具工業108円(男子108円,女子0円)金属工業101円(男子106円,女子96円)である。

以上の通り平均日額については,年齢別による相違及び性別による相違が明白に現われている。参考までに昭和25年5月真空管製造業及び電球製造業の調査

第32表 産業別性別現金給与不明労働者数

区分		総労働者	年少労働者	17歳	16歳	15歳	15歳未満
産業別	性別						
	計男女						
合計	計	38	19	9	8	16	—
	男女	30 8	16 3	9 —	6 2	15 1	— —
機械	計	36	17	9	7	6	—
	男女	30 6	16 1	9 —	6 1	6 —	— —
金属	計	2	2	—	1	10	—
	男女	— 2	— 2	— —	— 1	9 1	— —

の賃金額をあげてみる。勿論今回の調査との期間的ずれ及びその間の社会的経済的情勢変化にともなう賃金額の上昇率等を合せ対照さるべきものであるが、それに関する充分な資料がないので、昨年の調査結果そのままを述べておく。調査対象の中、99人未満の小企業事業場の平均日額は、総労働者は253円で、年少労働者は136円であつた。この年齢別の平均日額は17歳～135円、16歳～125円、15歳～107円となつている。なほ、総労働者平均日額に対する年少労働者の平均日額の比率は、今回の調査の場合は51%、電球真空管工業の場合は63%である。

現金給与が不明で、調査集計されなかつた労働者数は第32表の通りである。

(2) 平均月額

現金給与総額を実働人員数に除して1ヶ月平均給与を算出すると、総労働者平均月額は8,036円、年少労働者3,951円(男子4,071円、女子3,558円)である。年少者の年齢別平均月額はい7歳～4,102円、16歳～4,014円、15歳～2,885円、15歳未満～2,319円である。

産業別については機械器具工業総平均月額8,189円、年少者3,846円、金属工業総平均月額7,865円、年少者4,138円である。

第33表 産業別性別年齢別平均月額

区分		総数	年少者	17歳	16歳	15歳	15歳未満
産業別	性別						
	計男女						
合計	計	8,036円	3,951円	4,102円	4,014円	2,885円	2,319円
	男女	8,874 4,791	4,071 3,558	4,230 3,702	4,169 3,527	2,993 2,128	2,279 2,520
機械	計	8,189	3,846	3,817	4,092	2,647	2,271
	男女	8,892 5,085	3,940 3,535	3,663 3,673	4,251 3,560	2,820 2,128	2,271 —
金属	計	7,865	4,138	4,574	3,840	3,122	2,367
	男女	8,845 4,603	4,302 3,598	4,850 3,748	3,978 3,464	3,122 —	2,291 2,520

参考までに労働省基準局で昭和25年5月の小企業(29人以下)個人別賃金結果をあげてみると次の通りである。すなわち機械器具工業5,931円、金属工業6,028円となつている。更に年齢別の平均月額を産業別に比較すると機械器具工業は17歳～3,170円、16歳～2,694円、15歳～2,268円、15歳未満～2,112円である。金属工業については17歳～3,140円、16歳～2,830円、15歳～2,419円、15歳未満～2,818円となつている。この調査に比較すれば、今回の調査結果に現われた給与額の方がやや高額となつているが、この調査との时期的条件を加味して考えなければならぬ。

(3) 平均出勤日数及び平均実働時間数

なほ参考までに以上支給額に対する労働力提供平均出勤日数及び平均一日実働時間数を算出しておく。1ヶ月平均出勤日数は総労働者平均24.8日、年少者22.5日、機械器具工業総平均24.5日、年少者20.7日、金属工業総平均25.4日、年少者22.6日となつている。

一日実働時間数は総平均7.68時間、年少者7.85時間で、産業別にみれば機械器具工業総平均7.84時間、年少者7.78時間、金属工業総平均7.84時間、年少者

第34表 産業別性別年齢別平均出勤日数

区 分		総数	年 少 労働者	17歳	16歳	15歳	15歳未満
産業別	性別						
合 計	計	24.8日	22.5日	22.9日	24.7日	21.9日	22.0日
	男	25.1	22.5	22.9	25.9	22.0	21.2
	女	23.4	22.5	23.1	21.0	21.3	26.0
機 械	計	24.5	20.7	21.6	25.4	20.8	21.0
	男	24.9	22.7	21.4	26.9	20.7	21.0
	女	22.5	21.8	22.2	20.2	21.3	—
金 属	計	25.4	22.6	25.1	23.2	23.0	23.0
	男	25.4	22.3	25.4	23.5	23.0	21.5
	女	25.3	23.8	24.4	22.5	—	26.0

第35表 産業別性別年齢別平均1日労働時間数

区 分		総数	年 少 労働者	17歳	16歳	15歳	15歳未満
産業別	性別						
合 計	計	7.68時	7.85時	7.88時	7.63時	7.44時	7.55時
	男	7.67時	7.84時	7.85時	7.92時	7.45時	7.43時
	女	9.80	7.89	7.96	7.64	7.41	8.00
機 械	計	7.84	7.73	7.81	7.80	7.39	7.05
	男	7.63	7.77	7.79	7.81	7.38	7.05
	女	10.84	7.81	7.88	7.77	7.41	—
金 属	計	7.84	7.98	7.97	7.74	7.49	8.00
	男	8.74	7.97	7.94	7.81	7.49	8.00
	女	8.77	7.62	7.67	7.95	—	8.00

7.98 時間となっている。

(4) 賃金階級別分布状況

次に個人別賃金調査表にもとづく 386 名 (男子 298 名, 女子 88 名) の平均日額賃金分布について述べる。

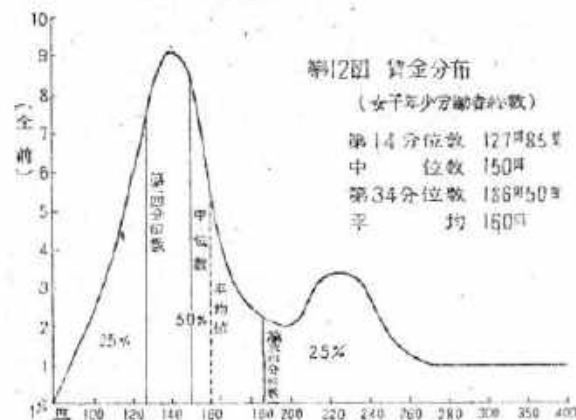
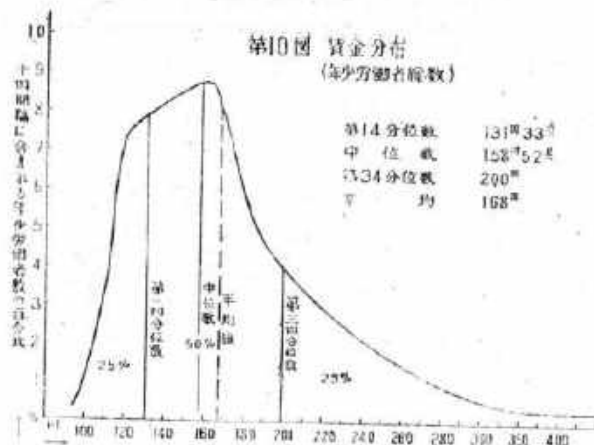
これによると 160 円附近に於て最も密集しており, それより賃金が高くなるに従い分布が徐々に疎になり, それより賃金が高くなるに従い急激に疎になる分布を

第36表 産業別性別賃金階級別年少労働者数

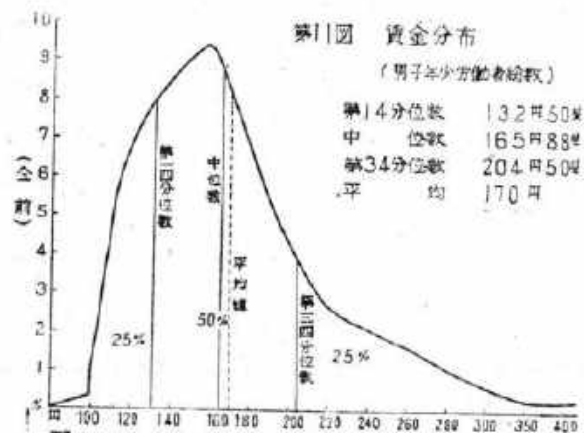
産業別 賃金階級別	合 計			機 械			金 属		
性別	計	男	女	計	男	女	計	男	女
100円未満	9	1	2	1	—	1	2	1	1
110 "	20	15	5	12	8	4	8	7	1
120 "	29	24	5	14	19	5	5	5	—
130 "	29	22	7	23	17	6	6	5	1
140 "	30	22	8	22	20	2	8	2	6
150 "	30	22	8	21	18	3	9	4	5
160 "	34	28	6	24	19	5	10	9	1
170 "	21	17	4	11	9	2	10	8	2
180 "	16	15	1	13	13	—	3	2	1
190 "	24	14	10	17	10	7	7	4	3
200 "	19	18	1	13	12	1	6	6	—
210 "	11	10	1	7	6	1	4	4	—
220 "	12	8	4	3	3	—	9	5	4
230 "	15	12	3	9	7	2	6	5	1
240 "	8	8	—	2	2	—	6	6	—
250 "	11	10	1	7	6	1	4	4	—
260 "	6	5	1	5	4	1	1	1	—
270 "	5	5	—	4	4	—	1	1	—
280 "	2	2	—	1	1	—	1	1	—
290 "	1	1	—	—	—	—	1	1	—
300 "	5	3	2	2	—	2	3	3	—
310 "	7	6	1	6	5	1	1	1	—
400 "	1	1	—	1	1	—	—	—	—
400円以上	1	1	—	1	1	—	—	—	—
不 明	46	28	18	19	8	11	27	20	7
合 計	386	298	88	248	193	55	138	105	33

なしている。即ち平均賃金は 168 円でそれより低い賃金の者が全体の 50.8%, 高い賃金の者が 37.3% を占めている。第一四分位数, 中位数及び第三四分位数を求めると夫々 131 円 33 銭, 158 円 52 銭, 200 円である。

男女別分布をみると, 第一四分位数, 中位数, 第三四分位数は男子 132 円 50 銭, 165 円 88 銭, 204 円 50 銭, 女子は 127 円 85 銭, 150 円, 186 円 50 銭 ある



第37表 産業別性別賃金階級別年少労働者数百分率



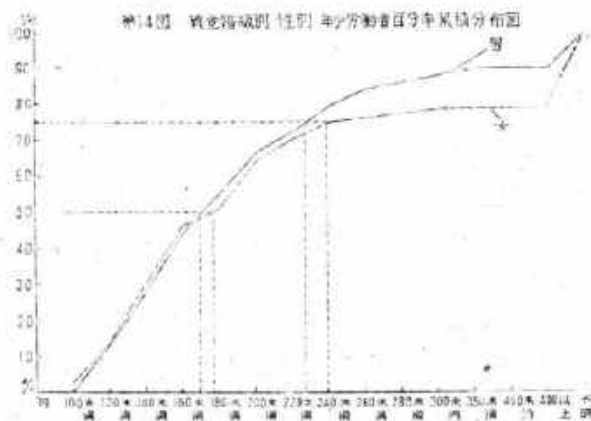
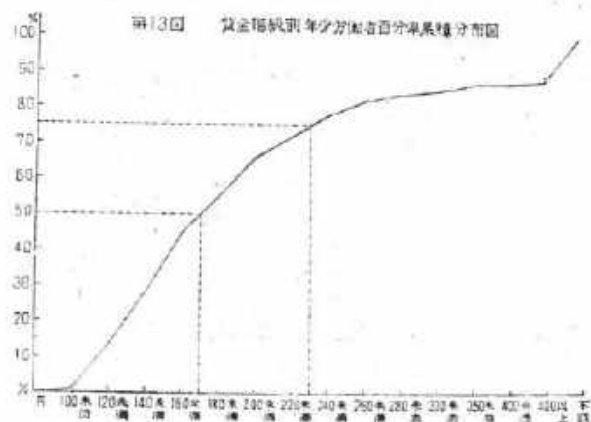
産業別 賃金階級別	合 計			機 械			金 属		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
100円未満	0.8	0.3	2.3	0.4	—	1.8	1.4	1.0	3.0
110 "	5.2	5.0	5.7	4.8	4.2	7.3	5.8	6.6	3.0
120 "	7.5	8.0	5.7	9.7	9.8	9.1	3.6	4.8	6.1
130 "	7.5	7.4	8.0	9.3	8.8	10.9	4.4	4.8	15.2
140 "	7.8	7.4	9.1	8.9	10.4	3.6	5.8	1.9	6.1
150 "	7.8	7.4	9.1	8.5	9.3	5.5	6.5	3.8	15.2
160 "	8.8	9.4	6.8	9.7	9.8	9.1	7.2	8.6	3.0
170 "	5.4	5.7	4.6	4.5	4.7	3.6	7.2	7.6	12.1
180 "	4.2	5.0	1.1	5.2	6.7	—	2.2	1.9	6.1
190 "	6.2	4.7	11.4	6.9	5.2	12.7	5.1	3.8	3.0
200 "	4.9	6.1	1.1	5.2	6.2	1.8	4.4	5.7	6.1
210 "	2.8	3.4	1.1	2.8	3.1	1.8	2.9	3.8	—
220 "	3.1	2.7	4.6	1.2	1.6	—	6.5	4.8	—
230 "	3.9	4.0	3.4	3.6	3.7	3.7	4.3	4.8	—
240 "	2.1	2.7	—	0.8	1.0	—	4.3	5.7	—
250 "	2.8	3.4	1.1	2.5	3.1	1.8	2.9	3.8	—
260 "	1.5	1.7	1.1	2.0	2.1	1.8	0.7	0.9	—

270	〃	1.3	1.7	—	1.6	2.1	—	0.7	0.9	—
280	〃	0.5	0.7	—	0.4	0.5	—	0.7	1.0	—
290	〃	0.3	0.3	—	—	—	—	0.7	1.0	—
300	〃	1.3	1.0	2.3	0.8	—	3.7	2.2	2.8	—
350	〃	1.8	2.0	1.1	2.4	2.6	1.8	0.7	1.0	—
400	〃	0.3	0.3	—	0.4	0.5	—	—	—	—
400円以上	〃	0.3	0.3	—	0.4	0.5	—	—	—	—
不 明		11.9	9.4	20.4	7.7	4.2	20.0	19.8	19.0	21.1
合 計		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

第38表 性別賃金階級別年少労働者百分率累積分布

賃金階級別	性 別			性 別			性 別		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
100円未満	0.8	0.3	2.3	0.4	—	1.8	1.4	1.0	3.0
110	6.0	5.3	8.0	5.2	4.2	9.1	7.2	7.6	6.0
120	13.5	13.3	13.7	14.9	14.0	18.2	10.8	12.4	12.1
130	21.0	20.7	21.7	24.2	22.8	29.1	15.2	17.2	27.3
140	28.8	28.1	30.8	33.1	33.2	32.7	21.0	19.1	33.4
150	36.6	35.5	39.9	41.6	42.5	38.2	27.5	22.9	48.6
160	45.4	44.9	46.7	51.3	52.3	47.3	34.7	31.5	51.6
170	50.8	50.6	51.3	55.8	57.0	50.9	41.9	39.1	63.7
180	55.0	55.6	51.4	61.0	63.7	—	44.1	41.0	69.8
190	61.2	60.3	63.6	67.9	68.9	63.6	49.2	44.8	72.8
200	66.1	66.4	64.9	73.1	75.1	65.4	53.6	50.5	78.9
210	68.9	69.8	66.0	75.9	78.2	67.2	56.5	54.3	—
220	72.0	72.5	70.6	77.1	79.8	—	63.0	59.1	—
230	75.9	76.5	74.0	80.7	83.4	70.9	67.3	63.9	—
240	78.0	79.2	—	81.5	84.4	—	71.6	69.6	—
250	80.8	82.6	75.1	84.3	87.5	72.7	74.5	73.4	—
260	82.3	84.3	76.2	86.3	89.6	74.5	75.2	74.3	—
270	83.6	86.0	—	87.9	91.7	—	75.9	75.2	—
280	84.1	86.7	—	88.3	92.2	—	76.6	76.2	—
290	84.4	87.0	—	—	—	—	77.3	77.2	—
300	85.7	88.0	78.5	89.1	—	78.2	79.5	80.0	—
350	87.5	90.0	79.6	91.5	94.8	80.0	—	81.0	—
400	87.8	90.3	—	91.9	95.3	—	—	—	—
400円以上	88.1	90.6	—	92.3	95.8	—	—	—	—
不 明	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

る。このことは女子の賃金分布が男子に比べて集約的に分布していることを表わしている。



次に月額累積分布についてみる。第13図のグラフにも示されている通り、50%の年少労働者は月額170円以内に含まれており、75%の年少労働者は230円以内にある。男女別については、50%の年少労働者が男子は170円以下に、女子は176円以内にある。又75%の年少労働者は男子228円以内、女子240円以内に含まれている事を示している。但し、給与日額が不明の年少労働者が男子に9.4%、女子に20%あるので、正確な資料になり得なかつた点を附しておく。

(5) 年齢別賃金階級別分布状況

第39表 年齢別産業別性別賃金階級別年少労働者数

賃金階級別			合 計	賃金階級別								不明	
				100円未満	150円未満	200円未満	250円未満	300円未満	350円未満	400円未満	400円以上		
年齢別	産業別	性別											
合 計	合 計	計男女	386 298 88	4 2 2	134 98 36	115 95 20	55 46 9	18 16 2	4 4 —	1 1 —	2 1 1	53 35 18	
	機 械	計男女	248 193 55	1 — 1	90 70 20	82 68 14	24 20 4	7 5 2	4 4 —	1 1 —	2 1 1	37 24 13	
	金 属	計男女	138 105 33	3 2 1	44 28 16	33 27 6	31 26 5	11 11 —	— — —	— — —	— — —	16 11 5	
17 歳	合 計	計男女	195 149 46	2 2 —	47 32 15	66 52 14	39 32 7	16 15 1	2 2 —	1 1 —	1 1 —	21 12 9	
	機 械	計男女	126 97 29	— — —	32 22 10	51 43 8	17 14 3	5 4 1	2 2 —	1 1 —	1 1 —	17 10 7	
	金 属	計男女	69 52 17	2 2 —	15 10 5	15 9 6	22 18 4	11 11 —	— — —	— — —	— — —	4 2 2	
	合 計	計男女	144 108 36	— — —	63 44 19	47 41 6	13 12 1	2 1 1	2 2 —	— — —	1 — 1	16 8 8	

16歳	機械	計男女	101 78 23	— — —	4 37 9	30 24 6	6 6 —	2 1 1	2 2 —	— — —	— — —	1 — —	14 8 6	
	金属	計男女	43 30 13	— — —	17 7 10	17 17 —	7 6 1	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	
	合計	計男女	41 36 5	1 — 1	20 18 2	2 2 —	3 2 1	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	15 14 1	
15歳	機械	計男女	18 15 3	1 — 1	10 9 1	1 1 —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	5 5 —	
	金属	計男女	23 21 2	— — —	10 9 1	1 1 —	2 2 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	10 9 1	
	合計	計男女	6 5 1	1 1 —	4 4 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	
15歳未満	機械	計男女	3 3 —	— — —	2 2 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	
	金属	計男女	3 2 1	1 — —	2 2 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	
	合計	計男女	6 5 1	1 1 —	4 4 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	

第40表 年齢別産業別性別賃金階級別年少労働者数百分率

賃金階級別			合 計	100	150	200	250	300	350	400	400	不明	
				円 未満	円 未満	円 未満	円 未満	円 未満	円 未満	円 未満	円 以上		
年 齢別	業 種別	性 別											
合	合 計	計男女	100	1.0	34.7	29.8	14.3	4.7	1.0	0.3	0.5	13.7	
		計男女	100	0.7	32.9	31.9	15.4	5.4	1.3	0.3	0.3	11.8	
		計男女	100	2.3	40.9	22.7	10.2	2.3	—	—	1.1	20.5	
		計男女	100	0.4	36.3	33.1	9.7	2.8	1.6	0.4	0.8	14.9	
合	機 械	計男女	100	—	36.3	35.2	10.4	2.6	2.1	0.5	0.5	12.4	
		計男女	100	1.8	36.4	25.5	7.3	3.6	—	—	1.8	23.6	
		計男女	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		計男女	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

計	金 属	計 男 女	100 100 100	2.2 1.9 3.0	31.9 26.7 48.5	23.9 25.7 18.1	22.5 24.8 15.2	8.0 10.5 —	— — —	— — —	— — —	11.5 10.5 15.2
17 歳	合 計	計 男 女	100 100 100	1.0 1.3 —	24.1 21.5 32.6	33.9 34.9 30.4	20.0 21.5 15.2	8.2 10.1 2.2	1.0 1.3 —	0.5 0.7 —	0.5 0.7 —	10.8 8.1 19.6
	機 械	計 男 女	100 100 100	— — —	25.4 22.7 34.5	40.5 44.3 27.6	13.5 14.5 10.3	3.9 4.1 3.5	1.6 2.1 —	0.8 1.0 —	0.8 1.0 —	13.5 10.1 24.1
	金 属	計 男 女	100 100 100	2.9 3.8 —	21.7 19.2 29.4	21.7 17.3 35.3	31.9 34.7 23.5	16.0 21.2 —	— — —	— — —	— — —	5.6 3.8 11.8
16 歳	合 計	計 男 女	100 100 100	— — —	43.8 40.7 52.7	32.6 38.0 16.7	9.0 11.1 2.8	1.4 0.9 2.8	1.4 1.9 —	— — —	— — —	11.1 7.4 22.5
	機 械	計 男 女	100 100 100	— — —	45.5 47.4 39.2	29.7 30.7 26.1	5.9 7.7 —	2.0 1.3 4.3	2.0 2.6 —	— — —	— — —	13.9 10.1 26.1
	金 属	計 男 女	100 100 100	— — —	39.5 23.3 76.9	39.5 56.7 —	16.3 20.0 7.7	— — —	— — —	— — —	— — —	4.7 — 15.4
15 歳	合 計	計 男 女	100 100 100	2.4 — 20.0	48.8 50.0 40.0	4.9 5.5 —	7.3 5.5 20.0	— — —	— — —	— — —	— — —	36.2 39.0 20.0
	機 械	計 男 女	100 100 100	5.6 — 33.3	55.4 60.0 33.3	5.6 6.7 —	5.6 — 33.3	— — —	— — —	— — —	— — —	27.8 33.3 —
	金 属	計 男 女	100 100 100	— — —	43.5 42.8 50.0	4.3 4.8 —	8.7 9.6 —	— — —	— — —	— — —	— — —	43.5 42.8 50.0
15 歳 未 満	合 計	計 男 女	100 100 100	16.7 — 100	66.6 80.0 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	16.7 20.0 —
	機 械	計 男 女	100 100 100	— — 33.3	66.7 66.7 66.7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	33.3 33.3 66.7

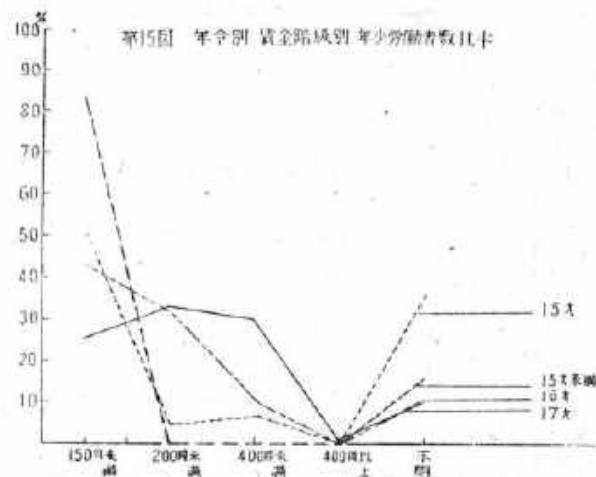
機 械	金 属	計 男 女	100 100 100	33.3 — 100	66.7 100 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
--------	--------	-------------	-------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

次に年齢別に賃金階級分布を比較する。

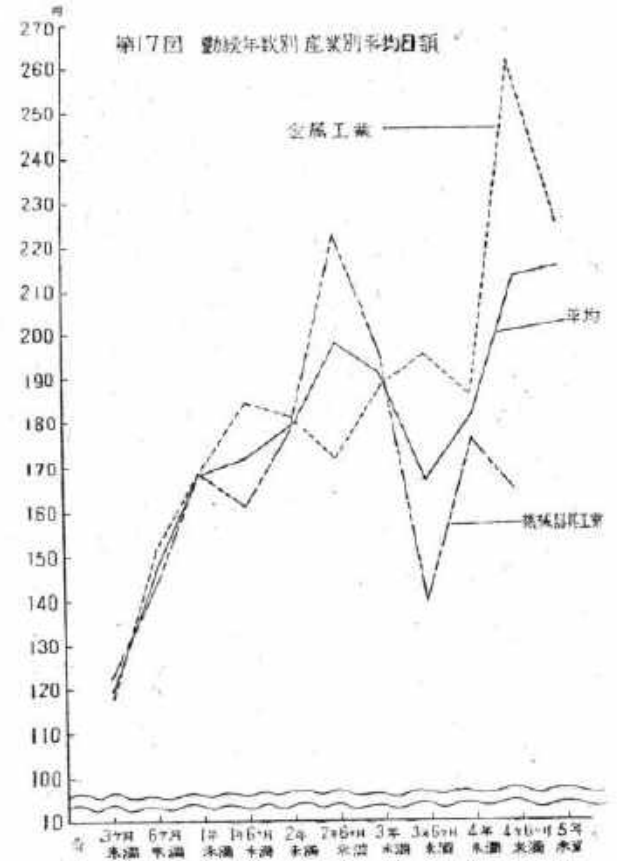
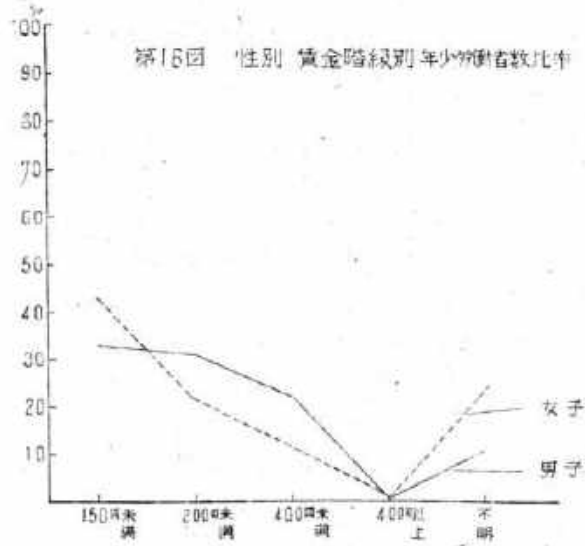
第 15 図に示されている通り、200 円未満に含まれる年少者数は 17 歳は 59%、16 歳 76.4%、15 歳 56.1% (但し不明者が 36% あるのでこの比率に影響されているものと思われる) 15 歳未満 83.3% となつてゐる。又 200 円以上については 17 歳 30.2%、16 歳 11.8%、15 歳 7.3%、15 歳未満 0% である。以上の通り明らかに年齢別に賃金分布状況の相違がみられる。

次に性別による分布状況を比較すると、150 円未満の場合は男子 33.6%、女子 43.2% で、150 円以上は男子 54.6%、女子 36.3% である。(但し不明者が男子のそれより 10% 多いので、その点の影響はあろう。)

以上のように女子の給与の方が男子より相対的に低い事を示している。



(6) 勤続年数別による平均日額



第41表 勤続年数別性別産業別平均日

勤続年数別		産業別	合 計	機 械	金 属
		性別			
合 計	計男女		170円 177 164	168円 164 173	172円 169 153
3 カ月未満	計男女		119 121 118	122 119 125	117 123 112
6 カ月未満	計男女		147 155 140	144 161 128	151 150 153
1 カ年未満	計男女		168 176 161	168 172 165	169 181 158
1年6カ月未満	計男女		172 184 161	161 158 165	184 211 158
2 カ年未満	計男女		179 193 166	178 186 171	181 201 161
2年6カ月未満	計男女		198 243 153	223 286 161	172 200 145
3 年 未 満	計男女		191 215 168	195 232 158	188 198 179
3年6カ月未満	計男女		167 167 —	140 140 —	195 195 —
4 年 未 満	計男女		181 193 162	176 176 —	186 211 162

4年6カ月未満	計男女	196 199 193	165 137 193	168 168 —
5 年 未 満	計男女	225 225 —	— — —	225 225 —
不 明	計男女	119 119 —	— — —	119 119 —

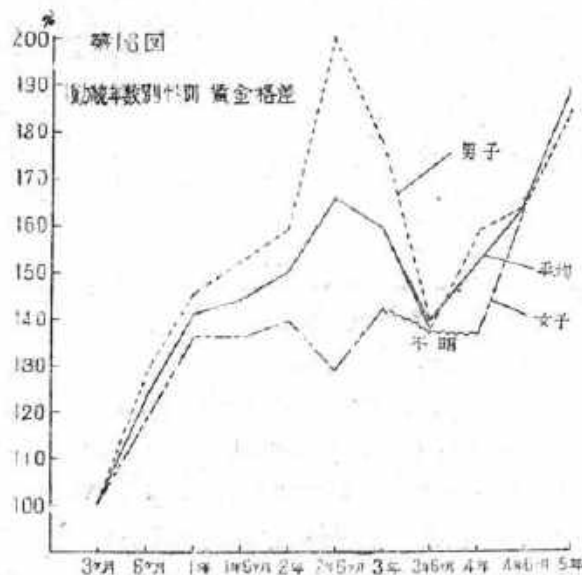
次に勤続年数別による平均日額を比較する。

第 41 表に示される通り、3 カ月未満は 119 円、6 カ月未満は 147 円、1 年未満 168 円、1 年 6 カ月未満 172 円、2 年未満 179 円、2 年 6 カ月未満 198 円となっており、3 年未満、3 年 6 カ月未満はそれぞれ減額で 191 円、167 円となり、4 年未満は 181 円、4 年 6 カ月未満は 196 円、5 年未満 225 円である。

第42表 勤続年数別、性別、賃金格差

勤続年数別		性別	合 計	男	女	機 械	金 属
合 計			142%	146%	138%	137%	147%
3 カ月未満			100	100	100	100	100
6 月 "			123	128	118	118	129
1 年 "			141	145	136	137	144
1年6カ月 "			144	152	136	131	157
2 年 "			150	159	140	145	154
2年6カ月 "			166	200	129	182	147
3 年 "			160	177	142	159	160
3年6カ月 "			140	138	—	114	166
4 年 "			152	159	137	144	158
4年6カ月 "			165	164	163	135	143
5 年 "			189	185	—	—	192

更にこれを賃金格差によつてみると次の通りである。すなわち 3 カ月未満を 100 %とすれば、6 カ月未満は 123% で、1 年未満は 6 カ月未満より 14 % 増加、そ



れより 2 年 6 カ月未満までは、半年毎にそれぞれ約 5 % ~ 6 % の増加額となっている。

3 年 ~ 3 年 6 カ月未満の間は、2 年 6 カ月未満の平均日額より約 26 % 減少し、4 年未満の平均日額は 14 % の減少率をみせている。更に 4 年 6 カ月未満と 5 年未満の平均日額の場合は 2 年 6 カ月の平均額より、それぞれ 5 %、23 % 増加している。

次に男女別を比較すると、男子は勤続年数 2 年 6 カ月未満が初任給の 2 倍で、最高平均日額を示し、女子は勤続年数 2 年未満までは初任給の約 40 % の増加率を示しているが 2 年 6 カ月未満は 10 % 低額となつてゐる。なお、男子は 3 年未満、3 年 6 カ月未満は、それぞれ 177 %、138 % で低下をみせているがそれ以後は再び上昇率を示しているものの、2 年 6 カ月未満の平均日額より低額である。

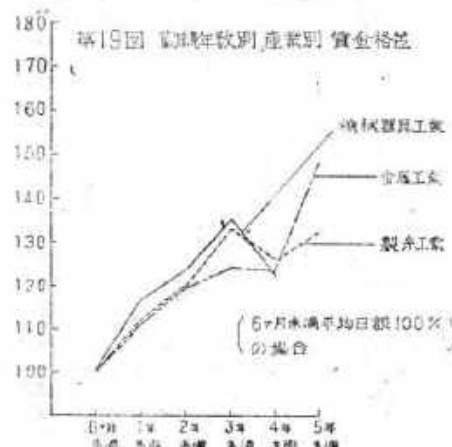
女子は 3 年以上の賃金傾向が明確に現われていないので説明をはぶく。

第 43 表 勤続年数別産業別賃金格差

勤続年数	機械器具	金 属	製 糸
6 カ月未満	100%	100%	100%
1 年 "	116	111	112
2 年 "	123	119	119
3 年 "	135	124	133
4 年 "	122	123	126
5 年 "	—	148	133

次に産業別に比較する。前述と同様勤続 3 カ月未満平均日額を 100 % として、半年毎の指数をとつてみると、機械器具工業は勤続 2 年 6 カ月未満までに 82 % の増加率でそれ以後は減少の傾向を示している。金属工業の場合は勤続 2 年未満までに約 54 % の平均日額の増加率を示し、2 年 6 カ月未満は、やや減少はしているが、それ以後は再増加の傾向をみせている。

参考に、1948 年 11 月に婦人少年局で行つた製糸工業の実態調査中勤続年数別平均日額の傾向と対比せしめてみると（製糸工業に働く労働者はそのほとんどが 20 歳未満の



年少者であり、その平均年齢は 19.2 歳である。）第 43 表第 19 図に示される通りほぼ同じ傾向である。

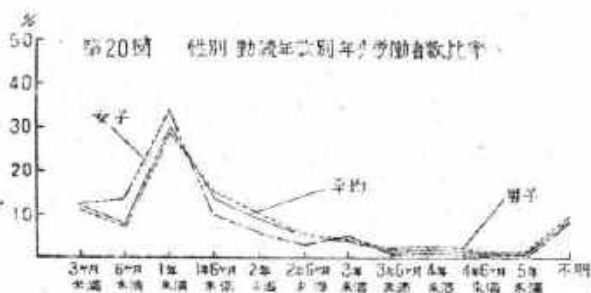
つまり 6 カ月未満平均日額を 100 % として 1 年毎の格差をみると、3 年未満までは機械器具工業は 35 %、金属工業は 24 %、製糸工業は 33 % の増加率を占め 4 年未満はそれより、それぞれ 13 %、1 %、7 % 減少している。しかし、5 年

未満の者は増加の傾向を示している。

(7) 勤続年数別労働者数

第45表A 性別勤続年数別年少労働者数比率

勤続年数別 性別	合計	3 ヵ月	6 ヵ月	1 年	1年6 ヵ月	2年	2年6 ヵ月	3年	3年6 ヵ月	4年	4年6 ヵ月	5年	不明
合計	100	12.0	8.8	30.3	14.6	9.9	5.1	4.5	1.6	2.1	1.3	0.5	9.3
男	100	11.9	7.2	29.0	15.7	10.9	5.5	4.1	2.0	2.4	1.4	0.7	9.2
女	100	12.1	14.5	34.9	10.8	6.0	3.6	6.0	—	1.2	1.2	—	9.7



勤続年数別労働者数は1年未満勤続者は51.1%で半数を占め、1年以上の勤続者は39.6%となっている。その中で最も多い分布は6ヵ月以上1年未満勤続者で、全体の30.3%を占めている。

更に男女別については、1年未満勤続の場合は、男子48.1%、女子61.5%である。また1年以上の場合は男子42.7%に対し女子28.8%であるので、男子の方が女子に比べやや勤続年数は長い。

次に年齢別に勤続年数分布状況を見ると、第46表に示されている

第44表 勤続年数別性別産業別年少労働者数

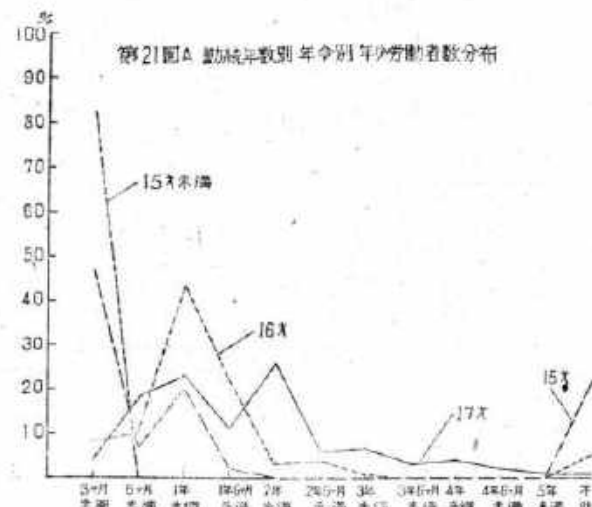
勤続年数別	年齢別 産業別 性別	計			17歳			16歳			15歳			15歳未満		
		計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属
合計	計男女	377 294 83	242 190 52	135 104 31	190 146 44	122 95 27	68 51 17	140 106 34	98 76 22	42 30 12	40 36 4	18 15 3	22 21 1	6 5 1	3 3 —	3 2 1
3ヵ月未満	計男女	45 35 10	26 19 7	19 16 3	9 8 1	7 6 1	2 2 —	12 7 5	9 5 4	3 2 1	19 16 3	8 6 2	11 10 1	5 4 1	2 2 —	3 2 1
6ヵ月 "	計男女	33 21 12	24 15 9	9 6 3	16 10 6	13 8 5	3 2 1	14 8 6	10 6 4	4 2 2	3 3 —	1 1 —	2 2 —	— — —	— — —	— — —
1年 "	計男女	114 85 29	78 58 20	36 27 9	45 33 12	34 26 8	11 7 4	61 45 16	40 29 11	21 16 5	8 7 1	4 3 1	4 4 —	— — —	— — —	— — —
1年6ヵ月 "	計男女	55 46 9	40 36 4	15 10 5	22 17 5	16 13 3	6 4 2	32 28 4	23 22 1	9 6 3	1 1 —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	— — —
2年 "	計男女	37 32 5	25 23 2	12 9 3	32 27 5	22 20 2	10 7 3	5 5 —	3 3 —	2 2 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
2年6ヵ月 "	計男女	19 16 3	10 8 2	9 8 1	13 11 2	6 5 1	7 6 1	6 5 1	4 3 1	2 2 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
3年 "	計男女	17 12 5	7 6 1	10 6 4	15 11 4	6 5 1	9 6 3	2 1 1	1 1 —	— — 1	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
3年6ヵ月 "	計男女	6 6 —	1 1 —	5 5 —	6 6 —	1 1 —	5 5 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
4年 "	計男女	8 7 1	1 1 —	7 6 1	8 7 1	1 1 —	7 6 1	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —

勤続 年数別	年齢別 性別	計			17 歳			16 歳			15 歳			15歳未満		
		計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属
		計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属	計	機械	金属
4年6ヵ月	計	5	2	3	5	2	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
"	男	4	1	3	4	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
"	女	1	1	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5 年	計	2	1	1	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
"	男	2	1	1	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
"	女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不 明	計	36	27	9	17	13	4	8	8	—	10	5	5	1	1	—
	男	28	21	7	10	8	2	8	8	—	9	4	5	1	1	—
	女	8	6	2	7	5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第46表 勤続年数別年齢別年少労働者数分布

勤続年数別	年齢別	合 計	17 歳	16 歳	15 歳	15歳未満
合 計		100	100	100	100	100
3 ヶ月未満		12.0	4.7	8.5	47.5	83.0
6 "		8.8	8.4	10.0	7.5	—
1 年 "		30.3	23.7	43.6	20.0	—
1年6ヵ月 "		14.6	11.6	22.9	2.5	—
2 年 "		9.9	16.8	3.6	—	—
2年6ヵ月 "		5.1	6.8	4.3	—	—
3 年 "		4.5	7.9	1.4	—	—
3年6ヵ月 "		1.6	3.2	—	—	—
4 年 "		2.1	4.2	—	—	—
4年6ヵ月 "		1.3	2.6	—	—	—
5 年 "		0.5	1.1	—	—	—
不 明		9.3	9.0	5.7	22.5	17

通り、17 歳では 1 年未満 36.8 %、1 年以上 2 年未満 28.4 %、2 年以上 3 年未満 14.7 %、3 年以上 4 年未満 7.4 %、4 年以上 5 年未満 3.7 % である。



16 歳の場合は 1 年未満 62.1 %、1 年以上 2 年未満 26.5 %、2 年以上 3 年未満 5.7 % となつている。

15 歳については 1 年未満は 75.0 % で全体の 4 分の 3 を占め、1 年以上 2 年未満 2.5 % である。

15 歳未満の場合は、3 ヶ月未満のみで 83 % を占めている。

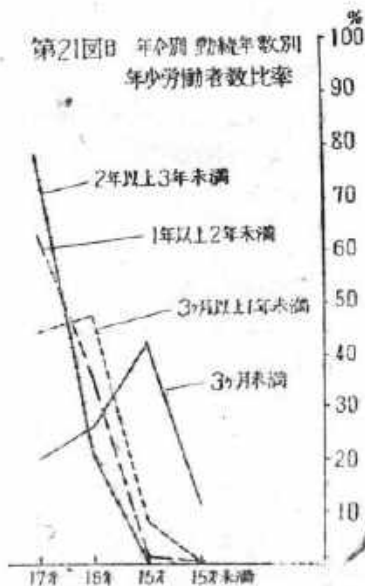
次に勤続年数を 100 % として、年齢分布を比較すれば第 47 表に示される通りである。すなわち、3 ヶ月未満についてみれば、15 歳が 42.2 % を占め、次が 16 歳の 26.7 % で 17 歳は 20 % である。3 ヶ月以上 1 年未満は 16 歳の 47.9 % が最高を占め、次は 17 歳の 44 % である。

1 年以上 2 年未満は 17 歳 (63.2 %) が最高を占め、次は 16 歳の 35.8 % となつている。

第47表 勤続年数別年齢別年少労働者数比率

年齢別 勤続年数別	計	17 歳	16 歳	15 歳	15歳未満
3 カ月未満	100	20.0	26.7	42.2	11.1
3月以上1年未満	100	44.0	47.9	8.1	—
1年 " 2年 "	100	63.2	35.8	0.9	—
2年 " 3年 "	100	78.3	21.7	—	—
3年 " 4年 "	100	100	—	—	—
4年 " 5年 "	100	100	—	—	—
不 明	100	45.5	21.2	30.3	3.0

第21回B 年齢別 勤続年数別
年少労働者数比率



2 年以上 3 年未満は 17 歳が 78.3% を占め、16 歳 (21.7%) がそれにつづいている。

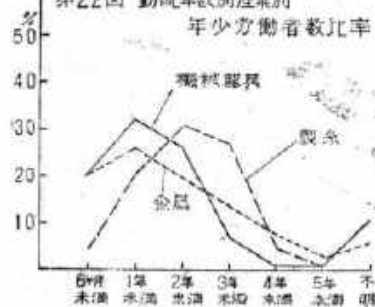
3 年以上 4 年未満、4 年以上 5 年未満両者とも 17 歳のみである。

以上述べて来た通り、年齢が多くなれば勤続年数も長くなる事は当然の事ではあるが、調査の結果にも現われている。

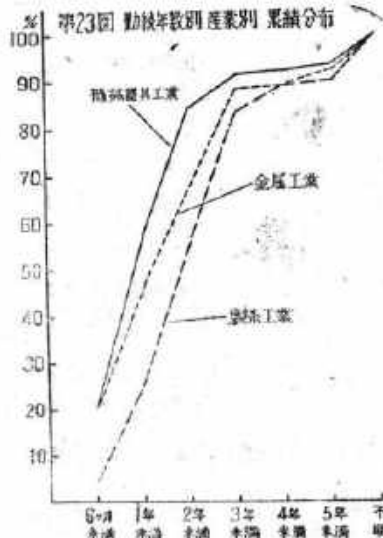
第48表 勤続年数別産業別
年少労働者数比率

産業別 勤続年数別	機械	金属	製糸
6 カ月未満	20.7	20.7	4.6
1 年 "	32.2	26.7	20.4
2 " "	26.9	20.0	31.4
3 " "	7.0	14.1	27.5
4 " "	0.8	8.9	5.2
5 " "	1.2	3.0	1.8
5 " 以上	—	—	9.1
不 明	11.2	6.6	—

第22回 勤続年数別産業別
年少労働者数比率



第23回 勤続年数別産業別 累積分布



次に産業別について比較すれば、第48表に示される通り機械器具工業、金属工業両産業とも、6 カ月以上 1 年未満を山として同傾向を示している。

参考に婦人少年局で調査した製糸工業の勤続年数分布をみると、この場合は 1 年以上 2 年未満が山をなしている。

また、累積分布で比較してみても同様の傾向をみせている。

以上賃金について述べて来たが、総括すると次の通りである。

- (1) 賃金支払方法は日給制が大半を占めている。しかし、30 分以上の遅刻、早退の場合給料を差引く事業場が 70% を占めている関係上、実際上は時間給に等しいという点も明らかに示された。
- (2) 賃金支払回数については月 1 回で支払うという事業場が 78.5% で大半以上を占めていたが、会社側の経理上の問題で分割される事があり得

るという点までも明らかになった。

- (3) a 現金給与の年少労働者の平均日額は 168 円で、その産業別平均日額は機械器具工業 166 円、金属工業 170 円である。又性別については男子 170 円、

女子 160 円である。年齢別平均日額は 17 歳—178 円、16 歳—162 円、15 歳—132 円、15 歳未満—105 円である。

b 現金給与総額を実働人員数で除して、平均月額を算出すれば、年少者の平均月額は 3,951 円である。その性別の相違は男子 4,071 円、女子 3,558 円である。また産業別にみれば機械器具工業 3,846 円、金属工業 4,138 円である。年齢別は 17 歳—4,102 円、16 歳—4,014 円、15 歳—2,885 円、15 歳未満—2,319 円である。

c なお支給給与に対する労働力提供による平均出勤日数及び 1 日実働時間数は、22.5 日、7.85 時間であった。

d 賃金階級別分布状況は、日給 160 円附近に最も密集しており、第一四分位数、中位数、第三四分位数はそれぞれ 131 円 33 銭、158 円 52 銭、200 円である。

男女別、第一四分位数、中位数、第三四分位数は夫々男子 132 円 50 銭、165 円 88 銭、204 円 50 銭、女子は 127 円 85 銭、150 円、186 円 50 銭である。

e 勤続年数別平均日額は 3 カ月未満 119 円で、6 カ月未満はそれより 23 %、1 年未満は 6 カ月未満の平均日額より 14 % 増加し、2 年 6 カ月未満までは半年毎に 5~6 % 増加している。それ以後はやや減少傾向にある。

f 勤続年数別労働者数は 1 年未満勤続者は 51.1 %、1 年以上勤続は 39.6 % である。その中最も多い分布は 6 カ月以上 1 年未満勤続者で 30.3 % を占めている。

Ⅶ 厚生施設

厚生施設

1 従業員が病傷を受けた時どんな方法で診療を受けに行くか

従業員の傷病にさいしての医療施設についてみれば事業場内に診療所を有し、そ

第49表 産業別診療方法別事業場数及び比率

区 分			合 計	事業場内 の医師の 診療を受 ける	事業場外 指定医師 の診療を 受ける	指定医師 なく適宜 医師をき める	そ の 他 (自分で きめて ゆく)
産 業 別							
	実 数	合 機 金 計 械 属	93 58 35	1 1 —	28 19 9	62 36 26	2 2 —
比 率	合 機 金 計 械 属		100 100 100	1.1 1.7 —	30.1 32.8 25.7	66.7 62.1 74.3	2.1 3.4 —

e の医師によつて診療を受ける場合と、事業場外の指定医師による場合と、指定医師さえもなく、適宜医師を決めて診療を受ける場合の 3 者に区分し比較すれば第 49 表に示される通り、前者は僅い 1.1 % にすぎず、次は 30.1 % 後者は 66.7 % で大多数を占めている。故に大部分は、指定された医師さえもないという環境にある事になる。又その他が 2.1 % あるが、これも自分で勝手に医師を選択して行くというのであつて、指定医師を有せずの中にも含まれるケースである。

2 採用時に健康診断を行つていますか。

第50表 事業場別健康診断有無別事業場数及び比率

区 分			合 計	行 う	行わない	不 明
産 業 別						
	実 数	合 機 金 計 械 属	93 58 35	27 16 11	64 41 23	2 1 1
比 率	合 機 金 計 械 属		100 100 100	29.0 27.6 31.4	68.9 70.7 65.7	2.1 1.7 2.9

次に採用時に健康診断を行うか否かについて比較すると、全く行わないという事業場は 68.9 % で大部分を占めている。行う事業場は僅か 29.0 % にすぎない。行

おない事業場の規模別比率は 10 人未満の事業場は 82%，10 人以上 50 人未満の事業場は 60% に当る。

3 健康診断は定期的に行っていますか、そして 1 年に何回行っていますか。

第51表A 産業別健康診断有無別事業場数

区 分 産業別		合計	あ り						なし	
			計	定 期			不 定 期			
				小計	1 回	2 回	小計	1 回		2 回
合 計	計 械 属	93	76	54	45	9	22	18	4	17
		58	47	32	24	8	15	14	1	11
		35	29	22	21	1	7	4	3	6

第51表B 産業別健康診断有無別事業場数比率

区分 産業別	計	あ り	なし
合 計	100	81.7	18.3
機 械 業	100	80.0	20.0
金 属 業	100	82.9	17.1

次は健康診断を 1 年の間に行うか否かについてみると、全然行わない事業場は 18.3% みられる。此の規模別比率は 10 人未満の事業場は 50%，10 人以上 50 人未満の事業場は 8% に当る。

4 食堂はありますか。

第51表A 産業別食堂有無別事業場数

区分 産業別	合計	あ り				なし
		小計	食 堂	休 憩 室 兼 用 食 堂		
合 計	93	31	7	24		62
機 械 業	58	16	1	15		42
金 属 業	35	15	6	9		20

次に食堂の有無別についてみるならば、「あり」の事業場は 33.3% 「なし」の事業場は 66.7% である。又食堂を有するといつても休憩室兼用食堂というのが 76.5

第52表B 産業別食堂有無別事業場数比率

区分 産業別	合計	あ り	なし
合 計	100	33.3	66.7
機 械 業	100	27.6	72.4
金 属 業	100	42.9	57.1

% をしめているので、食堂を有する事業場はほんの僅かにすぎない。

5 浴場はありますか

第53表A 産業別浴場有無別事業場数

区分 産業別	合計	あ り				なし
		小計	男子用	女子用	男女用	
合 計	93	19	9	—	10	74
機 械 業	58	9	4	—	5	49
金 属 業	35	10	5	—	5	25

第53表B 産業別浴場有無別事業場数比率

区分 産業別	合計	あ り	なし
合 計	100	20.4	79.6
機 械 業	100	15.5	84.5
金 属 業	100	28.6	71.4

浴場については「なし」が 79.6% の大部分を占めている。又浴場の施設があるものは金属工業の方が機械器具工業に比してやや比率が高くなっている。

浴場のある事業場の規模別内分は

10 人未満の事業場は 23%，10 人以上 50 人未満の事業場は 20% に当る。

入浴日はどうなっていますか。

第54表A 産業別入浴日別事業場数

次に入浴日は毎日というのが 63.2% で、次は 1 日おきの 26.3% である。

機械器具工業は毎日 55.6% で

区分 産業別	合計	毎日	隔日	3 日おき
合 計	19	12	5	2
機 械 業	9	5	3	1
金 属 業	10	7	2	1

第54表B 産業別入浴日別事業場数比率

区分		合計	毎日	隔日	3日おき
産業別					
合計		100	63.2	26.3	10.5
機械		100	55.6	33.3	11.1
金属		100	70.0	20.0	10.0

すぎない。更に指定医師さえ有しない事業場が 66.7 % おもしめている。また健康診断についても全然行わない事業場が 18.3 % を示している等は特に注目に値するものである。

IX 余暇利用の為の施設及活動

次に余暇利用の為の施設、即ち図書室、集会の出来る場所、運動場、その他の設備について比較する。

第55表 産業別図書室有無別事業場数

区分		合計	あり	なし
産業別				
合計		93	—	93
機械		58	—	58
金属		35	—	35

第55表 産業別集会有無別事業場数及び比率

区分		合計	あり	なし		合計	あり	なし
産業別								
実数	合計	93	27	66	比率	100	29	71
	機械	58	18	40		100	31	69
	金属	35	9	26		100	26	74

い。この中には、宿直室、食堂或いは倉庫の二階をこれに使うという事業場が殆んどである。

あるが、金属工業は 70.0 % を占めている。

以上厚生施設についてふれて来たが、医療施設さえもその大部分が完備されておらず、事業場内で診療を受けられる事業場は僅 1 事業場に

図書室

図書室については、全事業場がこの施設を持っていない。

集会出来る部屋

集会出来る部屋の有無については持っている事業場は 29 % にすぎな

第56表 産業別運動場有無別事業場数

区分		計	あり	なし
産業別				
合計		93	9	84
機械		58	6	52
金属		35	3	32

ない。

運動場

運動場については、運動場に関する特別の規定をつけずに、運動の出来る空地を有しているという条件のみで有無をとつてみたのであるが、有している事業場は僅 10 % にすぎ

第58表 産業別娯楽設備を有する事業場数

区分		麻雀	将棋	囲碁	ラジオ	電着	図書	その他
産業別								
合計		3	10	6	7	1	4	3
機械		2	5	3	5	1	4	2
金属		1	5	3	2	—	—	1

次に娯楽又は運動設備についてみると第 58 表に示される通り、娯楽設備の種目も僅かである。しかもこれらの設備を有している事業場は平均 5 % にすぎない。即ち麻雀は 3 %、将棋 9 %、囲碁 6 %、ラジオ 7 %、電着 1 %、図書 4 % その他 3 % である。その他の中には、アコーディオン、ミシン、ギター等が含まれている。なお 10 人未満の事業場は将棋を有する 1 事業場、囲碁 1 事業場、ラジオ 1 事業場、その他 1 事業場であつた。

第59表 産業別野球道具有無別事業場数

区分		計	あり	なし
産業別				
合計		93	28	65
機械		58	17	41
金属		35	11	24

運動設備については第 59 表に示されている通り、野球道具と卓球道具の 2 種目の他にバレーボールを有する事業場があつたのみである。野球道具を有する事業場は 30 %、卓球道具を有する事業場は 25 % であ

第60表 産業別卓球道具の有無別事業場数

産業別	区分		
	計	あ	な
計	93	24	69
機械	58	17	41
金	35	7	28

第61表 産業別旅行の有無別事業場数

産業別	区分		
	合 計	あ	な
計	93	21	72
機械	58	11	47
金	35	10	25

第62表 産業別慰安会の有無別事業場数

産業別	区分		
	合 計	あ	な
計	93	4	89
機械	58	2	56
金	35	2	33

第63表 産業別運動大会の有無別事業場数

産業別	区分		
	合 計	あ	な
計	93	15	78
機械	58	6	52
金	35	9	26

運動大会は 16% の事業場が行うのみである。

つた。

その中 10 人未満の事業場は 4 事業場である。

旅行(ハイキングも含む)

次に余暇利用の活動状況についてみると左に示される通り、旅行、慰安会、運動大会の諸活動にすぎない。

旅行を行う事業場は 23% (10 人以上の事業場のみ) で、その経費負担は、「全部従業員負担」, 「 $\frac{1}{2}$ 従業員負担」の各 1 事業場、及び「20% 従業員負担」の 2 事業場を合せた 4 事業場をのぞいた残りの 17 事業場は会社側の負担である。主催については全部会社となっており、回数に年が 2 回 80% を占めている。

慰 安 会

慰安会は全体の 4% にすぎない。この中 10 人未満のは僅か 1 事業場のみである。経費の負担は会社負担が全体を占め、主催も会社である。なお旅行と、慰安会両方行う事業場は全然ない。

運 動 大 会

以上の通り余暇利用の活動状況は極めて不活発であり、とくに労働者自身の企画による活動が全くみられない事は注目される。

余暇利用の為の諸設備も極めて少く、その上これらの最少限度の設備さえも有していない事業場が 95% を占めている点も注目に値する事である。

Ⅱ 年少労働者の職場指導、訓練

第64表 産業別職業指導方法別事業場数

産業別	区 分		合 計	基準法による技能養成	基準法外指導	特に指導しない
	計	機械				
計	93	58	35	—	93	—
機械	58	—	—	—	58	—
金	35	—	—	—	35	—

指導方法は 100% の事業場が基準法外の指導を行い、先輩熟練工により受けるという結果を得ている。従つて習熟態度としては「実際に仕事をしながら習う」という事業場で 100% を占められている。

Ⅲ 労働組合

第65表 産業別労働組合の有無別事業場数

産業別	区 分		
	計	有	無
計	93	3	90
機械	58	—	58
金	35	3	32

労働組合の有無についてみると、労働組合を有する事業場は僅 3% (3 事業場の中 1 事業場は 10 人未満の事業場であつた。) にすぎず、97% は労働組合を持っていない。なお参考に電線真空管工業の 99 人未満の事業場における労働組合の有無別事業場数をあげれば労働組合をもっていない事業場は 26% であつた。

第 二 部

個 人 調 査 の 報 告

一 調 査 の 方 法

第一部において、事業場を対象とした調査結果を報告したが、第二部においては次のような質問票に、年少労働者自身の回答を記入してもらった。調査にあたっては、出来るだけ年少労働者以外の人々に入寮を遠慮してもらったので、ある程度年少者の正直な意見が示されたと思う。

なお、ここで調査された年少労働者数は、調査当日出勤していた者だけであるから「第一部事業場調査」に報告された月末の賃金ノ明細日現在における年少労働者数とは合致していない。

A 労 働 条 件 調 査

(この調査票中()のところは必要事項を記入し、○印のところは、該当するところだけ●のようにぬりつぶして下さい。)

基 本 事 項

- 1 あなたの勤め先の会社工場名は？()
 - 2 あなたは常雇ですか、臨時雇ですか ○常雇 ○臨時雇
 - 3 あなたの生れた日、年齢、性別は 昭和年 月 日 歳 カ月(○男 ○女)
- 身上に関する事項
- 4 あなたの保護者は何県ですか
 - 5 あなたが出た、あるいは今いつている学校はどれですか

○尋常小学校 ○高等小学校 ○新制中学校 ○旧制中学校 ○新制高校

○定時制高校 ○その他 ○卒業 ○中退 ○在学

- 6 あなたは現在両親がいますか ○両親あり ○父のみあり ○母のみあり
○両親なし

- 7 あなたの家族はあなたを除いて現在何人ですか

○1人 ○2人 ○3人 ○4人 ○5人 ○6人 ○7人 ○8人 ○9人
○10人以上

- 8 あなたの家の生計を主になつて支えているのはどなたですか

○父 ○母 ○兄 ○姉 ○祖父 ○祖母 ○その他()

- 9 戸主の職業は(家庭の職業)

○農業 ○林業及び狩猟業 ○漁業及水産養殖業 ○鉱業 ○建設業 ○製造業
○卸売及び小売業(商業) ○金融業及び保険業 ○不動産業、○運輸
通信及びその他公益事業 ○サービス業 ○公務その他

- 10 そしてそれは自分で経営しているのですか ○自分で経営している ○他人に雇われている

- 11 あなたはどうして働くようになったのですか

○家計を助けるため ○学費を得るため ○自活のため ○結婚支度のため
○家業とは別の仕事をしたいため ○働く事により自分を向上させるため
○技術を覚えたいから ○遊んでいても面白くないから ○友達と一緒にだつたから ○その他()

- 12 あなたは誰のついでで今の勤め先に入つたのですか

○学校 ○公共職業安定所 ○営利的紹介人 ○家族又は親戚 ○近所の人
○その他の知人 ○直接交渉 ○その他()

- 13 あなたは両親又は保護者と一緒に住んでいますか

○両親又は保護者と同居している ○同居していない ○寄宿舎 ○下宿ま

たは間借 ○住込

- 14 今あなたの住んでいる部屋は何畳で、又何人(あなたを入れて)住んでいますか()畳()人
- 15 あなたの住居から勤め先まで、どの位時間がかかりますか、乗物 時
間 分、徒歩 時間 分

業務に関する事項

- 16 あなたの仕事の名は()
- 17 あなたの仕事はどういう仕事ですか(何をどうするためにどのような動作をするかという事を具体的に)()
- 18 今やっている仕事は適していると思いますか ○適している ○分らない
○適していない
- 19 今やっている仕事は危険性がありますか
○ある その理由()
○なし ○わからない
- 20 今やっている仕事はむづかしいですか ○むづかしすぎる ○丁度よい
○やさし過ぎる ○なんとも感にない
- 21 今やっている仕事は単調ですか ○機械的で単調である ○工夫がいる
- 22 仕事時間中に雇い主から私用を言いつけられる事がありますか、それはどんな事ですか ○ない ○ある()
- 23 仕事時間でない時に雇主から私用を言いつけられる事はありませんか、それはどんな事ですか? ○ない ○ある()
- 24 今の仕事をどう思いますか、○好き ○無関心 ○嫌い
その理由()
- 25 現在の仕事と仕事場は健康によいと思いますか、○よい ○わるい ○分らない その理由()

労働条件に関する事項

- 26 現在あなたが実際に仕事をはじめるのは何時ですか、又終るのは何時頃ですか(準備の時間も含める)()時()分から()時()分まで()時間()分
- 27 労働時間についてどう思いますか、○長過ぎる ○丁度よい ○短い ○わからない
- 28 交替制はありますか、○ある(○1交替 ○2交替 ○3交替) ○なし
- 29 決った休憩時間がありますか。ない場合は普通何時頃休みますか
○ある()時()分から()時()分まで()時間()分
○ない()時()分から()時()分まで()時間()分まで
休む
- 30 休憩時間は十分休めますか、○休める ○休めない
その理由()
- 31 休憩時間についてどう思いますか、○長過ぎる ○丁度よい ○短かすぎる
その理由()
- 32 公休日は1ヶ月に大体何回位ありますか、○1回 ○2回 ○3回 ○4回
○5回以上
- 33 年次有給休暇はありますか、○ある(日間) ○ない ○分らない
それはいつでも自由にとれますか、○とれる ○とれない
その理由()
- 34 先月の給料は残業手当も含めて手取りくらもらいましたか()円()銭
その給料で足りていますか、○足りている ○足りていない、(あと幾ら位
あればよいと思いますか、 円位)
- 35 その給料は直接あなたが受けとりますか、○直接受ける ○親又は保護者が
受けとる ○その他()が受けとる

- 36 決められた給料の他に手当の出る事がありますか、それはどういう時にどの位ですか。○ない ○ある どういう時() 円、何に対して()
- 37 給料の支払日は決つていますか。○決つていない ○決つている ○その日にもらえる ○その日にもらえない
- 38 工場ではあなたに天引貯金をやらせていませんか、それは1カ月にどの位ですか。○やつていない ○やつている() 円 ○強制的 ○了解の上 ○わからない
- 39 あなた達が遅刻した時、又は何か落度があつた時、給料から差引かれる事がありますか。○差引かれない ○差引かれる どんな時() 円
- 40 給料の他に或は代りに物を支給される事がありますか。○ない ○ある どんなものを() どういう時に()
- 41 住込の場合、食物や部屋の経費はどうなつていますか。食費() 円 間代() 円 ○差引いたものを給料としてもらう() 円 食付() 円 ○もらつた給料からおさめる
その他() 円
- 42 この工場に始めて見習として入つた時の給料はどの位でしたか() 円
- 43 その時、衣類やその他のものの支給を受けましたか。○受けない ○受けた どんなものをどの位()
- 44 はじめて昇給した時はいくら上りましたか() 円
- 45 見習期間の長さはどの位ですか() 年() カ月
- 46 見習の期間についてどう思いますか、一つ一つの項に印をつけて下さい
① ○期間が長過ぎる() 位がよい ○短かすぎる() 位がよい
い ○丁度よい
② ○賃金が低過ぎる ○丁度よい

- ④ ○期間中は辛かった ○辛くなかった その理由()

55 今やっている仕事を長くつづけるつもりですか

○すぐやめたい ○一生やりたい ○当分やる

56 あなたは将来何になりたいと思いますか

()

57 あなたが最も尊敬する人は誰ですか

()

B 余暇生活調査

1 昨日仕事が終わってからの時間をどのように過ごしましたか

又この前の公休日には1日どのようにして過ごしましたか、次の表に書き入れて下さい。(身仕度、食事、睡眠、通勤時間等は除きます)

	昨日仕事が終わってからの事		この前の公休日にした事	
	内 容	時 間	内 容	時 間
家事の手伝い				
内 職				
ス ポ ー ツ				
趣 味 娯 楽				
学 習				
ラ ジ オ				
雑 談				
そ の 他				

2 あなたは現在何かスポーツをやっていますか、それは何ですか、そしてどこでやっていますか、○やっていない ○やっている 場所()

又、あなたが将来やりたいと思っているスポーツは何ですか

現在やっているスポーツは●印を、将来やりたいものは○印でかこんで下さい。

○野球 ○サッカー ○庭球 ○卓球 ○籠球 ○陸上競技 ○水泳 ○相撲
○ソフトボール ○ラグビー ○登山 ○柔道 ○旅行 ○その他()

3 あなたは現在、趣味、娯楽をもっていますか。それは何でどこでやっていますか、○もっていない ○もっている 場所()

又あなたが将来やりたいと思っている趣味娯楽は何ですか

現在やっているものは●印を、将来やりたいものは○印でかこんで下さい。

○洋裁 ○和裁 ○手芸 ○細工物 ○書道 ○茶道 ○お花 ○俳句 ○和歌 ○囲碁 ○将棋 ○社交ダンス ○スチエア・ダンス ○読書 ○映画 ○演劇(○自分でする、○みる) ○歌謡曲(○歌う ○きく) ○音楽(○歌う ○きく) どんなもの() ○その他()

4 あなたが最近読んだ本の名前と種類、その本を手に入れた方法を書き入れて下さい。

○全然本を読まない ○本を読んだ 本の名前()本の種類
○雑誌 ○単行本 ○文庫 ○その他()

本を手に入れた方法 ○自分で買った ○友達に借りた ○工場の図書で借りた ○家の近くの図書館で借りた ○学校の図書室で借りた ○貸本屋で借りた ○その他()

本を読んだ場所 ○自分の家 ○工場 ○近所の図書館 ○貸本屋 ○その他()

5 あなたが最近見た映画はどんな映画ですか、それはどこでみましたか

○全然みない、○みた一映画の名前()

映画をみた場所 ○映画館 ○公民館 ○学校 ○工場 ○その他()

- 6 あなたはどのような音楽が好きですか
○歌謡曲 ○洋楽 ○日本音楽
- 7 あなたはラジオのどんな種目を主にききますか
○殆どきかない ○きく—どんなものを()
- 8 あなたが今勉強している学科名があつたら●印をつけて下さい
又、将来どんな学科を勉強したいと思いますか、○印でかこんで下さい
○社会 ○国語 ○理科 ○数学 ○家庭(政) ○体育 ○英語 ○洋裁
○和裁 ○華道 ○音楽 ○機械工学 ○書道 ○職業 ○ソロバン ○設
計製図 ○電気 ○工業化学 ○手芸 ○応用力学 ○法規 ○経済 ○そ
の他()
- 9 あなたは夜学(定時制高校、英語、ソロバン、裁縫その他の学校或は塾のよ
うなもの)に行つていますか
○行つている ○行つていない (○行く必要はない ○行きたいけれど行
けない) ○どういふところに() どうして()
- 10 あなたは休みの時間や、仕事が終わつてからの時間を過すために、工場でどん
な活動が行われるとよいと思いますか
○図書の貸出 ○機関紙の発行 ○研究会 ○短歌俳句会 ○展覧会 ○映
画会 ○音楽(合唱レコード) ○演劇演藝 ○運動会 ○ダンス ○その他
() ○希望なし
- 11 先月の給料の使いみちをA表に書き入れて下さい
- 12 今の給料で足りていますか
○足りない(あと 円位ほしい)足りない理由()
○足りている
- 13 給料が足りない時は何で補つていますか

A表

先月の手とり額	円	学費洋裁生花な どのおけいこ代	円
家に渡した額	円	映 画	円
貯 金	円	読 書	円
下宿住込 先寄りに 納めるも の	円	たべもの	円
食 費	円	日用身用品	円
その他	円	そ の 他	円
下宿代(間借り代)	円		円
交 通 費	円		円
被服はきもの代	円	差引のこりの額	円

- 家で補助してもらう ○内職をする(どんな仕事)
○衣類その他を売る ○人から借りる ○質屋に行く ○その他()
- 14 あなたの工場に労働組合がありますか、組合に入つていますか
○ない ○ある (○入つていない ○入つている)
- 15 労働組合についてどう思いますか
○ない方がよい ○なくてもよい ○ある方がよい ○わからない
その理由()

二 調査の結果

A 労働条件調査

I 基本事項(第1問—第3問)

第1問 (省略)

第2問 あなたは常雇ですか、臨時雇ですか。

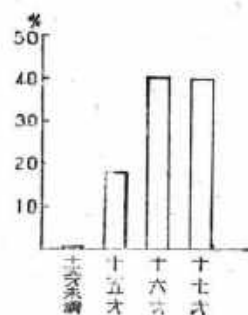
第3問 あなたの生れた日、年齢、性別は、

第1表 年少労働者数(実数)

区分 産業別		計	常 雇						臨 時 雇						不 明					
			小計	18歳	17歳	16歳	15歳	15歳未満	小計	18歳	17歳	16歳	15歳	15歳未満	小計	18歳	17歳	16歳	15歳	15歳未満
A・B	計	345	333	5	130	135	60	3	6	—	3	3	—	—	6	—	1	2	3	—
	男	274	266	5	103	103	53	2	4	—	1	3	—	—	4	—	—	2	2	—
	女	71	67	—	27	32	7	1	2	—	2	—	—	—	2	—	1	—	1	—
A	計	228	216	5	87	86	37	1	6	—	3	3	—	—	6	—	1	2	3	—
	男	183	175	5	70	67	32	1	4	—	1	3	—	—	4	—	—	2	2	—
	女	45	41	—	17	19	5	—	2	—	2	—	—	—	2	—	1	—	1	—
B	計	117	117	—	43	49	23	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	男	91	91	—	33	36	21	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女	26	26	—	10	13	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) A・B……機械器具製造業および金属製品製造業
 A……………機械器具製造業
 B……………金属製品製造業
 以下各表および各図同じ

第1図 年齢構成



この調査で把握された年少労働者数およびその年齢性別の構成はどのようになっているか、又、近來関心をよびつつある臨時工の問題について、小企業においては臨時工が、どのくらいの割合を占めているか等について示したのが第1表である。把握された年少労働者(26年1月末賃金ノ切日現在で、満18歳に満たない労働者、但し、この中には18歳になった者5名を含む。)は345名である。この数は、「第一部 事業場調査」結果による在籍年少労働者386名の89.4%にあたる。

この年少労働者を、産業別に見ると機械器具製造業に従事する者228名、金属製品製造業に従事する者117名となっている。

これを、さらに「常雇」「臨時雇」別に見ると、「常雇」333名「臨時雇」6名

「常雇」「臨時雇」の区別不明の者6名で、「常雇」は全体の96.5%を占め、圧倒的に多い。したがって、この調査の限りでは、臨時工は意外に少なかった。しかしこれら心身の未成熟な年少労働者が、生活保障の不確実な臨時工として働いていることは、真の労働者を育成する見地から考慮の必要があろう。なお、「臨時雇」6名は、いずれも機械器具製造業に従事している者である。又、ここでいう「常雇」「臨時雇」の区別は、実際に各事業場で使用されている名称、概念が、まちまちであったものを、それぞれ事業場の関係者で、「常雇」「臨時雇」の別に整理していただいたものである。

次に、年齢別に見ると、第1図の如く、15歳未満0.8%(3名)15歳18.3%(63名)16歳40.6%(140名)17歳40.3%(139名)で、一般的に年齢が高くなるにしたがって就業者数は増加している。

性別に見ると、男子274名、女子71名で、男子は全体の79.4%を占め大部分が男子労働者である。

II 身上に関する事項(第4問—第15問)

第4問 あなたの保護者は何県ですか。

第2表 保護者の出身府県

区分		計	東京	千葉	山梨	群馬	神奈川	福島	長野	埼玉	茨城	秋田	山形	宮城	青森	愛知	岐阜	新潟	静岡	兵庫	富山	石川	福井	山梨	長野	新潟	北海道	九州	不明
産業別	実数	345	247	17	2	3	5	4	4	13	6	2	3	1	1	1	1	7	4	1	2	7	1	1	1	1	1	1	1
	機械	226	155	11	—	—	—	2	3	10	5	1	2	1	1	1	1	7	4	1	2	7	1	1	1	1	1	1	1
	金属	117	92	6	2	3	2	2	1	3	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
割合	合計	100	71.5	4.5	0.6	0.9	1.5	1.2	1.2	3.9	1.7	0.6	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	2.0	1.2	0.3	0.6	2.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	3.2
	機械	100	68.1	4.6	—	—	1.3	0.9	1.3	4.4	2.2	0.4	0.9	0.4	0.4	0.4	0.4	3.1	1.9	0.4	0.9	3.1	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	3.5
	金属	100	78.4	5.1	1.7	2.6	1.7	1.7	0.9	2.6	0.9	0.9	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.6

年少労働者の保護者が現在住んでいる県は何県か、これによつて年少労働者の出稼の有無を知ろうとし、第4問の質問を試みた。この結果は第2表の如く、「東京」の者が71.5%を占め、次は隣接県(千葉、山梨、神奈川、埼玉)が10.5%を

占め、東京および隣接県の者が全体の82%を占めている。小企業においては大部分の年少者が、工場附近あるいは隣接県の出身者であることがわかる。

第5問 あなたが出た、あるいは今いつている学校はどこですか。

第3表 学歴(実数)

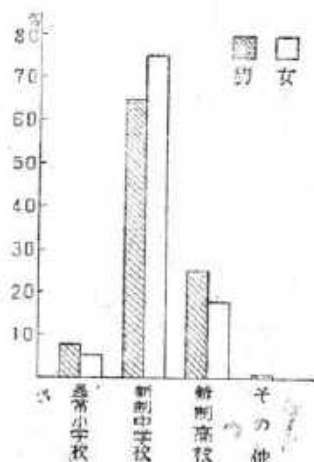
産業別 学歴別 性別		A・B										A										B																							
		小 計			卒 業			中退		在学 中		不明		小 計			卒業			中退		在学 中		不明		小計			卒業			中退		在学 中		不明									
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女								
学校別	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女						
計	345	274	71	210	161	49	41	32	9	77	70	7	17	11	6	228	183	45	129	99	30	32	27	5	51	46	5	16	11	5	117	91	26	81	62	19	9	5	4	26	24	2	1	—	1
尋常小学校	26	22	4	24	20	4	2	2	—	—	—	—	—	—	—	9	8	1	8	7	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	17	14	3	16	13	3	1	1	—	—	—	—	—	—	
新制中学校	231	178	53	178	135	43	22	19	3	20	16	4	11	8	3	149	115	34	31	3	86	27	17	15	2	8	6	2	11	8	3	52	63	19	65	49	16	5	4	1	12	10	2	—	—
新制高等学校 (定時制を含む)	82	69	13	8	6	2	14	8	6	55	52	3	5	3	2	66	56	10	8	6	2	11	8	3	4	2	39	3	5	3	2	16	13	3	—	—	—	3	—	3	13	13	—	—	—
その他 (工業半校等)	4	4	—	—	—	—	2	2	—	2	2	—	—	—	—	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無記入	2	1	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

次に、これらの年少労働者の学歴について見よう。教育程度を知るために、第5問の質問を試みた結果、回答した者は第3表および第4表その1の如く、343名(この他に無記入2名)で、小学校の課程を受けた者(卒業、中退、在学中を含む以下同じ)は7.6%、新制中学校(高等小学校の者を含む)67%、新制高等学校

(定時制高等学校、旧制中学校を含む)23.9%、その他1.5%となつて、大部分の者が新制中学校程度である。

次に、性別に見て注目されることは、第2図の如く、新制中学校の教育程度までは、男子73.2%に対して、女子81.4%と、女子の方が割合が高いが、それ以上

第2図 男女別の学歴



の上級学校になると、逆に男子の方が多くなっている。

次に教育程度別に、それぞれ卒業、中退、在学者の占める割合を見ると、

(イ) 卒業した者は、小学校 92.3%、新制中学校 77.1%、新制高等学校 9.8% と高学年になる程満足に、これを修了した者は少なくなっており、特に新制高等学校の者にこの傾向が目立つ。

(ロ) 中退者は、小学校 7.7%、新制中学校 9.5%、新制高等学校 17.1% と高学年になる程中退者が増加しているが、これは、経済的理由が大部分なのではあるまいか。なお、尋常小

校さえも満足に修了していない者があることは注目すべき点である。

(ハ) 在学中の者は、新制中学校 8.7%、新制高等学校 67.0% となり、新制高等学校の学生は、高等学校定時制課程に学びながら働いている者が多い（新制高等学校の学生 24 人に対して、定時制高等学校の学生は 31 人となっている）。

第4表その1 学歴 (比率)

学校別 卒業別 性別		計	尋常 小学校	新制 中学校	新制高等学校 (定時制も含む)	その他 (工業洋裁等)
A・B	計	100	7.6	67.3	23.9	1.2
	男	100	8.0	65.2	25.3	1.5
	女	100	5.7	75.7	18.6	—

第4表その2

学校別 学歴別 性別		計	卒業	中退	在学中	無記入
尋常 小学校	計	100	92.3	7.7	—	—
	男	100	90.9	9.1	—	—
	女	100	100	—	—	—
新制 中学校	計	100	77.1	9.5	8.7	4.7
	男	100	75.8	10.7	9.0	4.5
	女	100	81.1	5.7	7.5	5.7
新制高等 学校 (定時制 も含む)	計	100	9.8	17.1	67.0	6.1
	男	100	8.7	11.6	75.3	4.4
	女	100	15.4	46.2	23.0	15.4
その他 (工業 洋裁)	計	100	—	50.0	50.0	—
	男	100	—	50.0	50.0	—
	女	100	—	50.0	50.0	—

第5問 あなたは現在両親がありますか。

第5表 両親の有無 (実数)

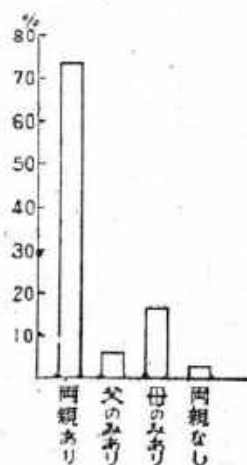
区分 卒業別 性別		計	両親あり	父のみ あり	母のみ あり	両親なし	無記入
A・B	計	345	248	22	57	11	7
	男	274	198	18	45	7	6
	女	71	50	4	12	4	1
A	計	228	169	13	38	5	3
	男	183	135	11	32	3	2
	女	45	34	2	6	2	1
B	計	117	79	9	19	6	4
	男	91	63	7	13	4	4
	女	26	16	2	6	2	—

父又は母を失った場合、あるいは両親を失った場合、これが年少者にあたえる打撃は大きく、精神的な面では、ややもすれば、日々の生活態度が不健全となり、ひいては不良化の傾向をも惹起し、又、他面においてはこれが経済的な面と結びつい

第6表 両親の有無(割合)

産業別	区分 性別	計	両親あり	父のみあり	母のみあり	両親なし
A・B	計	100	73.4	6.5	16.9	3.2
	男	100	73.9	6.7	16.8	2.6
	女	100	71.4	5.7	17.2	5.7
A		100	75.1	5.8	16.9	2.2
B		100	70.0	8.0	16.8	5.2

第4図 両親の有無



て、就業の動機ともなることは、一般に見られる傾向である。そこで、かかる意味から、年少労働者の両親の有無を見ることとした。この結果は第5表および第6表第4図の如く、回答した者338名(この他に無記入7名)で、「両親ある者」は、73.4%を占め、これに対して、「父親だけある者」6.5%「母親だけある者」16.9%「両親のない者」3.2%となつている。つまり片親あるいは両親を失つた者が約1/4となつている。又、片親だけの場合には、母親だけの者が、多い。

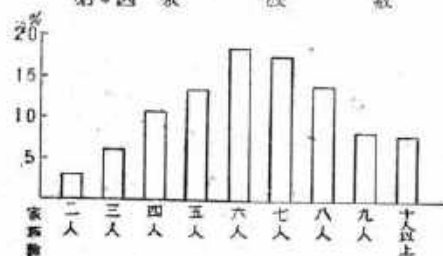
第7問 あなたの家族はあなたを除いて現在何人ですか。

前問と同じく、年少労働者の人的環境を明らかにするうえから、家族数を見ると、第7表および第5図の如くで、回答した者は344名(この他に無記入1名)である。なお、ここに示された家族数の中には年少労働者自身も含まれている。さて、もつとも多いのは6人家族で、18.6%を占め、これをピークとして、5~2人家族の場合、7~10人以上の家族の場合、それぞれ少くなつている。ここで注目

第7表 家族数

家族数別		計	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	無記入	
産業別	性別												
実数	A・B	計	345	11	20	38	46	64	60	49	29	27	1
		男女	274	7	15	26	36	55	46	44	23	21	1
		71	4	5	13	10	9	14	5	6	6	—	
	A	計	228	5	12	23	37	41	41	30	20	19	—
		男女	183	4	10	14	30	35	30	27	17	16	—
		45	1	2	9	7	6	11	3	3	3	—	
比率	B	計	117	6	8	15	9	23	19	19	9	8	1
		男女	91	3	5	12	6	20	16	17	6	5	1
		26	3	3	3	3	3	3	2	3	3	—	
A・B			100	3.2	5.8	11.1	13.4	18.6	17.4	14.2	8.4	7.9	—

第5図 家族数



される点は、第一は、6人家族をピークとして、2~5人家族までの者が33.5%を占めているに対して、7~10人以上の家族の者が47.9%を占めて多くなつている。つまり、6人家族をピークとして、それ以上の大

家族の者が、それ以下の比較的小家族の者よりも高い比率を占めているということ、第二は、10人家族以上という極めて大家族の者が、7.9%を占めていること、第三は、年少労働者の家族は4~8人家族に集中されていること(74.7%)等である。

第8問 主にあなたの家の生活を支えているのはどなたですか。

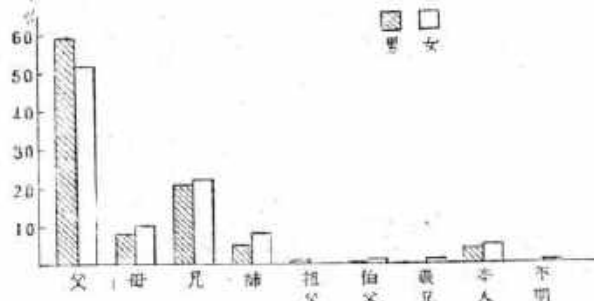
第8表 生計の中心者 (実数)

生計中心者別		計	父	母	兄	姉	祖父	伯父	義兄	本人	わからない
産業別	性別										
A・B	計	398	229	35	85	22	4	2	1	17	3
	男	313	185	26	66	15	4	1	—	13	3
	女	85	44	9	19	7	—	1	1	4	—
A	計	264	153	28	59	13	1	—	—	9	1
	男	209	126	21	46	9	1	—	—	5	1
	女	55	27	7	13	4	—	—	—	4	—
B	計	134	76	7	26	9	3	2	1	8	2
	男	104	59	5	20	6	3	1	—	8	2
	女	30	17	2	6	3	—	1	1	—	—

第9表 生計の中心者 (比率)

生計中心者別		計	父	母	兄	姉	祖父	伯父	義兄	本人	わからない
産業別	性別										
A・B	計	100	57.5	8.8	21.3	5.5	1.0	0.5	0.3	4.3	0.8
	男	100	59.1	8.3	21.1	4.8	1.3	0.3	—	4.2	0.9
	女	100	51.8	10.5	22.4	8.2	—	1.2	1.2	4.7	—
A	計	100	58.0	10.6	22.3	4.9	0.4	—	—	3.4	0.4
	女	100	56.7	5.2	19.4	6.7	2.2	1.5	0.8	6.0	1.5

第6図 生計の中心者



第9問 その人の職業は

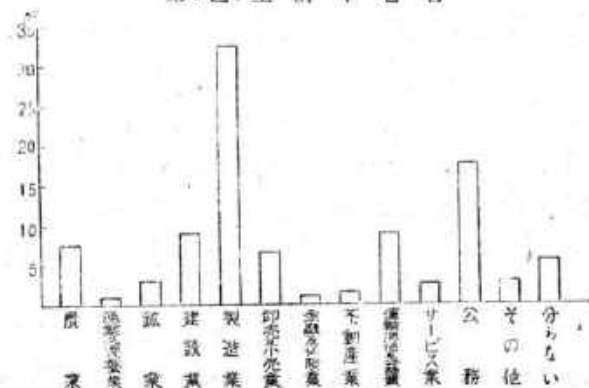
第10表 生計中心者の職業 (実数)

職業別		計	農業	漁業	畜産業	建設業	製造業	卸売及小売業	金融及保険業	不動産業	運輸通信業	サービス業	公務	その他	わからない
産業別	性別														
A・B	計	352	27	4	11	32	114	23	4	6	31	9	61	10	20
	男	276	24	4	7	22	98	20	4	5	16	6	49	8	13
A	計	235	18	2	8	22	73	19	4	3	22	4	43	5	12
	男	185	16	2	4	18	61	16	4	3	12	4	34	3	8
B	計	117	9	2	3	10	41	4	—	3	9	5	18	5	8
	女	91	8	2	3	4	37	4	—	2	4	2	15	5	5
		26	1	—	—	6	4	—	—	1	5	3	3	—	3

第11表 生計中心者の職業 (比率)

職業別		計	農業	漁業	畜産業	建設業	製造業	卸売及小売業	金融及保険業	不動産業	運輸通信業	サービス業	公務	その他	わからない
産業別	性別														
A・B	計	100	7.7	1.1	3.1	9.1	32.4	6.5	1.1	1.7	8.8	2.6	17.3	2.8	5.8
	男	100	8.7	1.4	2.5	8.0	35.5	7.3	1.4	1.8	5.8	2.2	17.8	2.9	4.7
	女	100	3.9	—	5.3	13.2	21.1	3.9	—	1.3	19.6	3.9	15.8	2.6	9.2
A	計	100	7.6	0.8	3.4	9.4	31.1	8.1	1.7	1.3	9.4	1.7	18.3	2.1	5.1
	女	100	7.7	1.7	2.6	8.5	35.0	3.4	—	2.6	7.7	4.3	15.4	4.3	6.8

第7図 生計中心者



第10問 そして、それは自分で経営しているのですか。

第12表 生計中心者の就業の形態(実数)

区分 職業別	計	自分で 経営し ている	他人に 雇われ ている	わから ない
A・B	349	151	184	14
計男女	275	117	148	10
B	74	34	36	4
A	232	59	164	9
計男女	184	48	130	6
B	48	11	34	3
A	117	92	20	5
計男女	91	69	18	4
B	26	23	2	1

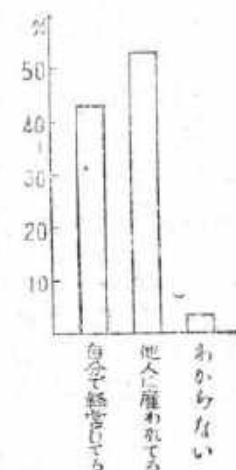
第13表 生計中心者の就業の形態(割合)

区分 職業別	計	自分で 経営し ている	他人に 雇われ ている	わから ない
A・B	100	43.3	52.7	4.0
計男女	100	42.5	53.8	3.7
B	100	45.9	48.6	5.5
A	100	25.4	70.7	3.9
計男女	100	26.1	71.1	3.8
B	100	23.4	76.6	0.0

年少労働者の家庭における家計負担者およびその者の職業別、自営の有無について見る。

先ず生計の中心者について見ると、第8表、第9表および第6図の如く、「父」の場合が57.5%、「母」8.8%、「兄」21.3%、「姉」5.5%等が主なものであつて、「父」が生計の中心者になつている場合が最も多い。しかし、それでも約半数を占めているにすぎないことは注目される。年少労働者自身が生計の中心者となつている者が4.3%を占めているが、この者は、前項の両親の有無状況を参考にして考えると、殆んど両親を失つた者であり、又、そうでなくても片親それも恐らく

第8図 生計中心者の職業の形態



は父親を失つたものではあるまいかと思われる。いづれにしても未だ心身の未成熟な年少労働者が、一家の生計の中心となつていることは、年少労働者にとって如何に精神的又は肉体的に及ぼす影響が深刻なものであるか想像に難くない。

次に、これら生計の中心者の職業について見ると、第10表、第11表および第7図の如く、「製造業」が32.4%を占めて、もつとも多く、「公務」17.3%「運輸通信業」8.8%、「農業」8.7%等が目立つている。

さらに、就業の形態について見ると、第12表、第13表、第8図の如く「自分で経営している者」が43.3%であるに対して、「他人に雇われている者」は52.7%で殆んど相なかつている。

第11問 あなたはどのように働くようになったのですか。

第14表 就業の動機(件数)

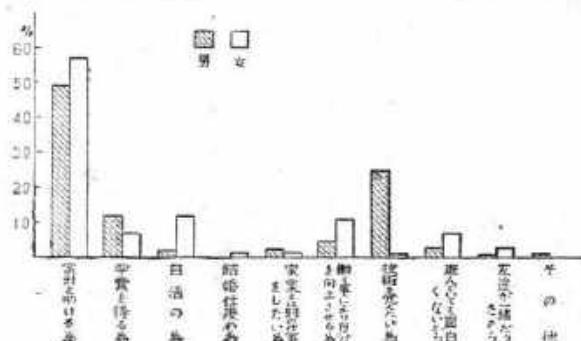
区分 職業別	計	家計を 助ける ため	養育を 受ける ため	生活の ため	結婚の ため	家計を 支える ため	家計を 支える ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため	働くに 興味を 持つた ため
A・B	399	203	45	16	1	8	23	81	14	4	4	4	4	4	4	4	4
計男女	324	160	40	7	—	7	15	80	9	2	4	4	4	4	4	4	4
B	75	43	5	9	1	1	8	1	5	2	—	—	—	—	—	—	—
A	267	135	35	11	—	6	14	57	8	—	—	—	—	—	—	—	—
計男女	221	109	31	6	—	5	8	56	5	—	—	—	—	—	—	—	—
B	46	26	4	5	—	1	6	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—
A	132	68	10	5	1	2	9	24	6	4	3	3	3	3	3	3	3
計男女	103	51	9	1	—	2	7	24	4	2	3	3	3	3	3	3	3
B	29	17	1	4	1	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—

次に就業の動機について見る。これまで年少労働者の人的環境について若干の考察をほどこしたが、このことにより、今、ここに述べようとする就業の動機の潜在的な要因はうかがわれたと思う。又、この就業の動機は、後述べる「作業観」あるいは「作業態度」とも密接に関連している。なお、就業の動機が、単に一つだけの理由だけでなく、数種の理由が、いりまじつている場合もあるので、ここでは回答

第15表 就業の動機(比率)

産業別	区分	計	家計を助けるため	学費を得るため	自活のため	結婚のため	仕事は別をしたい	働くことにより自分を向上させるため	技術を覚えたい	遊んでいても面白くないから	友達と一緒に	その他
A・B	計	100	51.0	11.2	4.0	0.3	2.0	5.8	20.2	3.5	1.0	1.0
	男	100	49.4	12.3	2.2	—	2.2	4.6	24.7	2.8	0.6	1.2
	女	100	57.3	6.7	12.0	1.3	1.3	10.7	1.3	6.7	2.7	—
A	計	100	50.6	13.1	4.1	—	2.3	5.2	21.3	3.0	—	0.4
	B	100	51.5	7.6	3.8	0.8	1.5	6.8	18.2	4.5	3.0	2.3

第9図 就業の動機



件数によつて処理することとした。この結果は第14表、第15表、第9図の如く、回答件数399件となっている。これを理由別にみれば次の如くである。すなわち、「家計を助けるため」が51.0%「学費を得るため」11.2%「自活のため」4.0%「結婚支度のため」0.3%「家業とは別の仕事をしたいため」2.0%「働くことにより自分を向上させるため」5.8%「技術を覚えたいため」20.2%「遊んでいても面白くないから」3.5%「友達と一緒にだったから」1.0%「その他」1.0%となっている。これによれば、就業の動機は、極めて多岐にわたっていることがわかる。この理由の中で、「家計を助けるため」という直接的家計補助が、51.0%で全体の半数を占

め、さらに、「学費を得るため」、「自活のため」、「結婚支度のため」という間接的な家計補助が15.5%を占めていること、つまり経済的要因から就職した者が66.5%の多きを占めている。

本人の意思いかんにかかわらず、外的事情に制約され、止むを得ず就職したこれら年少者の作業感あるいは作業態度には、陰に陽にこれが大きく影響すると思われるので、経営者としては、真に彼等がこの職業に興味を見出し、愛着を感じ得るよう育成する努力と配慮が望ましい。

次に「技術を覚えたい」、「働くことにより自分を向上させる」等自己の向上のため就業した者が26.0%を占めているが、このことは、さきに学歴の調査で、燃えるような向上心を示していることと考え併せて、この向上心を妨げることのないよう配慮が望ましい。がここにも、自己の向上や技術の習得を、進学以外の方法に求めなければならない経済的環境の必然性をうかがうことができることを忘れてはならない。

第12問 あなたは誰のついでで今の勤め先に入つたのですか。

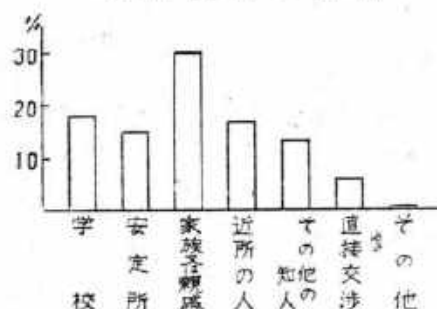
第16表 就職の経路(実数)

経路別	産業別	計	学校	公共職業安定所	家族又は親戚	近所の人	その他の知人	直接	その他(父が経営)	無記入
A・B	計	345	62	52	102	58	46	21	—	3
	男	274	47	41	86	46	36	16	1	1
	女	71	15	11	16	12	10	5	—	2
A	計	228	37	45	73	33	26	12	—	2
	男	183	30	34	62	28	20	9	—	—
	女	35	7	11	11	5	6	3	—	2
B	計	117	25	7	29	23	20	9	1	1
	男	91	17	7	24	18	16	7	1	1
	女	26	8	—	5	7	4	2	—	—

第17表 就職の経路 (比率)

経路別 産業別	計	学校	公共職業安定所	家族又は親戚	近所の人	その他の知人	直接交渉	その他(父が経営)
A・B	計	100	18.1	15.2	29.8	17.0	13.5	6.1
	男	100	17.2	15.0	31.5	16.8	13.2	5.7
	女	100	21.7	15.9	23.2	17.4	14.5	7.3
A	計	100	16.4	19.9	32.3	14.6	11.5	5.3
	B	100	21.6	6.0	25.0	21.6	17.2	7.8

第10図 就職の経路



経済的な理由や、自己の向上心等から就業した、これら年少労働者が、実際に職を探し、就職する際に誰を相談相手としたか、その就職の経路について見ると第16表、第17表および第10図の如くである。なお、ここにいう就職経路とは、ただ単に就職の相談相手となつた者でなく、その者の仲

介によつて就職が決定した場合がここに示されているものである。さて、回答した者は被調査者全員(345名)であつて、「家族又は親戚」を相談相手とした者29.5%、「近所の人」16.8%、「その他の知人」13.4%、「学校」18.0%、「公共職業安定所」15.0%、「直接交渉」6.1%、「その他」1.2%となつてゐる。ここで注目されることは、家族又は親戚あるいは、近所の人、知人等(59.7%) 日常身近な者を経て、就職した者が多いことでこのことは一面現在、事業場での採用方法として、機故採用が如何に多く用いられているかを示しているように思ふ。

なお、近所の人、あるいは知人の中には、この調査結果であらわれなかつた営利的紹介者が、いくつか含まれているのではあるまいか。さて、このように、就職の

方法として、日常身近な者を相談相手としていることは以上によつて明らかとなつたが、これに対して公共的なものを利用した者、すなわち学校、公共職業安定所などが33%にすぎないことは、公共的機関の活躍の余地が如何に残されているかを物語つてゐる。

なお、年少労働者自身で直接交渉した者が6.1% いるが、この者は、恐らく、両親を失つた者が大半であろう。

第13問 あなたは両親又は保護者と一緒に住んでいますか。

第18表 住居の種類

区分 産業別		合 計	同 居	同 居 し て い な い				
				小 計	寄 宿	下 宿	住 込	不 明
A・B	計	345	302	43	6	7	21	9
	男	274	238	36	5	4	21	6
	女	71	64	7	1	3	—	3
A	計	228	197	31	5	6	13	7
	男	183	157	26	4	4	13	5
	女	45	40	5	1	2	—	2
B	計	117	105	12	1	1	8	2
	男	91	81	10	1	—	8	1
	女	26	24	2	—	1	—	1

第19表 同居、否同居の区別

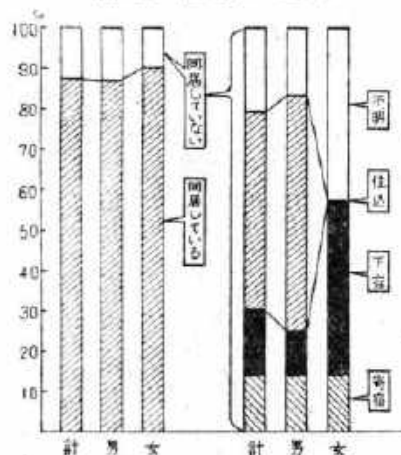
区分 産業別	計	同居している	同居していない
A・B (実数)	345	302	43
	274	238	36
	71	64	7
A・B (比率)	100	87.5	12.5
	100	86.9	13.1
	100	90.1	9.9

先に両親の有無のところで、両親のない者が3.2%を占めていたが、この他の者は、毎日親もとから工場に通つてゐるのであるうか、それとも、親もとを離れて、他郷に出稼ぎに行つてゐる者であるうか。こうした生活態度の相異を知るために、第13問の質問を試みたのであるが、

第20表 否同居者の住居の種類

産業別	区分 性別	計	寄 宿	下 宿	住 込	不 明
A・B (実 数)	計男女	43	6	7	21	9
		36	5	4	21	6
		7	1	3	0	3
A・B (比 率)	計男女	100	14.0	16.3	48.8	20.9
		100	13.9	11.1	58.3	16.7
		100	14.2	42.9	—	42.9

第11図 住居の種類



これに対しては、第18表、第19表、第20表、第11図の如く、被対象者全員(345名)が回答を寄せた。

これによれば同居している者は、87.5%を占めて、大部分が日夜父母の膝下に於て肉親の愛情の下に薫育をうけつつ工場に通っているが、残りの12.5%は同居していない。そこでこれらの同居していない者について生活様式をみると、「寄居舎」にいる者が、14.0%、「下宿」16.3%、「住込」48.8%、「不明」(同居していることは、

明確に答えながら、その住居の種類については答えてない答であつて、これは恐らく、回答すること(該当欄に○印をつけること)を忘れたのであらうと思われる。)20.9%となつてゐる。これらの者の中には遠く父母の許を離れ出稼ぎしている者、あるいは両親を失つて父母の愛に飢えながら下宿住いをしてゐる者等いろいろであるが、いづれにしても父母の置い膝下に生活していない者であり、真に彼等の生

活を保護し、指導する者は1人としていないので、ややもすれば若さのあまり、生活が放縦となりひいては、日々の生活態度、性行などに、好ましくない面も起り勝ちであると思うので、これら年少者に対する余暇生活の善導などは、特に経営者として留意が望ましい。なお、住込が多くみられこの住込といわれるものは、旧来の年期奉公、あるいは徒弟などの制度にみられる極度な身分や私生活の拘束性の残存要素が多分に含まれているのではないと思われるが、これも中小企業の労働経営の不合理を示す一端になるかもしれない。

性別に見ると、同居していない者は、女子にくらべて男子の方がその比率が高くなつてゐるが、女子で同居していない者7名のうち、寄居舎で生活している者1名はさておき、下宿3名というのは注目される。

第14問 今あなたの住んでいる部屋は何畳で、又何人(あなたを入れて)住んでいますか。

此処に示された畳数は、年少労働者が居住している部屋の広さを示すのではなく1人当りの畳数を示すものである。さて、調査の結果は第21表の如く回答した者308名で、この他に無記入のものが25名いた。この無記入者25名は、自分の使用している部屋の畳数が不明な者、あるいは、一定した自分の部屋というものをもっていない者などがこれに含まれているのであらう。いづれにしてもこの者は部屋の広さに対してある程度無関心なものであるとみていいように思う。さて、回答した者308名についてみると、第22表、第12図、第13図、第14図の如く1人当りの畳数が1畳の者が、33.1%で、もつとも多く、2畳22.1% 1.5畳21.8%などが目立つてゐる。6畳の者、これは恐らく一部屋を独占している者であらうが、この者が2.6%を占めるにすぎず、且つ6畳以上の者が皆無であることは、年少労働者の家庭の経済的な面の貧困性を示しているように思う。

なお基準法の寄居舎規程では、人1人が生活するには押入などを除いて、1人当り25平方メートル以上の広さが必要であるとしているが、これを畳数になおす

第21表 住居の広さ(実数)(1人当り畳数)

産業別		畳数別		計	0.5畳	1畳	1.5畳	2畳	2.5畳	3畳	3.5畳	4畳	4.5畳	5畳	5.5畳	6畳	不明
A・B	区分																
A	計			333	9	102	67	68	28	13	3	9	1	—	—	8	25
	小計			223	6	70	40	44	17	13	3	4	—	—	—	5	21
	同居	男女		155 39	5 1	50 14	31 8	32 7	10 2	6 2	2 0	2 0	— —	— —	— —	2 0	15 5
	同居していない	寄宿舍	男女	4 1	— —	1 1	— —	1 —	— —	1 —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
		住込	男女	10 —	— —	2 —	1 —	1 —	2 —	2 —	— —	1 —	— —	— —	— —	2 —	— —
		下宿	男女	4 3	— —	— 1	1 —	1 —	1 1	— 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 —
		不明	男女	4 3	— —	1 —	— —	2 —	— 1	— 1	— —	— 1	— —	— —	— —	1 —	— —
B	小計			110	3	32	27	24	11	—	—	5	1	—	—	3	4
	同居	男女		75 23	1 2	23 9	21 3	18 4	6 1	— —	— —	2 1	1 —	— —	— —	1 2	2 1
	同居していない	寄宿舍	男女	1 —	— —	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
		住込	男女	8 —	— —	— —	1 —	2 —	2 —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	— —	1 —
		下宿	男女	— 1	— —	— —	— 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
		不明	男女	1 1	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —

と、約3畳半となる。そこで、3畳半以下の者についてみると93.2%を占め、殆んどが最低の生活に必要な部屋の広さにも恵まれていないことがわかる。

次に同居している場合と、同居していない場合についてみよう。

ここで目立つことは第一は前者(同居している者以下同じ。)が、1~2畳に集注

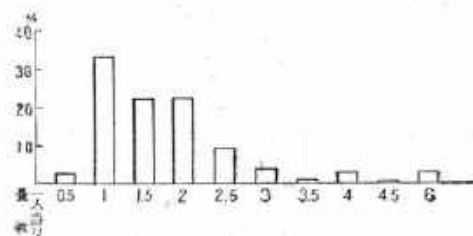
して多いのにくらべて、後者(同居していない者以下同じ。)は、1~4畳の各畳に平均していること。

第二は前者だけに0.5畳に混居している者がごく少数ではあるがみうけられること、この者は恐らく(両親あるいは兄弟と雑居しているものと思われるが)この

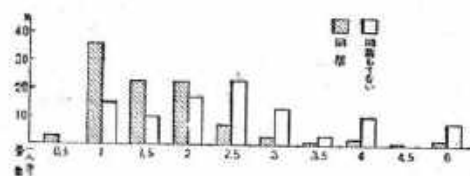
第22表 住 居 の 広 さ (実数および比率)

疊数別			計	0.5疊	1疊	1.5疊	2疊	2.5疊	3疊	3.5疊	4疊	4.5疊	5疊	5.5疊	6疊	不 明	
区 分																	
産 業 別	実数	A・B	308	9	102	67	68	28	13	3	9	1	—	—	8	—	
		A	202	6	70	40	44	17	13	3	4	—	—	—	5	—	
		B	106	3	32	27	24	11	—	—	5	1	—	—	3	—	
	比率	A・B	100	2.9	33.1	21.8	22.1	9.1	4.2	0.9	2.9	0.4	—	—	—	2.6	—
		A	100	3.0	34.7	19.8	21.8	8.4	6.4	1.5	2.0	—	—	—	—	2.4	—
		B	100	2.8	30.2	25.5	22.6	10.4	—	—	4.7	1.0	—	—	—	2.8	—
同居別否	実数	同居している	269	9	96	63	61	19	8	2	5	1	—	—	5	—	
		同居していない	39	—	6	4	7	9	5	1	4	—	—	—	3	—	
	比率	同居している	100	3.3	35.7	23.4	22.7	7.1	3.0	0.7	1.9	0.3	—	—	—	1.9	—
		同居していない	100	—	15.4	10.3	17.0	23.1	12.8	3.4	10.3	—	—	—	—	7.7	—
男 女 別	実数	男女	243	6	77	55	57	22	9	3	7	1	—	—	6	—	
			65	3	25	12	11	6	4	—	2	—	—	—	2	—	
	比率	男女	100	2.5	31.7	22.6	23.5	9.1	3.7	1.5	2.9	—	—	—	—	2.5	—
			100	4.6	38.5	18.5	16.9	9.2	6.1	—	3.2	—	—	—	—	3.2	—

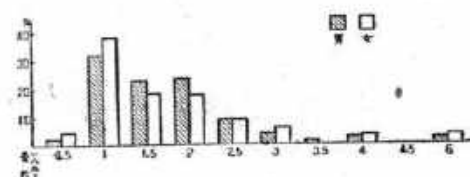
第12図 1 人 当 り 疊 数



第13図 同居, 否同居別疊数



第14図 男 女 別 疊 数



ものの家庭が如何に貧困であるかが窺われよう。

性別の相異は、ここでは殆んど見うけられない。

第15問 あなたの住居から勤め先まで、どの位時間がかかりますか。

年少労働者の通勤方法および通勤時間について見ると、第23表の如く、回答し

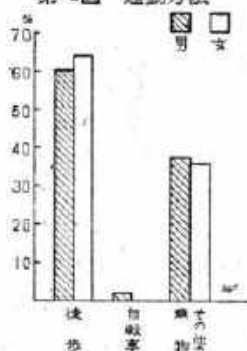
第23表 通勤方法および所要時間(実数)

区 分 産業別 性別		合 計	徒 歩	乗 物																	不明
				自 転 車				自 転 車 を 除 き そ の 他 の 乗 物													
				小計	10分 以内	20分 "	不明 "	小計	10分 "	20分 "	30分 "	40分 "	50分 "	1時間 "	1時間 10分"	1時間 20分"	1時間 30分"	1時間 40分"	1時間 50分"	2時間 "	
A・B	計	345	210	6	2	3	1	127	27	27	16	21	9	17	3	2	3	—	1	1	2
	男	274	165	6	2	3	1	102	21	23	13	20	7	11	2	3	—	1	1	1	
	女	71	45	—	—	—	—	25	6	4	3	1	2	6	1	2	—	—	—	1	
A	計	228	126	4	1	3	—	96	15	21	11	18	7	14	3	2	3	—	1	1	2
	男	183	101	4	1	3	—	77	12	17	9	18	5	9	2	3	—	1	1	1	
	女	45	25	—	—	—	—	19	3	4	2	—	2	5	1	2	—	—	—	1	
B	計	117	84	2	1	—	1	31	12	6	5	3	2	3	—	—	—	—	—	—	—
	男	91	64	2	1	—	1	25	9	6	4	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—
	女	26	20	—	—	—	—	6	3	—	1	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—

第24表 通勤方法(比率)

産業別	性別	区分	計	徒 歩	乗 物	
					自転車	その他の乗物
A・B	計		100	61.2	1.8	37.0
	男		100	60.4	2.2	37.4
	女		100	64.3	—	35.7
A B			100	55.8	42.5	1.7
			100	71.8	26.5	1.7

第5図 通勤方法



た者 343 名 (この他に無記入 2 名) である。

先ず通勤方法について見ると、第24表および第15図の如く、徒歩の者 61.2 %、乗物を利用する者 38.8 %、(自転車 1.8 %、その他の乗物 37.0 %) で、大部分

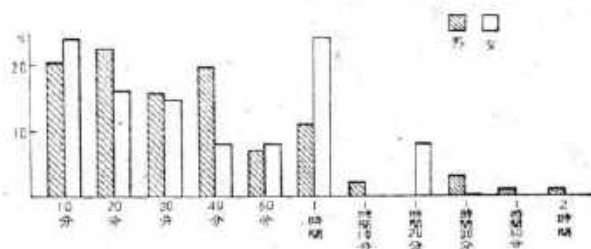
第25表 所要時間(比率)

区分 産業別 性別	計	10分	20分	30分	40分	50分	1時間	1時間10分	1時間20分	1時間30分	1時間40分	1時間50分	2時間
A・B	計	100	21.3	21.3	12.6	16.5	7.1	13.4	2.4	1.6	2.4	—	0.7
	男	100	20.6	22.5	12.7	19.6	6.9	10.8	2.0	—	2.9	—	1.0
	女	100	24.0	16.0	12.0	8.0	8.0	24.0	—	8.0	—	—	—
A	計	100	15.6	21.9	11.5	18.8	7.3	14.6	3.1	2.1	3.1	—	1.0
	男	100	38.7	19.4	16.1	9.7	6.4	9.7	—	—	—	—	—

が徒歩で通勤している。これによつて年少労働者の大部分が工場周辺に住居していることがわかる。

次に乗物を利用している者の通勤時間について見ると、もつとも多いのは 10 分以内および、10 分以上 20 分以内で、それぞれ 21.3 % を占めている。なお 30 分毎にこれを区分して見ると、30 分以内の者 55.2 %、30 分～1 時間 37.0 %、1 時間～1 時間 30 分 6.4 %、1 時間 30 分以上 1.4 % となつて、2 時間以上の者は皆

第16図 通 勤 時 間



無となつている。1時間以内の者が92.2%を占めていることからしても、小企業においては比較的工場に近い所から通つている者が多いことが窺える。このように

工場周辺の者が多いのは、豫放、知人関係による就職者が多いことも一つの原因になつてゐるのではあるまいか。1時間以上の者が若干いるが、この者については、労働疲労の面あるいは余暇生活善用の面から、何らかの考慮が必要であらう。

第15問まで、本調査における年少労働者の母体構造を明らかにしたが、この年少労働者は、現在の仕事に対してどのような感じをいだきながら毎日働いてゐるか、いわば年少労働者の作業観(狭義の意味での)ともいふべきものを、次に見ることとする。

III 業務に関する事項(第16問—第25問)

第16問 あなたの仕事の名は?

第26表 職 種

職 種 別		計	機 械	旋 盤	フ ラ イ ス	ケ ン マ	ボ ー ル 盤	シ エ ー パ ー	プ レ ス	ホ ツ ビ ン グ	板 金	製 罐	パ リ 取 り	ロ ッ ト 流 し	ハン ダ ブ け	溶 接	塗 装	エ ヲ チ ン グ	化 成	自動車組立	自動車修理	計 器 修 理
区 分																						
計	実 数 比	228 100	9 3.9	20 8.9	7 3.1	7 3.1	9 3.9	4 1.8	8 3.5	2 0.9	5 2.2	2 0.9	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4	4 1.8	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4	5 2.2
男 女	(実数) (実数)	183 45	9 —	20 —	7 —	6 —	8 —	4 —	8 —	2 —	2 3	2 —	— 1	— 1	1 —	1 —	4 —	1 —	1 —	1 —	1 —	3 2
職 種 別		巻 線	レ ン ズ 工	ヤ ニ バ リ	ガ ラ ス 球 工	配 電 盤	配 電 結	大 工	ケ ー ス 入 れ	組 立	仕 上 げ	調 整	検 査	包 装	荷 物 発 送	雑 役	タイ ピ ス ト	事 務	外 交	不 明		
区 分																						
計	実 数 比	6 2.6	5 2.2	1 0.4	2 0.9	3 1.3	1 0.4	1 0.4	1 0.4	33 14.6	34 15.0	7 3.1	3 1.3	2 0.9	1 0.4	20 8.9	1 0.4	9 3.9	1 0.4	1 0.4		
男 女	(実数) (比率)	2 4	4 1	— 1	1 1	3 —	1 —	1 —	— 1	27 6	27 7	6 1	— 3	— 2	1 —	20 —	— 1	1 6	1 —	1 —		

職 種 別 区 分		計	旋	フ	ケ	切	ブ	打	カ	口	先	み	板	鉄	溶	製	綿	綿	テ	管	金	組	仕	検	印	雑	事	不	
			盤	ライ	ン	断	レ	抜	ラ	打	手	ぎ	金	金	入	接	罐	物の	物	イ	線	属	立	上	査	刷	役	務	明
計	実 数 比 率	117 100	23 19.4	2 1.7	1 0.9	1 0.9	17 14.5	4 3.4	6 5.1	2 1.7	1 0.9	2 1.7	3 2.6	1 0.9	3 2.6	1 0.9	1 0.9	4 3.4	2 1.7	2 1.7	1 0.9	2 1.7	2 1.7	13 11.1	1 0.9	3 2.6	9 7.7	4 3.4	6 5.1
男	(実 数)	91	18	2	1	1	16	4	2	2	1	2	3	1	3	1	—	4	2	2	1	—	1	7	—	2	9	1	5
女	(実 数)	26	5	—	—	—	1	—	4	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	2	1	6	1	—	3	1	

先ず、年少労働者の職種について見ると、第 26 表の如くである。

ここに示した職種は、年少労働者自身の表現の差異、あるいは各事業場における職種内容の差異等については考慮が払われておらず、只単に年少労働者の記した職種名をそのままを記したものである。したがって厳格な意味での職種を示したものではない。

第 18 問 今やっている仕事は適していると思いますか。

第 27 表 仕事の適、不適 (実数)

産業別	性別	計	適している	適していない	わからない	記入なし
A・B	計	345	189	89	63	4
	男	274	153	74	44	3
	女	71	36	15	19	1
A	計	228	128	56	41	3
	男	183	105	46	29	3
	女	45	23	10	12	—
B	計	117	61	33	22	1
	男	91	48	28	15	—
	女	26	13	5	7	1

これらの職種に従事している年少労働者が、現在の仕事に対して自分の適性を主観的にはどう考えているであろうか、これを知るために第 18 問の質問を試み、こ

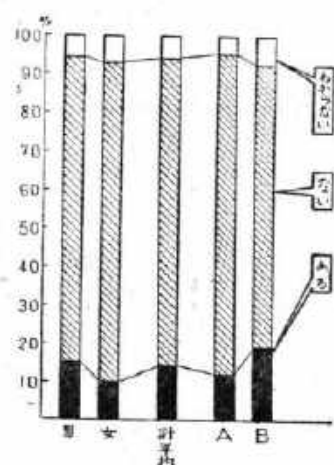
第 28 表 仕事の適、不適 (比率)

区分	計	適している	適していない	わからない
A・B	100	55.4	26.1	18.5
男	100	56.5	27.3	16.2
女	100	51.4	21.4	27.2
A	100	56.9	24.9	18.2
	100	52.6	28.4	19.0

れに対して「適している」「適していない」「わからない」の三項目を用意し該当する項に○印をつけさせる方法をとった。

この結果は、第 27 表、第 28 表、第 17 図の如く、回答した者 341 名(この他に無記入 4 名)のうち、現在の仕事が自分に「適している」という肯定的な者が 55.4%、「適していない」という否定的な者が 26.1% 残りの 18.5% は現在の仕事が自分に適しているかどうか「わからない」者であった。ここで注目される点は、26.1% の者が否定的の立場を表明し、明確に現在の仕事が自分には適していないことを自覚しているながらも、働いていることである。そ

第 17 図 仕事の適、不適



ここで問題は、これらの年少者をこのままの状態で放置すると、ややもすれば消極的、認知的精神状態に陥り、あるいは自暴自棄の心理状態に落ちこみ、この結果年少労働者自身の労働意欲、ひいては工場の生産能率ばかりか、かれらの私生活の態度、性行などにも大きく影響する恐れが多分にあると思われることである。

さらに、これを産業別に見ると、A産業では現在の仕事が自分に「適している」と答えた者が 56.9%、「適していない」が 24.9%、「わからない」が 18.2% となつてゐるのに対して、B産業では、それぞれ 52.6%、28.4%、19.0% となつており、現在の仕事が自分に適していないという否定的な者が占める割合はA産業に比較してB産業の方が高くなつてゐる。

次に性別に見ると、男子では、現在の仕事が自分に「適している」と答えた者が 56.5%、「適していない」が 27.3%、「わからない」が 16.2% となつてゐるのに対して女子では、それぞれ 51.4%、21.4%、27.2% となつており、現在の仕事が自分に「適している」と答えた者および「適していない」と答えた者が女子で占める比率よりも男子で占める比率の方がそれぞれ高くなつてゐる。

このことは仕事に対する男女の適性の認識、自覚の差異の一端を示しているように思う。

第 19 問 今やつてゐる仕事は危険性がありますか。

第 29 表 作 業 の 危 険 性 の 有 無 (実 数)

区 分 産業別 性別		計	あ る															な い	わ か ら な い	記 入 な し
			小 計	プレスで手を怪我する	手を切る	外傷を受け易い	手足をこる	衣服をこる	機械に危険がある	不慣れのため怪我する	自分の不注意	やけど	高熱	火気を扱う時害される	有毒薬品ガス	電気が易い	足場が悪い			
A・B	計	345	49	8	3	1	11	1	4	1	4	5	5	2	2	1	1	275	20	1
	男	274	42	8	3	—	8	1	4	—	4	5	4	2	1	1	1	217	15	—
	女	71	7	—	—	1	3	—	—	1	—	—	1	—	1	—	—	58	5	1
A	計	228	27	2	—	—	11	—	4	—	4	—	1	1	2	1	1	190	11	—
	男	183	23	2	—	—	8	—	4	—	4	—	1	1	1	1	1	149	11	—
	女	45	4	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	41	—	—
B	計	117	22	6	3	1	—	1	—	1	—	5	4	1	—	—	—	85	9	1
	男	91	19	6	3	—	—	1	—	—	—	5	3	1	—	—	—	68	4	—
	女	26	3	—	—	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	17	5	1

前項第 18 問において、仕事に対する適性を見たが次に仕事に対する危険性についてはどうに感じているであろうか。これを知るために第 19 問の質問を試み、これに対して「ある」「ない」「わからない」の三項目を用意し該当する項に○印をつける方法を取り、さらに「ある」場合にはその理由を余白に記入させた。

この結果は第 29 表、第 30 表、第 18 図の如く、回答した者 344 名（この他

に無記入 1 名）のうち、現在の仕事に対して危険性が「ある」と答えた者が 14.2%「ない」が 80.0% 残りの 5.8% は現在の仕事に対して危険性があるかどうか「わからない」者であつた。この調査結果の限りでは、大部分の者は現在の仕事に対して危険性があるとは感じていない。ただ 14.2% の年少労働者は危険性があると答えているが、これら年少労働者は恐らく毎日不安な感情あるいは恐怖的な感情

第30表 作業の危険性の有無(比率)

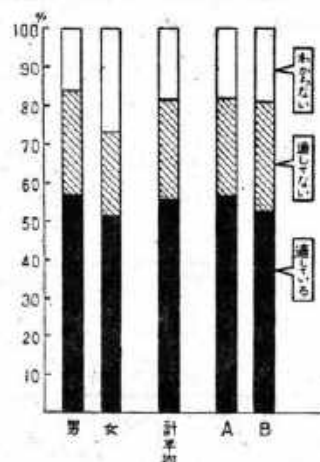
産業別	区分	計	ある	ない	わからない
A・B	計	100	14.2	80.0	5.8
	男	100	15.3	79.2	5.5
A・B	女	100	10.0	82.9	7.1
	計	100	11.9	83.3	4.8
A・B	男	100	19.0	73.3	7.7
	女	100	19.0	73.3	7.7

をいながら働いているのではあるまいか。しかもこの不安、恐怖の感情を誘発する原因として、年少労働者自身の内的原因—経験不足、心身の機能の不十分、例えば「自分の不注意」とか、「不慣れのため」など—にもとづく場合よりも、外的原因—作業設備の不完全、作業環境の不良、例えば「機械に手足をまきこまれやすい」、「プレスで手を怪我する」など—にもとづく場合が多いのは注目される点である。

これをさらに産業別に見ると、A産業では、現在の仕事に対して危険性が「ある」と答えた者が11.9%、「ない」が83.3%、「わからない」が4.8%となっているのに対してB産業ではそれぞれ19.0%、73.3%、7.7%となっており、現在の仕事に対して危険性が「ある」と感じている者は、A産業に比較してB産業の方が高くなっている。この傾向は前項において、現在の仕事が自分に「適していない」と答えた者が、同じ傾向を示していることと考えあわせると興味ある傾向であると思う。

次に性別に見ると、男子では現在の仕事に対して危険性が「ある」と答えた者が15.3%、「ない」が79.2%、「わからない」が5.5%となっており、女子はそれぞれ10.0%、82.9%、7.1%となっており、現在の仕事に対して危険性が

第18図 作業の危険性の有無



「ある」と感じている者は、男子で占める比率の方が女子で占める比率よりも高くなっている。このことからして、男子の方が女子よりも比較的危険な作業に従事しているということが窺われるように思う。又、危険性があるかどうか「わからない」者が若干はあるが、女子の方がその占める割合が高くなっていることは、前項で現在の仕事に対する適、不適が「わからない」者がやはり女子に高かったことからして、仕事に対する認識、自覚の程度差とみられる。

第20問 今やっている仕事はむずかしいですか。

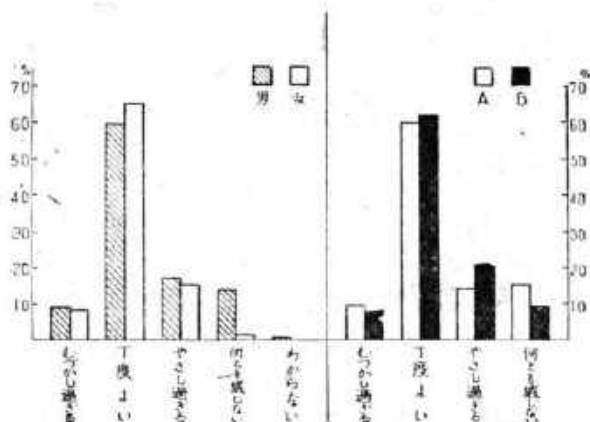
第31表 仕事の難易(実数)

産業別	区分	計	むずかしすぎる	丁度よい	やさしすぎる	なんとも感じない	記入なし
A・B	計	345	31	208	57	46	3
	男	274	25	162	46	38	3
A	女	71	6	46	11	8	—
	計	228	22	136	33	35	2
A	男	183	19	109	25	28	2
	女	45	3	27	8	7	—
B	計	117	9	72	24	11	1
	男	91	6	53	21	10	1
B	女	26	3	19	3	1	—

第32表 仕事の難易(比率)

産業別	区分	計	むずかしすぎる	丁度よい	やさしすぎる	なんとも感じない
A・B	計	100	9.1	60.8	16.7	13.4
	男	100	9.2	59.8	17.0	14.0
A	女	100	8.5	64.8	15.5	11.2
	計	100	9.7	60.2	14.6	15.5
A	男	100	7.8	62.0	20.7	9.5
	女	100	7.8	62.0	20.7	9.5

第19図 仕事の難易



次に、仕事に対する難易感はどうなるものだろうか。これを知るために第20問の質問を試み、これに対して「むずかしすぎる」「丁度よい」「やさしすぎる」「なんとも感ない」の四項目を用意し該当する項に○印をつける方法をとった。

この結果は第31表、第32表、第19図の如く回答した者342名（この他に無記入3名）のうち、「現在の仕事に対してむずかしすぎる」と答えた者が9.1%、「丁度よい」が60.8%、「やさしすぎる」が16.7%で、残りの13.4%は現在の仕事に対して、むずかしいとも、やさしいとも、なんとも感じていない者であった。この調査結果によれば、過半数以上の者が、現在の仕事の難易は「丁度よい」と感じており、年少労働者自身にとつて、あまりに易しすぎると感じている者と、これに対して「むずかしすぎる」と感じている者とは、ほぼ同数となつてゐる。

これをさらに産業別に見ると、A産業では現在の仕事に対して「むずかしすぎる」と答えた者が9.7%、「丁度よい」が60.2%、「やさしすぎる」が14.6%、

「なんとも感ない」が15.5%となつてゐるのに対して、B産業では、それぞれ、7.8%、62.0%、20.7%、9.5%となつており、現在の仕事に対して「むずかしすぎる」と感じている者が占める割合はA産業の方が、B産業に比較して、高くなつてゐる。前項においては、現在の仕事に対して適していないと答えた者、あるいは現在の仕事に対して危険性があると答えた者が占める割合は、A産業の方がB産業に比較して低かつたが、ここでは反対の傾向を示していることは注目される。

次に性別に見ると、男子では現在の仕事に対して「むずかしすぎる」と答えた者が9.2%、「丁度よい」59.8%、「やさしすぎる」が17.0%、「なんとも感ない」が14.0%となつてゐるのに対して女子は、それぞれ8.5%、64.8%、15.5%、1.2%となつており、現在の仕事に対して「むずかしすぎる」と感じている者は、男子の方が高くなつてゐる。このことは前項において、現在の仕事に対して危険性が「ある」と答えた者が、同じ傾向を示していたことと考え併せて興味ある点である。

第21問 今やつてゐる仕事は単調ですか。

第33表 仕事の性質 (実数)

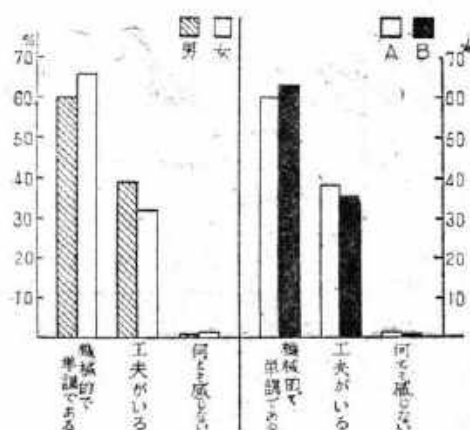
産業別	区分 性別	計	機械的 で単調 である	工夫が いる	なんとも 感ない	記入なし
A・B	計	345	200	122	4	19
	男女	274 71	155 45	100 22	3 1	16 3
A	計	228	129	82	3	14
	男女	183 45	101 28	67 15	2 1	13 1
B	計	117	71	40	1	5
	男女	91 26	54 17	33 7	1 —	3 2

次に、現在の仕事に対して単調を感じてゐるかどうか。これを知るために第21

第34表 仕事の性質 (比率)

産業別	区分 性別	計	機械的 で単調 である	工夫が いる	なんとも感 じない
A・B	計	100	61.3	37.4	1.3
	男	100	60.1	38.8	1.1
	女	100	66.2	32.3	1.5
A B		100	60.3	38.3	1.4
		100	63.4	35.7	0.9

第20図 仕事の性質



問の質問を試み、これに対して「機械的で単調である」、「工夫がいる」の二項目を用意し、該当する項に○印をつける方法をとつた。

この結果は第33表、第34表、第20図の如く回答した者326名（この他に無記入19名）のうち、現在の仕事が、「機械的で単調である」と答えた者が61.3%、「工夫がいる」が37.4%で残りの1.3%は現在の仕事に対して単調であるかどうか、

か、なんとも感じていない者であつた。前項の調査で仕事の難易を尋ねた結果、「むずかしすぎる」と答えた者が9.1%を占めていることと考えると、創意や工夫を必要とする作業がすべて「むずかしすぎる」とは限らず、創意性などを必要として、しかも、「丁度良い」と感じている場合も相当あることがわかる。近代産業の特色の一つである分業化につれて、作業は極度に単一化され、分割された部分作業となり、この結果、仕事が比較的容易となる傾向は前項およびこの調査によつて窺えるように思う。しかし、単純労働が長期にわたつて継続される場合は、ややもすれば倦怠を覚え、この結果災害を発生することもあり、あるいは創意性や労働意欲を失つたり、余暇生活が乱れたり、生活の向上発展が阻止される弊害もなくはないので、この点は労働の生産性を高めるうえからも、かかる年少者の希求と要望を満すように十分な配慮がなされることが望ましい。

さらに、産業別に見ると、A産業では、現在の仕事に対して、「機械的で単調である」と答えた者が60.3%、「工夫がいる」が38.3%、「なんとも感じない」が1.4%となつてゐるのに対して、B産業では63.4%、35.7%、0.9%となつており、現在の仕事に対して創意性を必要とと感じている者は、A産業の方がB産業に比較して高くなつてゐる。この傾向はこれまでに見てきた現在の仕事に対して、選していないと答えた者、あるいは現在の仕事に対して危険性があると答えた者がB産業の方が高かつたのとは反対の傾向を示していることは注目される。

次に性別に見ると、男子では現在の仕事が「機械的で単調である」と答えた者が60.1%、「工夫がいる」が38.8%、「なんとも感じない」が1.1%であるのに対して女子では、それぞれ66.2%、32.3%、1.5%となつており、創意性を必要とと感じている者は、女子よりも男子の方が高くなつてゐる。この傾向はこれまでに見てきた現在の仕事に対して「危険性がある」、「むずかしすぎる」と答えた者と同じ傾向を示している。

第22問 仕事時間中に雇主から私用を言いつけられることがありますか、それは

どんな事ですか

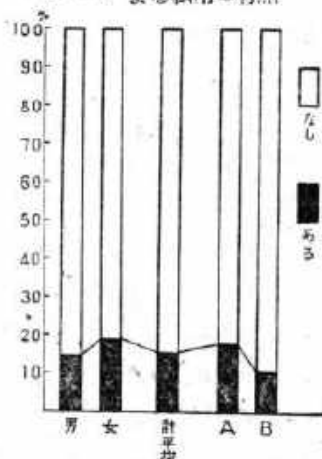
第35表 仕事中、雇主による私用の有無(実数)

産業別	性別	計	あ る								なし	記入なし
			小計	買物 お便 い	食事 運び	郵便 出し	個人 電 話	湯わ かし	雑用	理由 なし		
A・B	計	345	50	40	1	1	1	1	5	1	277	18
	男女	274 71	38 12	32 8	— 1	— 1	— 1	— —	4 1	— —	226 51	10 8
A	計	228	38	28	1	1	1	1	5	1	177	13
	男女	183 45	30 8	24 4	— 1	— 1	— 1	— —	4 1	— —	144 33	9 4
B	計	117	12	12	—	—	—	—	—	—	100	5
	男女	91 26	8 4	8 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	82 18	1 4

第36表 仕事中、雇主による私用の有無(比率)

産業別	性別	計	あ る	な し
A・B	計	100	15.3	84.7
	男女	100	14.4	85.6
		100	19.0	81.0
A	計	100	17.7	82.3
	男女	100	10.7	89.3

第21図 仕事中、雇主による私用の有無



第23問 仕事時間でない時に雇主から私用を言いつけられる事はありませんか、それはどんな事ですか

第37表 仕事時間外雇主による私用の有無(実数)

区分		計	あ る							な し	記入なし
産業別	性別		小計	買物 おい	来客 のとき	掃除 に	終業 後に 伝	家事	理由 なし		
A・B	計	345	27	20	1	3	1	1	1	297	21
	男	274	21	16	—	2	1	1	1	240	13
	女	71	6	4	1	1	—	—	—	57	8
A	計	228	20	16	1	2	1	—	—	189	19
	男	183	16	13	—	2	1	—	—	155	12
	女	45	4	3	1	—	—	—	—	34	7
B	計	117	7	4	—	1	—	1	1	108	2
	男	91	5	3	—	—	—	1	1	85	2
	女	26	2	1	—	1	—	—	—	23	1

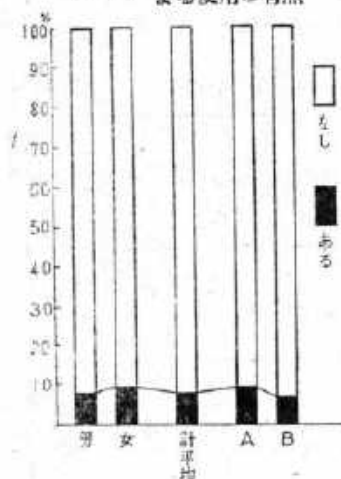
第38表 仕事時間外雇主による私用の有無(比率)

産業別	性別	計	あ る	な し
A・B	計	100	8.0	92.0
	男女	100	8.0	92.0
		100	9.5	90.5
A	計	100	9.6	90.4
	男女	100	6.0	94.0

中小企業においては、大規模企業に比較して経営形態とともに労働形態も一般に資本主義的要素を濃厚に留めていることがみとめられるが、その一端の現れとして、労働者を家事に従事させるとかその他業務外の仕事をさせる場合があると考え

られるので今回の調査に、仕事時間中の場合と、仕事時間外の場合とにわけて、それぞれ第22問および第23問の質問を試み、これに対して私用を言いつけられたことがある場合には、質問事項の余白に、具体的に内容を記入させ、ない場合に

第22図 仕事時間外雇主による使用の有無



は、同じ余白の欄に、その旨を記入させる方法をとつた。ところが、この種の調査については、大規模企業における調査資料が見当らず、大規模企業との比較ができなかつた。したがつて、ここでは単に調査結果の事実を示すだけにとどめることとした。

さて第一に仕事時間中における私用の有無状況を見ると、第35表、第36表、第21図の如く、回答した者327名（この他に無記入18名）のうち、仕事時間中、雇主から私用をいつけられたことが「ある」者が15.3%、「ない」者が84.7%で、その私用の内容を見ると、「買物のお使い」「重役の食事運び」「郵便出し」「個人の電話」「湯わかし」「雑用」となっており、この中でも買物のお使いは圧倒的に多い。

これをさらに産業別に見れば、A産業では私用をいつけられることが「ある」者が17.7%、「ない」者が82.3%であるのに対して、B産業ではそれぞれ10.7%、89.3%となっており、仕事時間中に雇主から私用をいつけられたことのある者はA産業の方が高くなっている。

次に性別に見ると、男子では仕事時間中に雇主から私用をいつけられたことの「ある」者が14.4%、「ない」が85.6%となつてゐるのに対して、女子はそれぞれ19.0%、81.0%となつて、私用をいつけられた者は女子の方が高くなつてゐる。

次に仕事時間外に雇主からの私用の有無状況を見ると、第37表、第38表、第22図の如く、回答した者324名（この他に無記入21名）のうち、仕事時間外

に雇主から私用をいつけられたことが「ある」と答えた者が8.0%、「ない」が92.0%で、その私用の内容を見ると、「買物のお使い」「来客のとき」「掃除」「終業後に手伝わされる」「家事」となっており、ここでも仕事時間中の場合と同じく買物のお使いが圧倒的に多い。

さらに産業別に見れば、A産業では私用をいつけられることが「ある」者が9.6%、「ない」が90.4%となつてゐるのに対してB産業では、それぞれ6.0%、94.0%となつており、仕事時間外に雇主から私用をいつけられたことのある者は、先に見た仕事時間中の場合と同様にA産業の方が高くなつてゐる。

次に性別に見ると、男子では仕事時間外に雇主から私用をいつけられたことが「ある」者が8.0%、「ない」が92.0%であるのに対して女子はそれぞれ9.5%、90.5%となつており、先に見た仕事時間中の場合と同様に女子の方が高くなつてゐる。

第24問 今の仕事をどう思いますか。

次に仕事に対する感想はどのようなものであろうか、これを知るために第24問の質問を試み、これに対して「好き」「無関心」「嫌い」の三項目を用意し該当する項に○印をつけさせ、且つその理由を余白に記入させる方法をとつた。

この結果は第39表、第40表、第23図の如く、回答した者338名（この他に無記入7名）であり、現在の仕事に対して「好き」という肯定的な者が52.4%「嫌い」という否定的な者が13.0%、残りの34.6%は無関心な者であつた。ここで注目される点は、現在の仕事に対して「嫌い」という否定的立場を表明した者が13.0%を占めていることである。これらの年少者がではどのような理由から嫌いになつたかを見てみると、一番多いのは「自分に適していない。」という理由にもとづくものであつた。先に第18問において、仕事に対する「適」「不適」をみた場合26.1%の者が自分に適していないと答えていたが、仕事に対する適、不適の問題が、仕事に対する嫌悪の感情と互に大きく影響しあうことが窺ひ知られると思

第39表 現在の仕事の好き嫌い (実数)

区 分 産業別		計	好 き																		不 明
			小 計	自 分 に 適 し か ら	細 い 仕 事 で し か ら	自 分 に 適 し か ら	細 い 仕 事 が 好 き だ か ら	好 き だ か ら	書 く こ と が 好 き だ か ら	機 械 を い じ る こ と が 好 き だ か ら	き だ か ら	面 白 い か ら	仕 事 が 楽 だ か ら	気 楽 だ か ら	容 易 だ か ら	機 械 を 使 う か ら	大 物 だ か ら	規 則 正 し い か ら	生 活 だ か ら	経 験 が あ る か ら	
A・B	計男女	345	177	22	2	5	1	2	24	5	2	3	11	1	1	1	3	1	93		
		274	146	15	1	4	—	2	24	4	2	2	11	1	1	1	3	—	76		
		71	31	7	1	1	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	1	17		
A	計男女	228	125	14	2	5	1	—	17	5	2	3	11	1	1	—	—	—	63		
		183	103	10	1	4	—	—	17	4	2	2	11	1	1	—	—	—	50		
		45	22	4	1	1	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	13		
B	計男女	117	52	8	—	—	—	2	7	—	—	—	—	—	—	—	1	3	1	30	
		91	43	5	—	—	—	2	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26	
		26	9	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	1	4	

嫌 い																無 関 心	無 記 入
小 計	自 分 に 適 し か ら	他 の 仕 事 が 好 き だ か ら	自 分 に 適 し か ら	他 の 仕 事 が 好 き だ か ら	や さ し か ら	面 白 く な い	仕 事 が 楽 だ か ら	危 険 な か ら	工 場 の 騒 音 が あ る か ら	衛 生 的 で な い	怒 ら れ る	将 来 性 が な い	感 を 使 い す	雑 用 ば か り	不 明		
44 30 14	7 6 1	1 1 —	6 2 4	3 3 —	5 3 2	3 3 —	3 3 —	1 1 —	1 1 —	2 2 —	2 1 1	1 1 —	1 1 —	1 1 —	10 4 6	117 95 22	7 3 4
28 20 8	5 4 1	1 1 —	— — —	— — —	1 1 2	5 3 —	3 3 —	1 1 —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	1 1 —	8 3 5	72 58 14	3 2 1
16 10 6	2 2 —	— — —	6 2 4	2 2 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	2 2 —	2 1 1	— — —	— — —	— — —	2 1 1	45 37 8	4 1 3

う。次は「他の仕事がしたいから」という理由の者であつたが、これらの者は現在自分が従事している仕事について自覚乃至認識をもてず、あるいはそういうものを

もたずに就職した者の苦情がこうに「他の仕事がしたい」と感じ始めたものではあるまいか。

第40表 現在の仕事の好き嫌い (比率)

産業別	区分	計	好き	嫌い	無関心
A・B	計	100	52.4	13.0	34.6
	男	100	53.9	11.1	35.0
A・B	女	100	46.3	20.9	32.8
	計	100	55.6	12.4	32.0
A・B	男	100	46.0	14.2	39.8
	女	100	55.6	12.4	32.0

次は「面白くない」という理由の者であるが、これは作業そのもの、すなわち労働条件からくる不愉快さであるのか、あるいは労働環境からくる不愉快さによるものか、あるいは将来に対する不安感、又は人的関係からくるものか、その理由については不明確であるが、面白くない理由をさらに探究してかれらが日々愉快に働けるような配慮が望ましい。

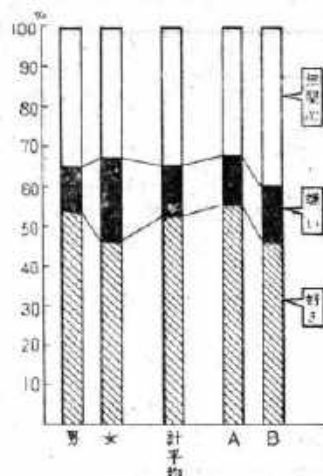
以上「嫌い」な理由としての代表的なものを見たのであるが、自分に「適していない」あるいは「面白くない」という理由は、逆に「適している場合」「面白い場合」には、好きな理由の代表的なものとなつてゐることからして、これらの理由が如何に年少者の嫌悪の感情の原因となつてゐるものであるかが窺ひ知れる。

又、無関心な者が 34.6% を占めてゐることは注目される。

これをさらに産業別に見ると、A産業では現在の仕事に対して「好き」と答えた者が 55.6%、「嫌い」が 12.4%、無関心が 32.0% であるのに対してB産業ではそれぞれ 46.0%、14.2%、39.8% となつており、現在の仕事が「嫌い」な者はB産業が高くなつてゐる。

理由別の傾向は大体A産業もB産業も変りはない。

第23図 現在の仕事の好き嫌い



次に性別に見ると、男子では現在の仕事に対して「好き」と答えた者が 53.9%、「嫌い」が 11.1%、無関心が 35.0% となつてゐるのに対し女子は、それぞれ 46.3%、20.9%、32.8% となつて男子の方が「好き」と答えた者が占める比率が高くなつてゐるが、先に述べた危険性がある場合も、むづかしすぎる場合も、創意性がある場合も、又、自分に適していると答えた者が占める比率が、男子の方が高かつたことと考え併せると興味ある傾向である。

第25問 現在の仕事と仕事場は健康によいと思ひますか。

次に現在の仕事と仕事場は健康に良いと思つてゐるかどうか、これを知るために第25問の質問を試み、これに対して「良い」「悪い」「わからない」の三項目を用意し、該当する項に○印をつけ、さらに「良い」と「悪い」の場合にはその理由を余白に記入させる方法をとつた。なお理由が1人で数項にわたる場合があつたので、この理由件数で結果を処理したので、調査人員数とは合致していない。

この結果は第40表、第41表、第24図の如く、回答件数 349 件（無記入 8 名）のうち、現在の労働条件乃至労働環境が自分の健康に「良い」という肯定的なものが 26.9%、「悪い」という否定的なものが 39.8%、残りの 33.3% は、自分の健康に良いか悪いか、「わからない」ものであつた。

この調査結果によれば、現在の労働条件乃至労働環境が自分の健康に対して「良い」というもの「悪い」というもの「わからない」ものが、それぞれほぼ同数となつてゐるが、この中でも健康に悪いと否定的立場を表明してゐるものが一番多いことは注目される点である。そこで健康に悪いという場合、どのような理由にもとづいてゐるものかについて見ると、塵埃、換気、採光、騒音など凡ゆる諸条件にわたつてゐる。すなわち「悪い」というもの 139 件のうち、「ほこりが立つ」55 件、「空気の流通が悪い」31 件「日当りが悪い」15 件「機械を操作する場合薬品から出る粉を吸ひ込む」6 件などであつて、作業環境が如何に改善される余地が残されてゐるかが容易に窺える。以上の理由は逆にこの状態が良い場合、年少者の健康

第41表 仕事と仕事場の労働環境(実数)

区 分 産 業 別 性別		計	良 い													
			小 計	工 場 が 清 潔 な る	空 気 が よ い の 流 通	日 当 り が よ い	ほ こ り が た い	規 則 的 で よ	精 神 的 に た い	安 全 装 置 が あ る	運 動 に な る	胸 を 丈 夫 に な る	骨 が 折 れ た	身 体 に 適 す	姿 勢 が よ い	理 由 不 明
A ・ B	計 男 女	357	94	7	2	5	2	1	1	1	3	1	2	1	1	67
		282	76	5	1	4	2	1	1	1	3	1	2	1	—	54
		75	18	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	13
A	計 男 女	228	62	7	1	3	2	—	—	1	3	1	2	—	—	42
		183	51	5	1	3	2	—	—	1	3	1	2	—	—	33
		45	11	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
B	計 男 女	129	32	—	1	2	—	1	1	—	—	—	—	1	1	25
		99	25	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	1	—	21
		30	7	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4

悪																	わから ない	記入 なし
小計	工場が不潔	空気が悪い	日当たりが悪い	ほこりが立つ	安全装置の不備	運動不足	過労になる	手が荒れる	建築物が小さい	ガスが充満する	騒音	油を使う	便所が不潔	仕事上の姿勢が悪い	薬品から出る粉を吸い込む	理由不明		
139 104 35	1 1 —	31 28 3	15 12 3	55 41 14	2 1 1	1 — 1	1 1 —	2 — 2	4 3 1	3 2 1	1 1 —	1 1 —	2 2 —	3 1 2	6 4 2	11 6 5	116 98 18	8 4 4
85 64 21	1 1 —	17 17 —	7 5 2	38 26 12	2 1 1	1 — 1	— — —	2 — 2	4 3 1	2 1 1	1 1 —	1 1 —	1 1 —	— — —	6 4 2	4 3 1	76 65 11	5 3 2
54 40 14	— — —	14 11 3	8 7 1	17 15 2	— — —	— — —	1 1 —	2 — 2	— — —	1 1 —	— — —	— — —	1 1 —	3 1 2	— — —	7 3 4	40 33 7	3 1 2

に良いという理由の重要なものとなつてゐることは十分考慮される必要がある

これをさらに産業別に見ると、A産業では自分の健康に「良い」というもの27.8

う。

%,「悪い」38.1%,「わからない」34.1%となつてゐるのに対してB産業では、

第42表 仕事と仕事場の労働環境(比率)

区分		計	良い	悪い	わからない
産業別	A・計	100	26.9	39.5	33.3
	B・男	100	27.3	37.4	35.3
	B・女	100	25.4	49.3	25.3
年齢別	A	100	27.8	38.1	34.1
	B	100	25.4	42.9	31.7

それぞれ 25.4%, 42.9%, 31.7% となっており、年少者の健康に悪いという否定的な者はB産業が高い。この傾向はさきに「現在の仕事が自分に適さない者」「危険性がある者」「嫌いな者」の傾向と同じであり、一般的にA産業よりもB産業は年少者自身の主観の限りでは向かない産業であるように思われる。

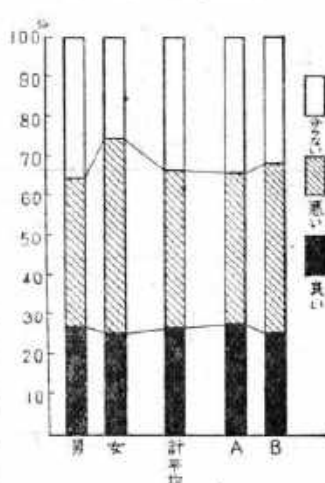
次に性別に見ると、男子では年少者自身の健康に良いと答えたものが 27.8%「悪い」が 38.1%、「わからない」が 34.1% であるのに対して女子では、それぞれ 25.4%, 42.9%, 31.7% で健康に悪いという者は女子の方が高くなっている。

以上年少労働者の作業観を、年少労働者自身の認識、主観を媒介として把握したが、この結果年少労働者の労働意欲を高めるにはどのような点に考慮が払われなければならないかその問題点が多少なりとも示されているように思う。

IV 労働条件に関する事項(第26問—第46問)

前項までに本調査における年少労働者の母体構造および作業観を見たが、次に彼等の労働条件(主として労働時間、労働賃金)を見ることとする。労働条件につい

第24図 仕事と仕事場の労働環境



ては既に事業場調査結果によつて一応制度的な労働条件は解明されているのであるが、ここにさらに年少労働者自身の表明を求めた理由は、制度と実際の相異、あるいは、制度上の労働条件に対する認識、およびこれに対する批判を知ろうとしたものであるが、一般に自供の不確実性、とくに年少者の場合はその傾向が増加されるので、自供の内容ですぐに客観的なものとくみ取することは困難であることを、一応念頭におかなければならない。

第26問 現在あなたが実際の仕事を始めるのは何時ですか、又終るのは何時頃ですか(準備の時間を含める。)

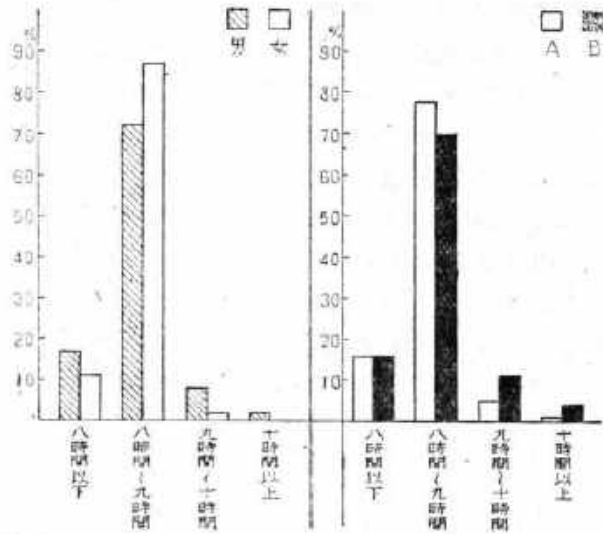
第43表 拘束時間(実数)

産業別	区分 性別	計	7時間	8時間	9時間	9時間	10時間	10時間	無記入	
			30分以 内	30分 以	30分 以	30分 以	30分 以	以上		
A・B	計	345	4	51	108	148	18	5	6	5
	男	274	4	43	72	123	17	5	6	4
	女	71	—	8	36	25	1	—	—	1
A	計	228	4	33	74	104	8	3	2	—
	男	183	4	31	57	79	7	3	2	—
	女	45	—	2	17	25	1	—	—	—
B	計	117	—	18	34	44	10	2	4	5
	男	91	—	12	15	44	10	2	4	4
	女	26	—	6	19	—	—	—	—	1

第44表 拘束時間(比率)

区 分		計	8 時間 内	8 時間 9 時間 間	9 時間 10 時間 間	10時間 以上
産業別	性別					
A・B	計	100	16.2	75.3	6.7	1.8
	男	100	17.4	72.3	8.0	2.2
	女	100	11.4	67.1	1.5	—
A		100	16.3	78.0	4.8	0.9
B		100	16.1	69.7	10.6	3.6

第25図 拘束時間



以上の質問から労働時間の長さだけを計算したところ結果は次の通りであつた。

先ず、年少労働者が実際に仕事を始めてから、仕事が終わるまでの時間を、便宜「8時間以下」—8時間の者を含む。以下同じ「9時間以下」—8時間以下の者を含まず。「10時間以下」—9時間以下の者を含まず。「10時間以上」—10時間の者を含まず。一の四項目に分類、整理してみると、第43表の如く、回答者345名（この他に無記入5名）である。ここに示されている拘束時間には、就業規則、あるいは労働契約等によつて予め定められた実際労働時間と、休憩時間その他、作業準備、後始末で本人の自由意志にもとづく労働時間等が含まれている。この調査結果によると、「8時間以下」が16.2%、「9時間以下」75.3%、「10時間以下」6.7%、「10時間以上」1.8%となつており、「9時間以下」の者が圧倒的に多くなつている。これは法律で、年少労働者の実際労働時間が、原則として最大許容労働時

間を1日8時間と定め、休憩時間はこの場合最低45分をあたえることとなつているので、恐らくこれに準拠したためであらうと思われる。なお9時間以上の者が8.5%を占めているが、この者は原則としては時間外勤務者と見られるが、法的にいろいろの例外があるので、一概にはこのことは言い得ない。しかしいづれにしても実質的な労働時間であるので年少労働者の身心の順調な発育には好ましいとは思われない。

次に産業別に見ると、「9時間以下」の者については両産業とも大差ないが、「10時間以下」および「10時間以上」では、A産業がそれぞれ4.8%、0.9%となつていのにに対して、B産業では10.6%、3.6%と、拘束時間が長くなるにしたがつて、B産業の方が長時間拘束される者が多くなつていいる。

次に性別に見ると、9時間までの者については、男女とも大差ないが、「10時間以下」および「10時間以上」では、男子がそれぞれ8.0%、2.2%を占めているのに対して、女子は1.5%はおよび10時間以上皆無となつていいる。このことによつて、長時間拘束される者は男子の方が比率が高く、且、拘束時間が長くなるにしたがつてこの差は著しくなつていいることがわかる。

第27問 労働時間についてどう思いますか。

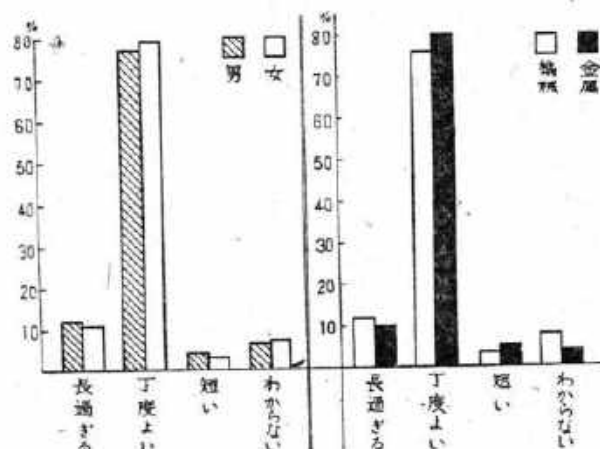
第45表 実 際 労働 時間 (実数)

産業別	区分	区 分				
		計	長すぎる	丁度よい	短 い	わからな い
A・B	計	345	40	268	14	23
	男	274	32	212	12	18
	女	71	8	56	2	5
A	計	228	28	174	8	18
	男	183	20	139	8	16
	女	45	8	35	—	2
B	計	117	12	94	6	5
	男	91	12	73	4	2
	女	26	—	21	2	3

第46表 実 際 労 働 時 間 (比率)

産業別	区 分 性別	計	長すぎる	丁度よい	短 い	わからない
A・B	計	100	11.6	77.6	4.1	6.7
	男	100	11.7	77.4	4.0	6.6
	女	100	11.3	78.9	2.8	7.0
A B		100	12.3	76.3	3.5	7.9
		100	10.2	80.4	5.1	4.3

第56図 実 際 労 働 時 間



さて、このような拘束時間について、年少労働者は長いと感じているかどうか。これを知るために、「長すぎる」「丁度よい」「短い」「わからない」の四項目を用意し、該当する項に○印をつけさせる方法をとった。

この結果は、第45表、第46表、第56図の如く、「丁度よい」と答えた者が圧倒的に多く77.6%を占め、「長すぎる」11.6%、「わからない」6.7%「短い」

4.1%となっている。

作業時間が、制度として実際に長いために、このように感じたものか、あるいは、学生生活から、社会生活には入って環境の変化からなんとなく長く感じたものか、あるいは、作業環境などに不満をもち、この環境から少しでも早く解放されたいという意識が、このような長過ぎるという感じをいだかせたものであるか、その理由が、いづれに在るかは推測できないが、ともあれ、長過ぎると感じている年少者は、この意識が作業能率に影響することは否定できないであろう。

なお、「長すぎる」と答えた者は、実人員では、40名となつていますが、前問における9時間以上の者29名は、大部分長すぎると感じているのではあるまいか。

次に産業別に見ると、A産業では「長すぎる」が12.3%、「丁度よい」76.3%、「短い」3.5%、「わからない」7.9%であるに対して、B産業では、それぞれ10.2%、80.4%、5.1%、4.3%となつていて。ここで注目されることは「長すぎる」と答えた者が、B産業よりもA産業の方がその割合が高くなつていてことである。前問で、9時間以上の者がB産業の方が割合が高かつたのにくらべてこの項では逆の傾向を示しているが、このことからして、拘束時間が長いからといって、必ずしも年少労働者自身では、長すぎると感じるものではないということがわかり、これは個人差(精神的、肉体的)や労働環境の差などによつていよう思う。

次に性別に見ると、男子では「長すぎる」が11.7%、「丁度よい」77.4%、「短い」4.0%、「わからない」6.6%であるに対して、女子では、それぞれ11.3%、78.9%、2.8%、7.0%となつており男女差は殆んど見られない。

第29問 決つた休憩時間がありますか、ない場合は普通何時頃休みますか。

以上、拘束時間および、これに対する長短の感じを見て来たが、次に休憩時間について見ることにする。

休憩時間については第47表の如く回答した者336名(この他に無記入9名)で一定の時刻に一定の時間あたえられている者と、そうでないものとの二種に大別

第47表 休 憩 時 間 (実 数)

区 分		計	決 つ て い る					決 つ て い ない		無記入
産 業 別	性 別		小計	30分以下	45分 〃	1時間 〃	1時間 30分 〃	1時間		
A・B	計	345	334	22	106	185	20	2	9	
	男	274	265	19	85	147	14	2	7	
	女	71	69	3	21	39	6	—	2	
A	計	228	223	16	67	125	15	2	3	
	男	183	178	13	55	101	9	2	3	
	女	45	45	3	12	24	6	—	—	
B	計	117	111	6	39	61	5	—	6	
	男	91	87	6	30	46	5	—	4	
	女	26	24	—	9	15	—	—	2	

第48表 休憩時間 (比率)

区分 産業別 性別		計	決つて い る	決つて いない
A B ・	計	100	99.5	0.5
	男	100	99.3	0.7
	女	100	100	0
A B	計	100	99.1	0.9
	男	100	100	—

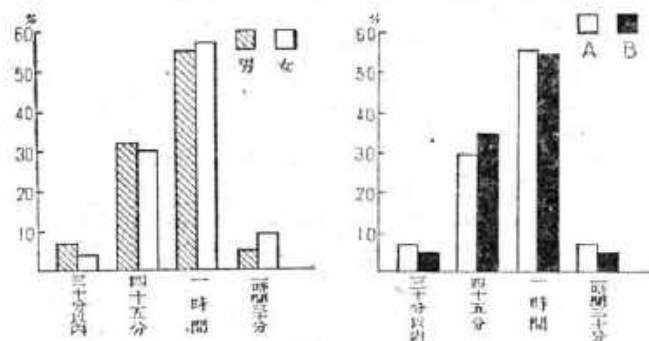
され、第48表の如く前者が99.5%を占めるに対して、後者は0.5%にすぎず、大部分の者が定めた休憩時間をもっている。

そこでここでは休憩時間が定まっている者374名について、その長さを便宜上「30分以下」—30分の者を含

第49表 決 つ て い る 者 の 休 憩 時 間

区 分		計	決 つ て い る			
産 業 別	性 別		30分以下	45分々	1時間々	1 時間 30分々
A・B	計	100	6.6	31.7	55.7	6.0
	男	100	7.2	32.1	55.4	5.3
	女	100	4.3	30.4	56.6	8.7
A B	計	100	7.2	30.0	56.1	6.7
		100	5.4	35.1	55.0	4.5

第27図 決 つ て い る 者 の 休 憩 時 間



む。以下この項は同じ「45分以下」—30分以下の者を含まず。「1時間以下」—「45分以下」の者を含まず。「1時間30分以下」—「1時間以下」の者を含まず。一の四項目に分類して見ることとした。この結果は第49表、第27図の如く「30分以下」の者6.6%「45分以下」31.7%、「1時間以下」55.7%、「1時間30分以下」6.0%で、「1時間以下」の者がもつとも多くなっている。ここで注目されることは、30分以下の休憩しか与えられていない者が6.6%を占めていることである。この者は恐らく食事時間も、この中に含まれていると思われるので、休憩の制度の真意は、これでは達成されていないと思われる。

第33問 年次有給休暇はありますか。

年次有給休暇(以下年休と略称する)の有無状況をみたものである。この結果は第50表、第51表、第28図の如く、回答者332名(この他に無記入13名)であり、年休「あり」と答えた者32.5%に対して「なし」48.8%となり、年休がない者が若干多くなっている。年休がないと答えた者の中には、制度として事業場で年休が採用されていない場合、あるいは現在年休をとつたことがない者、又は、勤続年数が一年未満のため、年休が貰えられない者等がここに含まれていると思われる。なお、年休が「ある」か「ない」かわからない者が8.7%を占めている。

第50表 年次有給休暇の有無(実数)

産業別	区分 性別	計	あ る											な し	わからぬ	無記入
			小計	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	不明			
A・B	計男女	345	108	2	3	3	19	30	8	2	—	13	28	162	62	13
	男	274	80	1	3	3	12	24	7	2	—	12	16	127	55	12
	女	71	28	1	—	—	7	6	1	—	—	1	12	35	7	1
A	計男女	228	75	1	—	—	4	24	8	2	—	13	23	103	39	11
	男	183	60	—	—	—	3	20	7	2	—	12	16	79	34	10
	女	45	15	1	—	—	1	4	1	—	—	1	7	24	5	1
B	計男女	117	33	1	3	3	15	6	—	—	—	—	5	59	23	2
	男	91	20	1	3	3	9	4	—	—	—	—	—	48	21	2
	女	26	13	—	—	—	6	2	—	—	—	—	5	11	2	—

第51表 年次有給休暇の有無(比率)

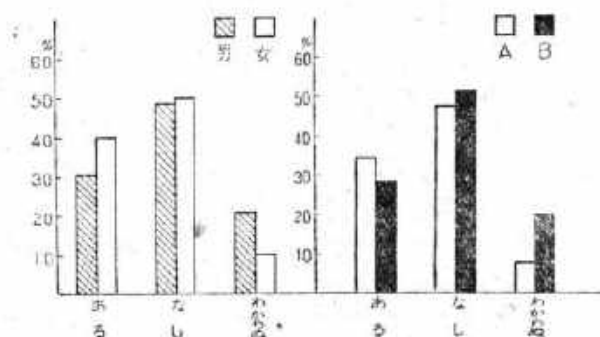
産業別	区分 性別	計	あ る	な し	わからぬ
A・B	計男女	100	32.5	48.8	8.7
	男	100	30.5	48.5	21.0
	女	100	40.0	50.0	10.0
A	計	100	34.6	47.5	7.9
	B	100	28.7	51.3	20.0

が、これは勤めて間もないために、このような制度があることを知らないのか、あるいは事業場に制度としてないことによるものであらう。ここに、制度一法に対する認識の程度が示されると同時に小企業にありがちな労働条件提示の不明確性なども窺えるように思う。

年休「あり」と答えた者について、その日数を見ると、108名のうち、「6日」が30名で、もつと多く、次は「5日」の19名が目立つ。

産業別に見ると、A産業では、年休が「ある」とする者が34.6%であるに対して、B産業では28.7%となつている。これは、年休制度が、A産業の方が徹底しているように見えるべきであらうか、あるいはB産業の方に、1年末満の者が多いと見る

第52図 年次有給休暇



べきであらうか。此の点は不明確であつた。

なお、年休があるのか、ないのかわからない者が、A産業の7.9%に比較して、B産業が20%と、その占める比率が高くなつていことからすると、A産業の方が年休制度は徹底していると、言いうるようである。

次に性別に見ると、年休があるとする者は、男子30.5%に比較して、女子は

40%で、女子の方が、比率が高い。又、年休の有無不明な者が男子21%に対して女子は10.0%で、男子の方が比率が高い。このことは、年休制度に対する意識の程度差を表すものである。これは恐らく、女子には生理休暇という制度があるので、これから認識が深まったものではあるまいか。あるいは、たまたま、女子が就業している事業場にかぎって、年休の制度が普及徹底していたとも見られる。

第35問 その給料は直接あなたが受けとりますか。

第32表 給料の受取者 (実数)

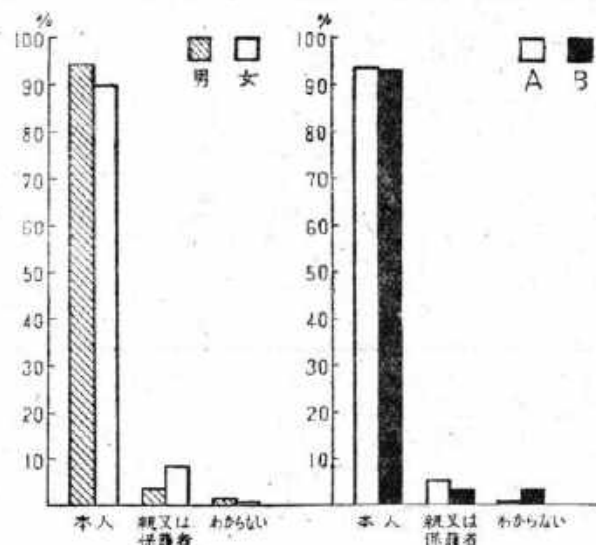
産業別	区分	計	本人	親又は 保護者	わからない (入社早々)	無記入
A・B	計	345	310	16	6	13
	男	274	247	10	5	12
A	計	228	203	12	2	11
	男	183	164	7	1	11
B	計	117	107	4	4	2
	男	91	83	3	4	1
B	計	26	24	1	—	1
	男	26	24	1	—	1

第33表 給料の受取者 (比率)

産業別	区分	計	本人	親又は 保護者	わからない
A・B	計	100	93.4	4.8	1.8
	男	100	94.3	4.0	1.7
A	計	100	90.0	8.6	1.4
	男	100	93.5	5.5	1.0
B	計	100	93.0	3.5	3.5
	男	100	93.0	3.5	3.5

93.4%を占め殆んど大部分である。なお親権者又は後見人が代つて受取る場合が4.8%を占めている。

第29図 給料の受取者



賃金の受取りに対して、「わからない」と答えたものが1.8%を占めているが、これは入社早々で、賃金を受取つたことがないためであろう。

産業別に見ると、親権者又は後見人が、年少労働者に代つて受取る場合は、両産業とも大差ないが、性別には、男子4.0%に対して女子8.6%で、女子の方が比率が高くなっている。

第37問 給料の支払日は決つていますか。

給料の支払期日について調査したもので、この調査の結果は、第54表、第55表、第30図の如く回答者337名(この他に無記入8名)で、給料の支払日が「定つてい

第54表 給料の支払日 (実数)

区分 産業別	性別	計	決つて いない	決つて いる				わから ない	無記入
				小計	その日に 貰える	その日に 貰えない	わから ない		
A・B	計男女	345	13	317	266	37	14	7	8
		274	12	247	212	24	11	7	8
		71	1	70	54	13	3	—	—
A	計男女	228	7	211	189	14	8	2	6
		183	6	167	155	6	6	2	8
		45	1	44	34	8	2	—	—
B	計男女	117	6	106	77	23	6	5	—
		91	6	80	57	18	5	5	—
		26	—	26	20	5	1	—	—

第55表 給料の支払日 (比率)

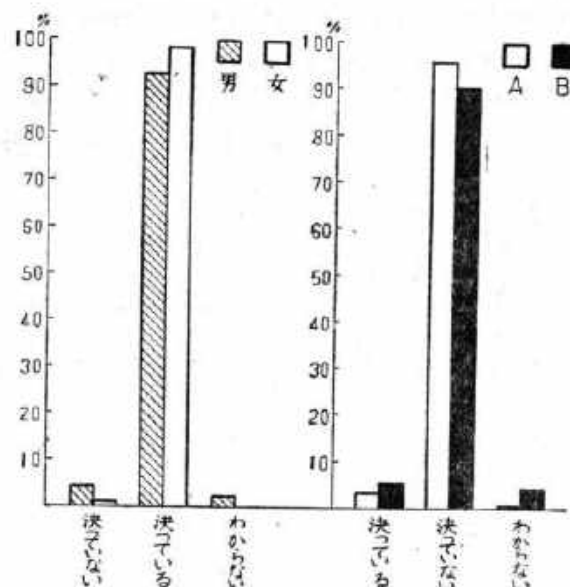
区分 産業別	性別	計	決つて いない	決つて いる	わから ない
A・B	計男女	100	3.9	94.1	2.0
		100	4.5	92.9	2.6
		100	1.4	98.6	—
A	計男女	100	3.2	96.0	0.8
		100	5.1	90.6	4.3
		100	—	—	—

い、2.0% となつている。給料の支払日が定つている者 317 名について見ると、定つた支払日に貰える者は 266 名で、大部分の者が、定つたその日に給料を貰っている。しかし、37 名の者は、定つたその日に貰っていない。中小企業には、賃金遅配の傾向が見受

けられるが、ここに、その一つの傾向が見られるように思う。この賃金遅配の問題は、労働者の生活ひいては労働意欲に影響することが甚大であると思うので、経営者として善処が望ましい。

産業別には、特別の傾向は見られないが、性別に見た場合、支給日が定つているかどうか、わからない者が男子では 2.6% を占めていたのにくらべて、女子では皆無となつている。このことは、女子自身が賃金の支給方法について、関心が深い、あるいは女子には入社早々の者がいないか、又は、女子が従事している事業場が、たまたま賃金に関する制度の周知が徹底していたか、いずれかによるものであ

第30図 給料の支払日



らう。

第38問 工場では、あなたに天引貯金をやらせていませんか、それは1ヵ月どの位ですか。

天引貯金の有無状況を見る。これは、従来年少労働者に、無駄使いをさせず、貯蓄の念を高め、ひいては、生活の安定をはかる意味から、天引貯金を、経営者が一括して、行つていた場合が多かつたようであるが、これが、ややもすれば、事業主の運転資金に悪用される憂いがあり、賃金本来の意義から、脱却する恐れがあるので、法的には、この天引貯金を禁じている。しかし、小企業においては、いまだにこれを行つていところと少なくないと思われたので、調査項目を加えたので

第56表 天引貯金の有無(実数)

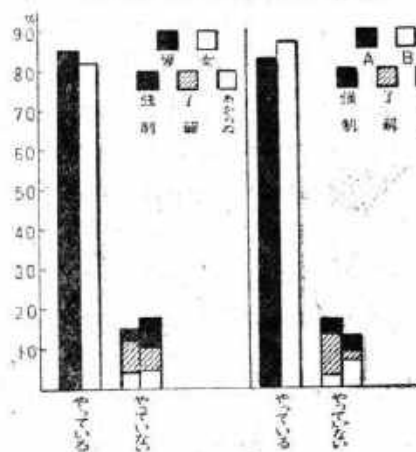
産 業 別	区 分 性 別	合 計	やつて いない	やつて いる																												無記入								
				小 計			20円			30円			50円			60円			100円			200円			500円			600円			900円			希望額			分らぬ			
				強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制		了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ	強制	了解	分らぬ
A・B	計男女	345 274 71	267 212 55	12 7 5	24 20 4	13 10 3	— — —	1 1 —	4 3 1	— — —	5 3 2	— — —	— 1 —	— — —	— — —	— — —	7 2 —	6 6 5	— — —	2 2 —	— — —	1 1 —	3 2 1	— — —	2 1 —	4 2 2	1 1 —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	— — —	3 3 —	3 3 —	5 5 —	29 25 4				
A	計男女	228 183 45	171 139 32	8 3 5	21 18 3	6 5 1	— — —	— — —	4 3 1	— — —	5 3 2	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	7 2 5	6 6 —	— — —	2 2 —	— — —	— — —	3 2 1	— — —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	— — —	1 1 —	3 3 —	2 2 —	22 18 4				
B	計男女	117 91 26	96 73 23	4 4 —	3 2 1	7 5 2	— — —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	1 2 —	4 2 1	1 1 —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	2 2 —	— — —	3 3 —	7 7 —			

第57表 天引貯金の有無(比率)(無記入の者を除)

産 業 別 性 別	区 分	合 計	やつて いない	やつて いる		
				強 制		
				強 制	了 解	わ か ら ぬ
A・B	計男女	100	84.5	3.8	7.6	4.1
		100	85.1	2.8	8.0	4.1
		100	82.1	1.5	6.0	4.4
A	計男女	100	83.0	3.9	10.2	2.9
B	計男女	100	87.3	3.6	2.7	6.4

ある。。これによれば、第56表、第57表、第31図の如く回答した345名のうち、天引貯金を「やつていない」場合が77.4%、「やつている」14.2%「わからぬ」8.4%となつて、大部分の者は、天引貯金をやつていない。しかし、14.2%の者(49名)は、天引貯金をさせられているが、この者の中には、強制的に、貯金をさせられている者12名、年少労働者の同意を得てやつている者24名そのいづれとも判断困難な者13名となつて、強制的に貯金させられている者が、未だに

第31図 天引貯金の有無



若干認められることは、注目すべき点である。又、これを金高の面からみると、1ヵ月最低20円から最高900円までで、この中でもつとも多いのは、100円貯金をしている者である。なお、特殊なものとしては、貯金額は、本人の希望によつて行方者が1名認められた。

第39問 あなた達が選別した時、又は何か落度があつた時給料から差引かれることがあります

か。

選別あるいは落度が年少労働者自身にあつた場合、給料から実際に差引かれてい

第58表 遅刻その他の理由による給料からの控除(実数)

産業別	区分	合計	差引か れない	差 引 か れ る												不明	不明
				小 計	月給 3%	半日50円	15分以上	30分以上	60分以上	1時間 10円以下	15円以下	20円以下	25円以下	1回100円	1月3回以 上 300円		
A・B	計	345	190	117	1	1	3	2	1	1	3	4	1	1	1	98	38
	男	274	152	92	1	1	3	2	1	1	3	4	1	—	—	75	30
	女	71	38	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	23	8
A	計	228	129	75	—	—	—	—	—	1	3	4	1	1	1	64	24
	男	183	104	60	—	—	—	—	—	1	3	4	1	—	—	51	19
	女	45	25	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	13	5
B	計	117	61	42	1	1	3	2	1	—	—	—	—	—	—	34	14
	男	91	48	32	1	1	3	2	1	—	—	—	—	—	—	24	11
	女	26	13	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	3

第59表 遅刻その他の理由による
給料からの控除 (比率)

産業別	区分	合計	差引か れない	差引か れる	不明
A・B	計	100	55.0	44.0	11.0
	男	100	55.5	33.6	10.9
	女	100	53.5	35.2	11.3
A	計	100	56.2	33.3	10.5
	B	100	52.0	36.1	11.9

目されることは、遅刻した場合などに、実際には給料から差引かれないものが、44%を占めているが、これは恐らく、給料の計算が複雑となるので、これを、休暇によりかえているのであろう。

なお、差引かれている者の内容についてみると、1時間を単位として、差引く場合あるいは、15分以上の如く、若干の猶予を認めている場合、あるいは、回数で、一定以上の回数に達した時、差引くというように、差引く場合の形式は、いろいろまちまちである。給料から差引かれるかどうか、わからない者が11.0%いるが、

るかどうか、又、実際に差引かれて
いるとすればそれは、どのような内
容のものであるか、これを示したの
が第58表、第59表で、回答者345
名のうち、「差引かれない」者55.0
%、「差引かれる」者44.0%差引
かれているかどうか、わからない
者11.0%となつてゐる。ここで注

これは、入社早々のため、知らないのか、あるいは、例え給料を貰つても、その給
料の内訳を良く見ない(特に両親又は保護者が代つて受取る場合)で、知らない場
合等が考えられる。

産業別、性別の場合には、特殊な傾向はみられないようである。

第41問 住込の場合、食物や部屋の経費はどうなつてゐますか。

第13問で、両親又は保護者と一緒に住んでいるかどうかを見た場合、同居して
いない者が43名いたが、この中、住込は所謂昔の徒弟制度が極めて濃厚であると
考えられる。そこで住込の場合だけについて、年少労働者の食費あるいは、部屋代
が一体どれ位であるか、また、その支払方法はどのように払われているかを見よ
うとした。ところが、調査の結果は、部屋代についての回答者は皆無であつた。
これは恐らく部屋代として別にとらず、食費の中に一緒に含まれているのであ
らう。

さて、住込21名は、いずれも男子であるが、その食費について見ると、第60
表、第61表、第32図の如く食費が、いくら知らない者が9名(42.9%)で、
約半数を占めているが、この者は、恐らく、給料は、原則として、住んで、食べ

第60表 住込者の住居費 (実数)

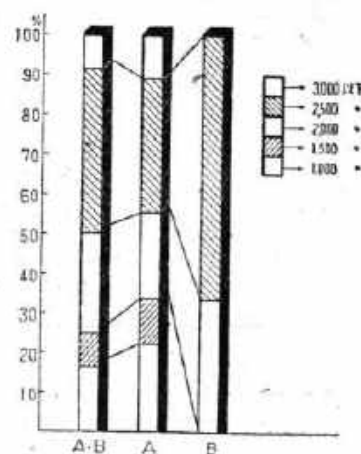
産業別	区分	小計	食 費				
			1000 以下	1500 以下	2000 以下	2500 以下	3000 以下
A・B	計引 差給料 給不	12	2	1	3	5	1
		4	1	—	—	3	—
		5	1	1	1	1	1
		3	—	—	2	1	—
A	計引 差給料 給不	9	2	1	2	3	1
		4	1	—	—	3	—
		3	1	1	—	—	1
		2	—	—	2	—	—
B	計引 差給料 給不	3	—	—	1	2	—
		—	—	—	—	—	—
		2	—	—	1	1	—
		1	—	—	—	1	—

第61表 住込者の住居費 (比率)

産業別	区分	合計	1000以下	1500以下	2000以下	2500以下	3000以下
A・B		100	16.7	8.3	25.0	41.7	8.3
A		100	22.2	11.1	22.2	33.4	11.1
B		100	—	—	33.3	66.7	—

せてもらうだけで、別に給料というものは定めていない者であろう。したがって、手取の金は小遣程度にしか貰っていない者であろう。この者は恐らく昔の徒弟制度の囚習の濃い中に生活している者ではあるまいか。この点は注目される。残り 12 名について見ると、大体最高 3,000 円までであるが、この中でも、2,000～2,500 円が、もつとも一般的と思われる。なお、給料から直接差引かれる者と、一応給料を受取つてそれから支払う者は、それぞれ 4 名と 5 名で、相中端している、残り、3 名は、不明となつているが、給料をまだ貰つたことがない者ではあるまいか。

第32図 住込の住居費



第 45 問 見習期間の長さは何の位ですか。

事業場では見習制度を採用しているものが多いが、これは新規採用者の素質を見るため、あるいはすみやかに一人前の労働者に養成するための特別期間等の理由から設けられたものばかりでなく、まだ一人前の労働者でないという理由から一般労働者よりも低賃金であるのが通例であつて、これを悪用していたずらに見習期間を長期化して、低賃金を行つている伝統的な徒弟制の悪い面も認められる。そこで現在行われている見習期間は、実際にはどれ位の期間になつているか、という実状を知るために、調査した結果が、第 62 表、第 63 表である。この結果、回答した者は 220 名で、他の 125 名 (36.2%) は無記入となつている。このことからして本調査における年少労働者の 2/3 は見習として、特別訓練をうけていることがわかる。

さて、実際の見習期間について見ると、最低 7 日から最高は 5 年まで、各種各

第 62 表 見 習 期 間 の 長 さ (実 数)

区 分		合 計	7 日	10日	15日	1 カ月	2 カ月	3 カ月	4 カ月	5 カ月	6 カ月	7 カ月	8 カ月	11月	1 年	1 年 2月	1 年 6月	1 年 10月	2 年	2 年 7月	3 年	4 年	5 年	20歳 迄	不定	無記 入
産業別	性別																									
A	B 計男女	345 274 71	1 — 1	2 2 —	1 — 1	18 12 6	13 8 5	55 46 7	17 4 13	5 4 1	19 15 4	1 1 —	1 1 —	2 1 1	10 9 1	1 1 —	5 5 —	1 1 —	8 6 2	1 1 —	7 7 —	4 4 —	9 9 —	4 4 —	35 30 5	125 101 24
A	計男女	228 183 45	1 — 1	— — —	— — —	10 10 —	12 7 5	32 31 1	15 2 3	3 2 1	11 8 3	1 1 —	1 1 1	1 — 1	5 5 —	1 1 —	3 3 —	1 1 —	2 2 —	1 1 —	5 5 —	2 2 —	5 5 —	4 4 —	24 20 4	88 72 16
B	計男女	117 91 26	— — —	2 2 —	1 — 1	8 2 6	1 1 —	23 17 6	2 2 —	2 2 —	8 7 1	— 7 —	— — —	1 1 —	5 4 1	— — —	2 2 —	— 2 —	6 4 2	— — —	2 2 —	2 2 —	4 4 —	— — —	11 10 1	37 29 8

第 63 表 見 習 期 間 の 長 さ (割 合)

区 分		合 計	7 日	10 日	15 日	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	11 月	1 年	1 年 2 月	1 年 6 月	1 年 10 月	2 年	2 年 7 月	3 年	4 年	5 年	20 歳 迄	不定
産業別	性別																								
A	計男女	100	0.5	0.9	0.5	8.2	5.9	25.0	7.7	2.2	8.6	0.5	0.5	0.9	4.5	0.5	2.2	0.5	3.6	0.5	3.2	1.8	4.1	1.8	15.9
		100	—	1.2	—	6.9	4.6	27.7	2.3	2.3	8.7	0.6	0.6	0.6	5.2	0.6	2.9	0.6	3.5	0.6	4.0	2.3	5.2	2.3	17.3
		100	2.1	—	2.1	12.8	10.7	14.9	27.7	2.1	8.5	—	—	2.1	2.1	—	—	—	4.3	—	—	—	—	—	10.6
B	計男女	100	0.7	—	—	7.1	8.6	22.9	10.7	2.1	7.9	0.7	0.7	0.7	3.6	0.7	2.1	0.7	1.4	0.7	3.6	1.4	3.6	2.9	17.2
		100	—	2.5	1.3	10.0	1.3	28.7	2.5	2.5	10.0	—	—	1.3	6.2	—	2.5	—	7.5	—	2.5	2.5	5.0	—	13.7
		100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

様である。これは、仕事の内容一題易の相異にもとづくものである。特殊な例として、20 歳まで見習というものが 4 名いるが、技術が単に年齢だけの相異で決められる性格のものではないように思われるので、恐らく先に述べたように低賃金のための一つの制度なのではあるまいか。又、見習期間の未定の者が 35 名いるが、これは、仕事の性質が単に期間だけによつて定められず、本人の能力によつて定めるいわば一種の試験制度のようなものとなつていゝと思われ、年少者自身の作業意欲を高める上からは良い方法であろうが、一面未定であることによつて、不当に長期間見習として使用する傾向を生じ、精神的に不安な感情をおこさせ勝ちであつたり、低賃金の期間を永びかせたりすることがあるので、見習期間は、定めるべきで

あらう。以上の特殊な例を除いて、期間を、便宜 3 カ月、3 カ月以上 6 カ月、6 カ月以上 1 年、1 年以上の四項目に分類整理してみると、「3 カ月」までの者 41 %、「3 カ月以上 6 カ月」、18.5 %、「6 カ月～1 年」6.4 %、「1 年以上」16.4 %、「その他」17.7 % となつており、3 カ月までの者が大部分を占めている。

なお各期間別に見ると、「3 カ月」25 % で圧倒的に多く、次は、「6 カ月」8.6 %、「1 カ月」8.2 %、「4 カ月」7.7 %、「1 年」4.5 % などが目立ち「5 年」が 4.1 % を占めて意外に多いのは注目される。ここに小企業に濃厚に継続されていると一般にみなされている。不合理な徒弟制を窺うことができるのではあるまいか。第 46 問 見習の期間についてどう思いますか、一つ一つの項に印をつけて下さい。

第 64 表 見 習 期 間 に 対 す る 長 短 (実 数)

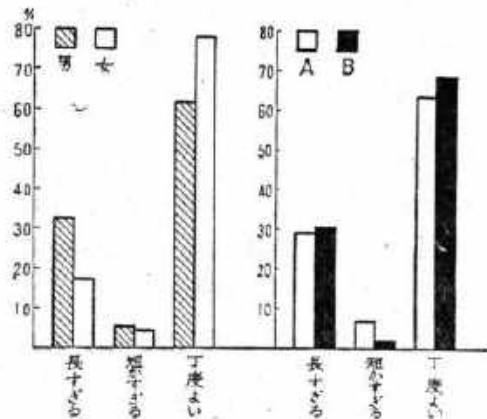
区 分 産業別 性別		合計	長 す ぎ る												短 か す ぎ る							丁 度 よ い	
			小 計	五 日	一週間	一ヵ月	二ヵ月	三ヵ月	四ヵ月	五ヵ月	六ヵ月	一ヵ年	十位まで 十八歳	不 明	小 計	三ヵ月	四ヵ月	五ヵ月	七ヵ月	一六ヵ月 年	三ヵ年		不 明
A・B	計男女	217 171 46	64 56 8	1 1 —	1 1 —	4 4 —	10 8 2	6 5 1	2 2 —	3 3 —	4 4 —	8 8 —	1 1 —	24 19 5	11 9 2	3 3 —	1 — 1	1 1 —	1 1 —	1 1 —	1 1 —	3 2 1	142 106 36
A	計男女	144 115 29	42 36 6	— — —	1 1 —	3 3 —	8 6 2	6 5 7	— — —	3 3 —	4 4 —	3 3 —	1 1 —	13 10 3	10 8 2	3 3 —	1 — 1	1 1 —	— — —	1 1 —	1 1 —	3 2 1	92 71 21
B	計男女	73 56 17	22 20 2	1 1 —	— — —	1 1 —	2 2 —	— — —	2 2 —	— — —	— — —	5 5 —	— — —	11 9 2	1 1 —	— — —	— — —	— — —	1 1 —	— — —	— — —	— — —	50 35 15

第 65 表 見 習 期 間 (比 率)

区 分		合 計	長すぎる	短かすぎる	丁度よい
産業別	性別				
A・B	計男女	100	29.5	5.1	65.4
	男	100	32.7	5.3	62.0
	女	100	17.4	4.3	78.3
A B		100	29.2	6.9	63.9
		100	30.1	1.4	68.5

前記の見習生について、実際の見習期間を見たのであるが次に、この見習期間について、年少労働者自身が希望している期間はどれ位であるか、これを知るために「期間が長すぎる」「短かすぎる」「丁度よい」の三項目を用意し、該当する項にそれぞれ○印をつけさせ、且つ「長すぎる」場合と、「短かすぎる」場合にはそれぞれ適当と思う見習期間を記入させる方法をとつた。この結果は第 64 表、第 65 表、第 33 図の如く回答した者は 217 名であつた。これによると現在の見習期間が「長すぎる」と感じている者は 29.5%、「短かすぎる」5.1%、「丁度よい」65.4%で、

第 33 図 見習期間に対する長短



「長すぎる」と感じている者が最適と思う見習期間は、最低 5 日から最高 1 年までの期間となつている。この中でもっとも多いのは 2 カ月で、64 名中 10 名を

占め、次は1年8名、3カ月6名となつている。又、「短かすぎる」と答えた者が最適と思う見習期間は最低3カ月から最高3年までで、この中もつとも多いのは3カ月で、11名中3名を占めている。以上の結果から年少労働者自身の主観にもとづく見習期間の長さは、個人によつて相当の相異があることがわかる。これは、仕事の内容、あるいは年齢差によつて、このような相異が生じたものである。又、年少労働者自身は、見習期間が一年を超えることは無意味であると考えているようである。

なお希望している最適の見習期間は、大体2〜3カ月位いがもつとも多くなつてゐる。

これは、先に調査した実際見習期間でも、3カ月がもつとも多かつたことと考える合せると興味ある傾向である。

産業別に見ると、短かすぎると答えた者が、A産業6.9%に対して、B産業1.4%で、A産業の方が比率が高いのは目立つ。

次に性別の場合「長すぎる」と感じている者が、男子では32.7%であるに対して、女子では17.4%であることは、女子に比較して男子が長期間見習として従事していること、このことからつまり、女子の仕事に対して男子は比較的軽かしい仕事に従事していることが窺えるように思う。

見習期間が長すぎると考えているものの中には、習得する技能の難易などの問題よりも、その間の労働条件についての不満からそう思っているものの方が多いのではなからうかと類推せられるが、これは次の項でかなり明確にされる。

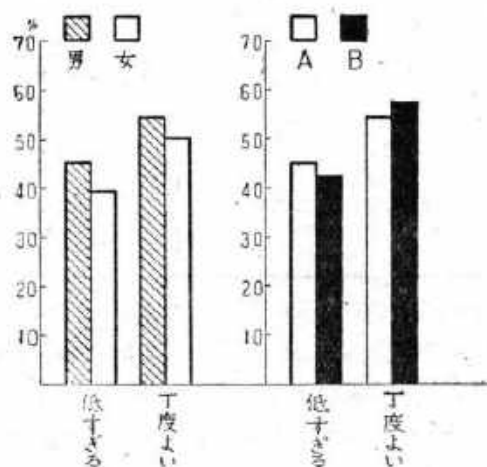
賃金については参考程度に第66表にかいておく

次に、技術訓練中における作業の難易を見ると、第68表、第69表、第35図の如く回答者232名のうち、「よく覚える」64.7%、「余り覚ええない」32.9%、「全然覚ええない」2.4%となつている。これによると全然覚ええないという否定的な者が2.4%を占め「余り覚ええない」という者が、32.9%を占め、ているが、これは仕

第66表 見習期間中の賃金 (英 数)

区 分		合 計	低すぎる	丁度よい
産 業 別	性 別			
A・B	計	240	107	133
	男女	197 43	90 17	107 26
A	計	160	73	87
	男女	132 28	58 15	74 13
B	計	80	34	46
	男女	65 15	32 2	33 13

第34図 見習期間中の賃金



第67表 見習期間中の賃金 (比率)

産業別	区分	合 計	低すぎる	丁度よい
	性別			
A・B	計	100	52.5	47.5
	男	100	45.7	54.3
	女	100	39.5	50.5
A	計	100	45.6	54.4
	B	100	42.5	57.5

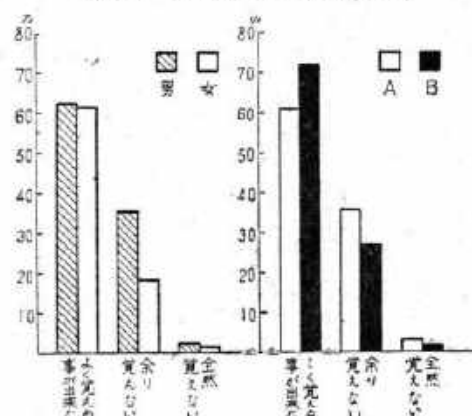
第68表 見習期間中の技術の難易 (実数)

産業別	区分	合 計	よく覚え る事が出 来	余り覚え ない	全然覚え ない
	性別				
A・B	計	252	163	83	6
	男	207	129	73	5
	女	45	34	10	1
A	計	178	104	61	5
	男	141	83	54	4
	女	29	21	7	1
B	計	82	59	22	1
	男	66	46	19	1
	女	16	13	3	—

第69表 見習期間中の技術の難易 (比率)

産業別	区分	合 計	よく覚え る事が出 来	余り覚え ない	全然覚え ない
	性別				
A・B	計	100	64.7	32.9	2.4
	男	100	62.3	35.3	2.4
	女	100	75.6	22.8	1.6
A	計	100	61.2	35.9	2.9
	B	100	71.9	26.8	1.3

第35図 見習期間中の技術の難易



事の内容自体が、あまりにも難かしいものか、あるいは見習期間が短すぎるためか、あるいは、指導者の指導要領がまずいのか、年少労働者自身の素質が不適なためか、これらの一つあるいは諸要素が錯綜している場合にもとづくものである。

なお産業別に見ると余り覚え

えない者、あるいは、全然覚ええない者が、A産業では、それぞれ 35.9%、2.9% となつてゐるのに対して、B産業では、26.8%、1.3% となつており、A産業の方が、比率が高くなつてゐることは、上記のいろいろの悪条件が多いことを物語るものではあるまいか。

性別に見て、男子の方が同様に高い比率を示していることも、いろいろの悪条件によるものである。

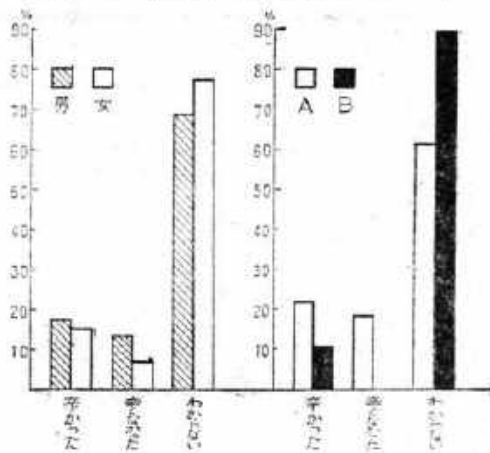
いづれにせよ、見習期間中に技術を覚え難いというものが相当数いることは、技術そのものの、難易や習得期間の問題もさることながら、それよりもむしろ旧来の徒弟制度における技能養成方法の不合理性に多く基いているものではなからうかと思われる。

見習期間中では年少労働者は、どんなことを辛く感じているか、これを見たのが第70表、第71表、第36図である。回答者は100名でこの中全然辛くないと答えた者が42名(42%)いたが、ここでは、辛いと答えた者についてのみ考察

第70表 見習期間中の作業は、つらいかつらくないか (実数)

区 分 業 別	性 別	合 計	辛 かつ た														辛 く ない	不 明
			小 計	重 労働	仕事 が多い	仕事 が よく ない	仕事 にな れな い	機 械 を使 わな い	差 別 待遇	失敗 した 時	雑 用 に使 われる	叱 言 が多い	周囲 との 折 衝	早く 出勤 しない	先輩 が封建 的	順 調に 行か ない		
A・B	計男女	341 270 71	58 47 11	2 2 —	3 3 —	— 4 6	10 4 —	1 1 —	1 1 —	3 3 —	4 4 —	6 6 —	1 1 —	1 1 —	1 1 —	25 20 5	42 37 5	241 186 55
A	計男女	228 183 45	46 38 8	2 2 —	1 1 —	— — —	7 4 3	— — —	— — —	1 1 —	4 4 —	5 5 —	— — —	1 1 —	1 1 —	24 19 5	42 37 5	104 108 32
B	計男女	113 87 26	12 9 3	— — —	2 2 —	— — —	3 — 3	1 1 —	1 1 —	2 2 —	— — —	1 1 —	1 1 —	— — —	— — —	1 1 —	1 1 —	101 78 23

第36図 見習期間中の仕事に対する辛、不辛



第71表 見習期間中の作業はつらいかつらくないか(比率をする。さて辛いと答

区分 業 別	性 別	合 計	辛 い	辛 くない	不 明
A・B	計男女	100	11.0	12.3	70.7
	男	100	17.4	13.7	68.9
	女	100	15.5	7.0	77.5
A	計男女	100	20.2	18.4	61.4
	男	100	10.6	—	89.4

えた者は 58 名で、その辛い理由も多種多様であるが、先ず仕事になれないことが気懸りで辛い者が 40 名を占めてもつとも多い。

このことは、如何に年少労働者が一人前の労働者になりきることを、切望しているかが窺われ、一面仕事をマスターしたいという、仕事に対する真摯な熱意があらわれていると思う。なおこの理由が女子が辛い場合の理由のすべてであることは興味ある傾向であると思う。

次は、「叱言が多い」という者が 6 名であるが、この者はいづれも男子だけに見られる傾向であることは興味深い。これら未成年者は極めて感受性が強いから、大

人の世界ではなんでもないような言葉が、これらの年少労働者にとっては精神的に非常に大きな打撃を受ける場合があるので、指導者として注意すべきことがあらう。

その他の理由では、「雑用に使われる」「仕事が多い」「失敗した時」「重労働」などが目立つ。

いづれにせよ、旧来の徒弟制度における機ないいわゆる封建的といわれ、あるいはブリティッシュといわれるような使用者または先輩の態度や手段に対する徒弟としての年少労働者の不満が表明されているのをうかがうことができる。

第47問 あなたが働くようになってから、最も苦しかった事、辛かつた事は何か。

年少労働者が始めて就職し、働くようになってから、最も苦しく又辛く感じたのはどの様な事であろうか。第72表、第73表、第37図に示されるように、それは実に多種多様にわたっているのであるが、これらを大体労働条件に関する事、仕

第72表 就職してから、もつとも苦しかった事(実数)

区 分	総 計	苦 し か つ た 事																						
		合 計	労働条件										仕事上											
			小 計	休 日 が 少 い 事	時 間 が 拘 束 さ れ る 事	長 期 間 に わ た る 残 業	徹 夜	重 労 働	過 重 な も の の 運 搬	有 毒 薬 品 を 使 用 す る	低 賃 金 で あ る 事	小 計	新 し い 仕 事 に 仲 々 馴 れ な い こ と	思 う 様 に 出 来 な い 時 候 が あ る こ と	仕 事 が む づ か しい 時	仕 事 に 失 敗 し た 時	仕 事 が 忙 しい 時	仕 事 が 単 調 な 事	け が を し た 時	汗 の 為 製 品 が さ び る	事 務 員 数 を 合 せ ね ば な ら ない 事	身 体 衣 服 が 汚 れる 事	手 が 荒 れる 事	
産 業 別																								
AB	354	110	20	1	5	1	1	1	6	2	3	37	15	7	5	1	2	1	1	3	1	1		
男	281	95	19	—	5	1	1	1	6	2	3	30	11	5	5	1	2	1	1	3	1	—		
女	73	15	1	1	—	—	—	—	—	—	—	7	4	2	—	—	—	—	—	—	—	—		

辛　　か　　つ　　た　　事																	な	無	
対　　人　　関　　係												通　　勤　　通　　学							
小 計	指導者の不親切	年長者の不親切	使い方が激しい事	(朝悪大候空腹の時) お使いにやられる事	うるさく叱言を言われ るこ	体罰を受けた時	私用に使われる事	遇されること 客観等により差別待	異性間の下品なうわ さ	同性間のいがみあい	新しい環境になじめ ないこ	小 計	冬期のつとめ	夏期のつとめ	朝が早いこと	刻したた 電車事故により遅時	不足特に試験の時 による過労及時間の 工場、夜学両方通勤	し	記 入
31	1	3	5	6	9	1	1	1	2	1	1	22	5	1	8	1	7	215	29
24	1	1	5	6	8	1	1	—	—	—	1	22	5	1	8	1	7	172	14
7	—	2	—	—	1	—	—	1	2	1	—	—	—	—	—	—	—	43	15

事の上成は技術面の事、対人関係、通勤通学に関するものの4種に分類してみた。

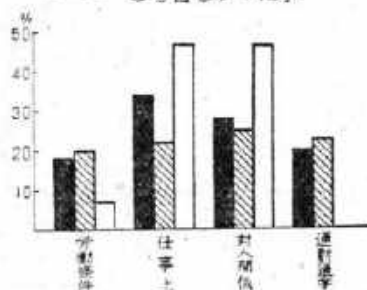
先ず男子においてみるならば第一に仕事上 31.6%、対人関係 25.3%、通勤通学 23.2%、労働条件 20.0%であつて、それぞれの差は余り見られない。その中主なもの上げるなら、仕事上においては新しい仕事に仲々馴れないこと、仕事がむづ

かしい時、思ふ様に出来ない時、或は失敗した時等が上げられている。対人関係では、うるさく叱言を言われる、お使いにやられる(殊に冬の寒い時、天気の悪い時、空腹の時)使い方が激しい等で、始めて社会に接した年少者の傷つき易い心持が窺われる。通勤通学に関するものとしては、朝が早い事、或は厳寒、酷暑の通勤

第73表 就職してから、もつとも苦しかつた事(比率)

区分		計	労働条件	仕事上	対人関係	通勤通学
職業別	性別					
A B	計	100	18.2	33.6	28.2	20.0
	男	100	20.0	31.6	25.3	23.2
	女	100	6.7	46.7	46.7	—

第37區 就職してから、もつとも苦しかつた事



と共に、工場、夜学の両方に通う為過勞を來たす事、或は時間の不足、工場が退けてから學校へかけつけても時間に間に合わない、或は勉学の時間がない、殊に學校の試験の時を訴えている。次に勞働條件に関するものとしては過重なものの運搬、時間が拘束される事、低賃金である事等で、これらは小企業に於いて

第74表 就職してから、もつとも失望した事(実数)

産業別	区分	合 計	失 望 し た こ と																								な し	無 記 入							
			小 計	労働条件が契約と異なる	仕事の時間が長い	休みが少い	賃金が低い	強制的に労働させられる	減給	ボーナスがない	作業衣が支給されない	重労働	仕事に将来性がない	仕事にやる気がない	汚れる	機械の使用制限	機械がこわれている	工場が小さく狭い	工場が不潔	工場の内容の期待はずれ	娯楽設備がない	希望した職場につけない	スローワークをする場所がない	従業員の期待はぜい	叱責を言われる	名前を呼びすてにされる			通学出来ない	疲れて本が読めない	父の事業失敗				
A・B	計男女	353 262 71	91 77 14	3 1 2	1 1 —	2 2 —	6 3 3	1 1 —	16 16 —	3 3 —	1 1 —	1 1 —	1 1 —	2 2 —	2 2 —	13 13 —	3 3 —	3 3 —	2 2 —	1 1 —	1 1 —	1 1 —	2 2 —	1 1 —	1 1 —	5 4 1	3 3 —	3 2 1	1 1 —	1 1 —	7 5 2	1 1 —	1 1 —	219 178 41	43 27 16

殊に著しく見られる現象ではないかと思われ、又これらの答は年少者の主観的なものであるので一概には言えないが労働基準法の不徹底という事も考えられる。

次に女子についてみるならば、仕事上並びに対人関係が殆ど同数でその大半を占めている。仕事上においては男子と殆ど同じ傾向を示して居り、新しい仕事に仲が脆れない、仕事がつまみしい時、思うように出来ない時等が主なものとなつてゐる。対人関係については、年長者の不親切、異性同僚間の噂やいがみ合い、或は容貌等による差別待遇等、女子特有の現象を示している。労働条件は男子に比して良好であるのか、又は無関心なのか、これについてははわずか！名が休日が少いと答えたのみである。通勤通学においては全くない。

第48問 あなたが働くようになったてから、最も失望した事は何ですか。

働くようになってから最も失望した事、これは第 47 問の最も苦しかった事、辛かった事とほぼ同じに答えている。

即ちその主なものとしては、賃金が低い、仕事がむづかしい、通学出来ない、休みが少い、希望した職場につけない等である。

又、機械がこわれている、工場の施設不備、工場が不潔、或は小さく狭い、娯楽設備なし、スポーツをする場所がない等、小規模事業場に特に多いと思われる工場

施設の不備に対する期待はずれを訴えたものも多かった。

第49問 あなたの最も楽しい事は何ですか。

第75表 楽しいこと (実数)

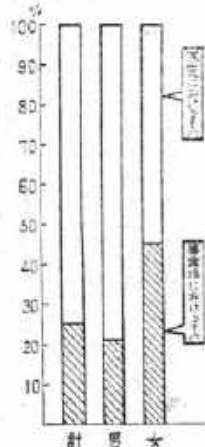
産業別 性別		区分	総計	楽しいこと																												なし	無記入	
				合計	仕事場におけるもの										家庭におけるもの																			
					小計	入社した時	仕事	出張	休日	休憩時間	スポーツ	音楽	慰安会	旅行	小計	帰宅、帰省	休日	家族だんらん	友人との交際	学習	読書	音楽	ラジオ	工作	写真	映画	スポーツ	釣り	動物を飼う	ダンス	旅行			教会へ行く事
A・B	計男女	415 342 73	328 279 49	81 59 22	1 — 1	25 21 4	1 — 1	9 7 2	23 19 4	2 1 1	2 1 1	17 9 —	247 220 27	6 4 2	74 68 6	1 1 —	7 3 4	9 9 —	1 — 1	2 — 2	9 5 4	4 2 —	2 3 —	3 1 —	32 28 4	79 78 1	4 4 —	2 2 —	2 2 —	8 5 3	1 1 —	73 52 21	14 11 3	

第76表 楽しいこと (比率)

産業別 性別	区分 性別	計	事業場におけるもの	家庭におけるもの
A・B	計	100	24.7	75.3
	男	100	21.1	78.9
	女	100	44.9	55.1

年少者の現在最も楽しみにしている事、或は楽しかった事について調べたのが第75表、第76表、第38図である。楽しみがないと答えた者73名、無記入14名を除き、楽しい事について答えた328件を事業場におけるものと家庭におけるものの二種に大別した。これによると、彼等は事業場より家庭において楽しみを求めている事が分る。これは言いかえるならば事業場に楽しみを求める事が出来ない事業場に、或不満を感じているので

第38図 楽しいこと



はないかという事が想像される。この傾向は男子において特に著しい。

では、どの様な事が彼等の楽しみとなつているだろうか。先ず、男子ではスポーツ(家庭におけるもの)が圧倒的に多く、その内容としては殆どが野球、他に卓球或はただ単に、スポーツと答えたものであつた。次いで、休日とのみ答えたもの、更に映画も多く、映画が年少者に及ぼす影響の大きい事が考えられる。事業場におけるものとしては、仕事と休憩時間が多数を占めている。

女子の家庭におけるものとしては休日、友人との交際、読書、映画等が殆ど同数で、家庭におけるものの大多数を占めている。事業場におけるものとしては会社からの旅行を筆頭に、仕事、休憩時間がこれに次いでいる。

第50問 今あなたの最も興味ある事は何ですか。(仕事、スポーツ、趣味娯楽、友人との交際、勉強、読書、その他何でも具体的に)

年少労働者がどう云う点に最も興味或は生き甲斐を感じているか調べたものである。第77表、第78表、第39図は年少労働者全体の傾向を比率及び実数で示し

第77表 興 味 の あ る こ と (全産業)

区分 産業別	計	仕事	スポ ーツ	趣味 娯楽	勉強 情勢	社会	宗教	友人 との 交際	なし	不明	
A・B (実数)	計	558	35	234	200	31	2	2	38	7	9
	計男	459	30	217	142	25	2	2	31	5	5
	計女	99	5	17	58	6	—	—	7	2	4

第78表 興 味 の あ る こ と (全産業)

産業別 区分	計	仕事	スポ ーツ	趣味 娯楽	勉強	社会 情勢	宗教	友人 との 交際	なし	不明	
A・B (比率)	計男女	100 100 100	6.3 6.5 5.0	41.9 47.4 17.2	35.9 30.9 58.6	5.5 5.4 6.1	0.4 0.4 —	0.4 0.4 —	6.8 6.8 7.1	1.2 1.1 2.0	1.6 1.1 4.0

第79表 興 味 の あ る こ と (機械器具製造業)

区分 性別	合 計	仕 事	スポーツ		趣 味 娯 楽														勉 強	社会 (のつ ろし やに いて)	友人 との 交際	な し	不 明
			野 球	そ の ほ か の ツ	読 書	映 画	演 劇	音 楽	絵 画	手 芸 ・ 工 作	洋 裁	写 真	釣 り	動物 飼育	将 棋	ト ラン プ	ダ ン ス	娯 楽					
計	388	27	67	96	22	45	3	15	1	10	15	3	3	2	2	3	1	7	25	2	30	3	6
%	100	6.9	17.2	25.1	5.6	11.5	0.8	3.8	0.3	2.6	3.8	0.8	0.8	0.5	0.5	0.8	0.3	1.8	6.4	0.5	7.7	0.8	1.5
男	319	23	67	82	12	39	1	10	—	9	—	3	3	2	2	3	1	7	20	2	25	3	5
女	69	4	—	14	10	6	2	5	1	1	15	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5	—	1

第80表 興 味 の あ る こ と (金属製品製造業)

区 分 性 別	合 計	仕 事	スポーツ		趣 味 娯 楽																	勉 強	宗教 (くこと 教会へ行)	友人 との交際	な し	不 明
			野 球	そ の ほ か の ツ	読 書	映 画	音 楽	工 作	ラ ジ オ 製 作	洋 裁	和 裁	髪 結	写 真	釣 り	動 物 飼 育	将 棋	ラ ジ オ	ダ ン ス	ブ ロ マ イ ド 集							
計	170	8	41	30	9	25	8	2	2	9	1	1	1	4	2	1	1	1	1	6	8	2	4	3		
%	100	4.7	24.0	17.5	5.3	14.6	4.6	1.2	1.2	5.3	0.6	0.6	0.6	2.4	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6	3.5	4.7	1.2	2.4	1.8		
男	140	7	41	27	7	22	7	2	2	—	—	—	1	4	2	1	1	1	—	5	6	2	2	—		
女	30	1	—	3	2	3	1	—	—	9	1	1	—	—	—	—	—	—	1	1	2	—	2	3		

第39図 興味のあること(全産業)



たものであるが、これによると「スポーツ」41.9%、「趣味・娯楽」35.9%が最も高く、「仕事」或は「勉強」は5~6%しか占めていない。男子のみの場合も大体同様な傾向がみられるが、女子は「趣味・娯楽」が60%近く占めて他の比率はずつと低くなっている。第79表、第80表は産業別に、項目を更に細くわけて調べたものであるが、両産業とも大きな違いはみられず、「スポーツ」の中では「野球」が「趣味・娯楽」では「映画」が相当高い比率を示している。そこで年少労働者の興味は「趣味・娯楽」「スポーツ」(特に「映画」や「野球」)に向いていて、「仕事」「勉強」等にはあまり関心が無いように思われる。

第51問 省略

第52問 将来希望していることは。

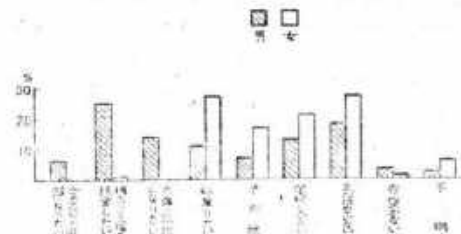
第81表 将来の希望(全産業)

区分 産業別 性別	計	今の工場の 幹部になり たい	独立して 工場を営 みたい	大工場の 工場の 技術者	転業 したい	そ の 他	学 校 に 入 り たい	ま だ 決 ま て い ない	希 望 が な い	不 明
		人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
A・B (実数)	345	18	71	38	50	31	50	67	10	10
計	274	18	70	38	31	19	35	48	9	6
男	71	—	1	—	19	12	15	19	1	4

第82表 将来の希望(全産業)

区分 産業別 性別	計	今の工場の 幹部になり たい	独立して 工場を営 みたい	大工場の 工場の 技術者	転業 したい	そ の 他	学 校 に 入 り たい	ま だ 決 ま て い ない	希 望 が な い	不 明
A・B (比率)	100	5.2	20.6	11.0	14.5	9.0	14.5	19.4	2.9	2.9
計	100	6.6	25.5	13.9	11.3	6.9	12.8	17.3	3.3	2.2
男	100	—	1.4	—	26.8	16.9	21.1	26.8	1.4	5.6

第41図 将来の希望



年少労働者が、将来についてどのような希望をもっているかと云うことと同時に、それによつて、現在の職場、或は仕事に対してどのような考え方をもっているかと云う事を調べたものである。全体の傾向としては「独立して工場を営みたい」と答えた者が20.6%、「まだ決めていない」と答えた者が19.4%、「学校に入りたい」、「転業したい」と答えた者が各々14.5%であつて、「今の工場の幹部になりたい」と答えた者は僅に5.2%にすぎなかつた。男子の場合は「独立して工場を営みたい」と答えた者が25.5%、女子は「転業したい」と答えた者が26.8%、「今の工場の幹部になりたい」と答えた者は一人もなかつた。更に産業別の第83表と第84表をみると、「転業したい」と云う者は金属製造業の比率が高く、「独立して工場を営みたい」と云う者は機械器具製造業の比率が高かつた。「その他」、「希望がない」等の項目の内訳は以上の表の通りである。「今の工場の幹部になりたい」と云う者が僅か5%余りで、独立したり、転業したり、大工場に変わりたい者が多く、「希望が無い」と云う者が約3%ある事、或は「学校に行きたい」と云う者が多い事等から、小企業の働く年少者は、

第 83 表 将 来 の 希 望 (機械器具製造業)

区 分 性 別	計	今部 の工場 の幹事	独立 して工 場の場	大工 場の技 師	転業 したい	そ の 他										学校 に入り たい	まだ 決めて いない	希望がない		不 明
						電 気技 師	農 業技 術者	運 転手	医 生	事 務員	タ イピ スト	売 子	洋 裁師	ス ポーツ マン	主 人			家 庭の 事情	理 由不 明	
計	228	10	52	25	30	2	1	1	1	4	1	1	3	1	4	36	47	4	1	3
%	100	4.4	22.9	11.4	13.1	0.9	0.4	0.4	0.4	1.8	0.4	0.4	1.3	0.4	1.8	15.8	20.7	1.8	0.4	1.3
男	183	10	51	25	21	2	1	1	—	2	—	—	—	1	—	25	37	4	1	1
女	45	—	1	—	9	—	—	—	1	2	1	1	3	—	4	11	10	—	—	2

第 84 表 将 来 の 希 望 (金属製品製造業)

区 分 性 別	計	今部 の工場 の幹事	独立 して工 場の場	大工 場の技 師	転業 したい	そ の 他										学校 に入り たい	まだ 決めて いない	希望がない		不 明
						自 動車 業	ラ ジオ 電機 商	運 転手	熟 練工	一 人前	事 務員	公 務員	商 店主	音 楽家	映 画関 係の 仕			学 歴が ない	理 由不 明	
計	117	8	19	12	20	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	14	20	1	4	7
%	100	6.8	16.1	10.3	17.0	0.9	0.9	1.7	0.9	0.9	0.9	0.9	1.7	0.9	0.9	11.7	17.0	0.9	3.4	6.0
男	91	8	19	12	10	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	10	11	1	3	5
女	26	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	9	—	1	2

小企業で働く事に満足してなくて逆に不満をもっている事が明らかである。

第 53 問 今の仕事について、あなたが立派な人間になるのに役立ちますか。

今の仕事が年少労働者の向上の爲に何か役に立っているかどうかと云う質問に対して「役立つ」と答えた者は約半数である。男女別にみると、男子は 63.1% だが女子は 25.4% に過ぎなく、「役に立たない」と答えた者が女子の場合半数以上もある事は男女の作業の質の違いがその一因と思われる。産業別にはあまり差がみら

第 85 表 現在の仕事について、あなたが立派な人間になるのに役立ちますか(全産業)

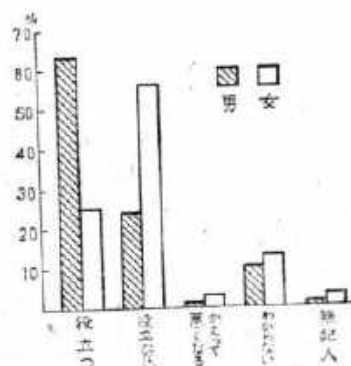
産業別	区 分 性 別	計	役立つ	役にた たない	かえつ て悪く なる	わから ない	無記入
A・B (実数)	計	345	191	106	6	37	5
	男	274	173	66	4	28	3
	女	71	18	40	2	9	2

れず、又理由を答えた者が少なかった為正確なものがかめなかつた。

第86表 現在の仕事についてたことが立派な人間になるのに役立つか(全産業)

産業別	区分 性別	計	役立つ	役にた たない	かえつ て悪く なる	わから ない	無記入
A・B (比率)	計	100	55.5	30.7	1.7	10.7	1.4
	男	100	63.1	24.1	1.5	10.2	1.1
	女	100	25.4	56.7	2.8	12.7	2.8

第42図 現在の仕事についてた事が立派な人間になるのに役立つか。



第54問 どうしたら今の仕事をしていて立派な人になれるでしょう。

無記入の者が 44.9% 約半数近くもあるため、はつきりした事は分らないが、今の仕事をしてたのでは立派な人になれるという者が 18.9% もあつた。

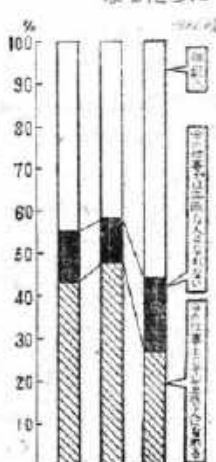
第67表 立派な人間になるために (実数)

産業別	区分 性別	合 計	今の仕事をしていて 立派な人になる為に													今の仕事をしていては立派な人になれる	無			
			小 計	仕事をよく覚え一生懸命やる	仕事の内容をよく研究興味を持つ	技術の向上を図る	仕事を社会に役立たせる	苦しい事も我慢する	意志を強固に保つ	自分の心掛次第	先輩を尊敬し仕事をよく教へてもらふ	知識の向上を図る	夜学に行く	ソロバンを習う	洋裁・和裁を習う	小 計	大工場に入る	仕事を变える	理由不明	記入
A・B	計男女	345																		
		274	149	85	7	27	1	1	3	7	3	4	7	2	2	41	1	1	39	155
		71	130	74	7	27	—	1	2	6	4	—	—	—	29	1	—	27	115	
			19	11	—	—	1	—	1	1	—	—	—	2	12	—	—	12	40	

第68表 立派な人になるために(比率)

産業別	区分 性別	計	今の 仕事 をして いて 立派 な人 になる	今の 仕事 をして いて は 立派 な人 にな れない	無 記 入
A・B	計	100	43.2	18.9	44.9
	男	100	47.6	6.1	42.1
	女	100	26.8	16.9	56.3

第43図 立派な人になるために



第55問 今やつている仕事を長くつづけるつもりですか。

第89表 今やつている仕事を長くつづけるつもりですか

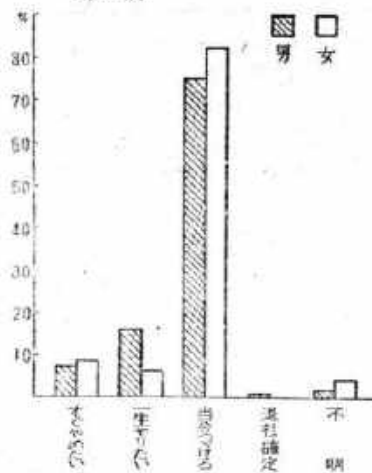
区分		計	すぐや めたい	一生や りたい	当分つ づける	退社確定	不 明
産業別	性別						
A・B (実数)	計	345	26	48	263	1	7
	男	274	20	44	205	1	4
	女	71	6	4	58	—	3

第90表 今やつてゐる仕事を長くつゞけるつもりですか

区分		計	すぐや めたい	一生や りたい	当分つ づける	退社確定	不 明
産業別	性別						
A・B (比率)	計	100	7.5	13.9	76.3	0.3	2.0
	男	100	7.3	15.1	74.7	0.4	1.5
	女	100	8.4	5.6	81.8	—	4.2

今やつている仕事を「一生やりたい」と云う者は 13.9% で「当分つづける」と答えた者は最も多く 76.3% で、その理由としては「他によい仕事が見つかる

第44図



まで」「校舎が一人前になるまで」と云う者が非常に多く「すぐやめたい」と云う者は7.5%であつた。そこで大部分の者は今やつている仕事を長くつづける意志がなく、ことにこの傾向は女子に著しい。産業別にみると「一生やりたい」と答えた者は金属製造業に多く、「すぐやめたい」と云う者は機械器具製造業に幾分多くなつているが、他は大体同じような傾向となつている。

第56問 省略

第57問 あなたが最も尊敬する人は誰ですか。

第91表 尊敬する人物(件数)

区分	性別	計	親 族								知 人					そ の 他																													
			小計	父	母	両親	兄弟	祖父・母	伯父・母	家親	小計	友人	先輩	恩師	此處に 住む 工務員	知人	小計	吉田茂	藤原喜太郎	藤川 勇樹	藤原孝親	二宮全太郎	西澤 隆吉	伊藤 博文	野口 喜世	高橋 正	大橋 次郎	田嶋 義夫	水戸山月	トールマン	マフカー サイ	フオード	ヘレン・ ケラー	アイズ ン	アンド レ	マイケル・ ジャクソン	エンゲル ス	フラン クリン	カリ スト	エジ ソン	ランカ ン	グー グー	俳優	なし	無記入
A・B	計男女	350 279 71	46 32 14	8 7 1	8 3 5	17 12 5	6 5 1	3 3 —	3 2 —	1 1 —	64 56 8	28 24 4	11 11 —	8 5 3	12 12 —	5 4 —	55 46 9	2 2 —	1 — —	6 2 4	1 1 —	1 — —	3 2 —	1 — —	4 3 —	1 1 —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	8 8 —	2 2 —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	5 5 —	7 7 —	1 — —	1 — —	116 100 16	69 45 24
A	計男女	228 183 45	29 17 12	5 4 1	6 2 4	10 5 5	4 3 —	1 1 —	2 2 —	1 — —	41 34 7	19 16 3	9 9 —	4 3 —	7 7 —	2 1 —	30 42 8	1 — —	— — —	5 1 —	1 1 —	1 — —	3 2 —	1 — —	2 2 —	1 — —	1 — —	— — —	1 — —	1 — —	3 3 —	2 2 —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	1 — —	4 4 —	4 4 —	1 — —	1 — —	72 65 7	46 35 11	
B	計男女	122 96 26	17 15 2	3 3 —	2 1 —	7 7 —	2 2 —	2 2 —	1 — —	— — —	23 22 1	9 8 1	2 2 —	4 4 —	5 5 —	3 3 —	15 14 1	1 1 —	1 — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	2 — —	— — —	1 — —	— — —	— — —	— — —	5 — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 — —	3 3 —	— — —	— — —	44 35 9	23 10 13	

第92表 尊敬する人物

区分		合計	親族	知人	その他	なし
産業別	性別					
A・B 実数	計	350	46	64	55	185
	男	280	32	56	47	145
	女	70	14	8	8	40
比率	計	100	16.4	22.8	19.6	41.2
	男	100	13.6	23.8	20.0	42.6
	女	100	30.4	17.4	17.4	34.8

年少労働者は、どのような人を尊敬しているか、これについては、一人で数人を尊敬している場合もあるので件数で処理した結果は第91表の如く、極めて、多種多様であるが、一応、「親族」「知人」「その他」「なし」の四項に分類して見ると、親族 16.4 %、知人 22.8 %、その他 19.6 %、なし 41.2 %、となつていて、全然「なし」の者が41.2 %を占め、殆んど半数近い人が、尊敬する人をもっていない。このことは、年少労働者の自己意識が強烈なためか、あるいは、読書その他の貧困性から、尊敬する人を見当らないのか、いづれにしても自己向上のための奮闘をもっていないことは注目される点であらう。

尊敬する人物のある者では、「知人」がもつとも多く、22.8 %を占めているがこの知人のうちで友人が一番多いことは注目されることで、このことから、友達の影響力が如何に大きいものであるかが窺われよう。

次の「その他」では、「マツカーサー」8件、「リンカーン」7件、「湯川秀樹」6件、「エジソン」5件などが目立っている。

「親族」では両親が圧倒的に多くなっている。

性別に見て目立つ点は、女子では親族を尊敬する者が非常に多く 30.4 %であるが、これにくらべて、男子では 13.6 %である。女子はやはり家庭の人により親しみを感じ、且つ、これから尊敬の念も湧いてくるのである。

B 余暇生活調査

第1問 昨日仕事が終わつてからの時間をどのように過しましたか。(身仕度、食事睡眠、通勤時間等は除きます)

第1表 出勤日の余暇時間の利用(延時間) (単位分)

性別 産業別 職業別	区分	計	家事 の手伝	内職	スポ ーツ	趣味 娯楽	学習	ラジオ	雑談	その他
	計	29980	4220	750	995	6270	5030	4785	4580	3350
男A	中規模	4240	350	—	240	1170	1150	660	460	210
	小規模	1910	180	—	20	330	420	300	270	390
子B	中規模	9795	450	90	360	2850	2070	1275	1560	1140
	小規模	3060	60	—	360	420	220	900	710	390
女A	中規模	4985	1830	180	—	330	570	645	660	770
	小規模	215	20	—	15	—	—	90	—	90
子B	中規模	4035	1330	—	—	960	600	375	410	360
	小規模	1740	—	480	—	210	—	540	510	—

年少労働者がどのような生活をしているか。時間的側面からとらえるために余暇の生活時間調査を行った。一般に生活時間調査は一日の全時間或は数日を調べる事が必要であるが次の理由により余暇時間のみの調査にした。

(1) 調査方法、調査人員、調査の日数の関係上、全生活時間の調査施行が困難であつた。

(2) 特に余暇時間の利用法を重視したのは、現在では社会的文化的な生活をする時間が再生産の為に必要なものであると思われたからである。

(3) 年少者の場合、彼らが心身ともに発育途上にあるため、社会的文化的な生活時間は彼らの育成に欠く事の出来ないものである。

尚、第1表の項目の並び方、分け方等については、東大能率研究室、藤田忠氏の「工場厚生直設の現状と従業員の態度」註①と、労働医学心理学研究所、藤本武氏の「生活時間の本質とその構造について」註②の二論文を参考とした。

註① 労働問題研究第25号、第26号

② 労働科学第27巻、第5号

ここで挙げた項目は、余暇時間利用の社会的文化的生活時間を中心としたものである。社会的文化的生活時間とは、収入のために用いられる時間を除いた生活時間の中、生理的再生産のための時間、即ち食事、睡眠、身仕度、等と家事労働時間、即ち掃除、炊事、洗濯等を除いた時間である。ここで挙げた項目の中、「家事の手伝」「内職」を除いた他の項目はこの社会的文化的生活時間に属するが「趣味娯楽」に含まれる「ラジオ」を特に取出したのは、他の多くの調査結果により、ラジオをきく時間が比較的長いことが明らかにされていたためで、又、家事労働時間として「家事の手伝」一項目を漠然とあげたのは、この場合家事労働時間はあまり必要でないと思われたからである。直接生産に関連あるものとしては、規定された拘束時間をもたない「内職」だけを挙げた。これは、小企業の年少労働者の低賃金を補うものとして行われているのではないかと思つたからである。以上の項目を挙げ、生産の為の時間及び、直接的な生理的再生産のための必要時間は除いた。区分の仕方は、産業別の特色をみるために、機械器具製造業をA、金属製造業をBとし、更に性別、事業場規模別に区分した。事業場規模は厳密に云えば全部小企業であるが便宜上、10人未満の従業員を有する事業場を「小規模」とし、10人以上50人未満の従業員を有する事業場を「中規模」とした。調査結果の説明に入る前にこれらの区分に従つた事業場数と人員数を挙げると右の如くである。

第1表は余暇利用の時間数を表し、第4表は各々の計を100とした比率を示すものである。

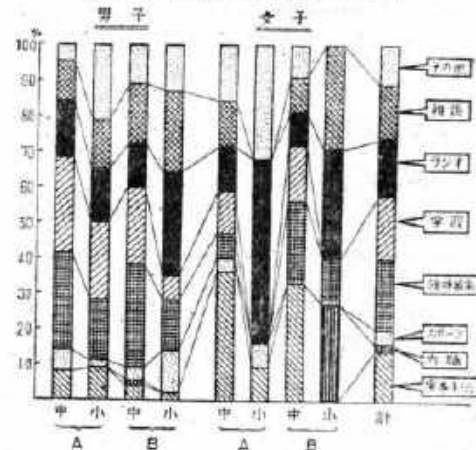
第2表 調査事業場数

計	93
機械器具製造業	47
金属製造業	11
中規模	24
小規模	11

第3表 年少労働者数

性別	計	男	女
計	345	262	83
機械器具製造業	183	145	38
金属製造業	45	43	2
中規模	91	67	24
小規模	26	6	19

第1図 出勤日の余暇時間の利用



第4表 出勤日の余暇時間の利用 (比率)

区分	計	家事の手伝	内職	スポーツ	趣味娯楽	学習	ラジオ	雑談	その他
計	100%	14.1	2.5	3.3	20.9	16.8	15.9	15.3	11.2
男A	中規模	8.2	—	5.7	27.6	27.1	15.6	10.8	5.0
男A	小規模	9.4	—	1.0	17.3	22.0	15.7	14.1	20.5
子B	中規模	4.6	0.9	3.7	29.1	21.1	13.0	15.0	11.6
子B	小規模	2.0	—	11.8	13.7	7.2	29.4	23.2	12.7
女A	中規模	36.8	3.6	—	6.6	11.4	12.9	13.2	15.5
女A	小規模	9.3	—	6.9	—	—	41.9	—	41.9
子B	中規模	33.0	—	—	23.7	14.9	9.3	10.2	8.9
子B	小規模	—	27.6	—	12.1	—	31.0	29.3	—

これにより年少労働者全体の傾向をみると、最も多く時間を費すのは「趣味娯楽」の 20.9% で、次いで「学習」「ラジオ」「雑誌」「家事の手伝い」等が大体同じ 5〜16% 位の比率を占めている。男子と女子を比較した場合、男子は「趣味娯楽」「学習」等に用いる時間の比率が大であるが、女子は「家事の手伝い」の比率が最も高くなっている。又内職をしているのは女子にのみ多く、男子は非常に少い。次に機械器具製造業（A）と金属製品製造業（B）とを比較してみると、男子はあまり違いがみられないが、女子は産業による違いが相当現れている。企業規模別に比較すると、「趣味娯楽」「学習」「ラジオ」等文化的なことに費す時間は中規模の方が高くなっている。「内職」が金属製品製造業の小規模の女子にのみ多いのは特殊な現象である。ここでみられる余暇時間は、労働、通勤、生理的再生産の時間以外の所謂自由時間であるが、これらが、「学習」「スポーツ」その他年少者育成のために有効な事にあまり使われなくて男子の場合は「趣味娯楽」に最も多く使われているのは、年少労働者にとつてあまり望ましい傾向とは思われない。このことは他の調査項目によつても明らかなように、趣味娯楽の内容に、映画が最も多く、又見る場所も殆ど映画館に限られているという事からも想像出来る。

女子の場合は現在の家庭生活状況では、「家事の手伝い」が多いのも止むを得ない事と思われる。事業場規模が小の場合、例外を除いては「学習」「趣味娯楽」「内職」等ある程度のまとまつた時間を必要とする項目の比率が低く、「ラジオ」「雑誌」「その他」の比率が高くなっているのは、事業場規模別の労働時間の差異その他と関連があるのかもしれないがここではその点については明らかではない。

この前の公休日には 1 日どのようにして過ごしましたか。

第 5 表は公休日 1 日、年少者がどのように時間を使つたか調べたものである。調査項目は前と同じで、男女別、産業別、規模別に個々の人が費した時間数の合計を表にしたものである。

第 6 表は計を 100 とした比率を表にしたものである。これによつて公休日の年少

第 5 表 休日の余暇時間の利用（延時間）

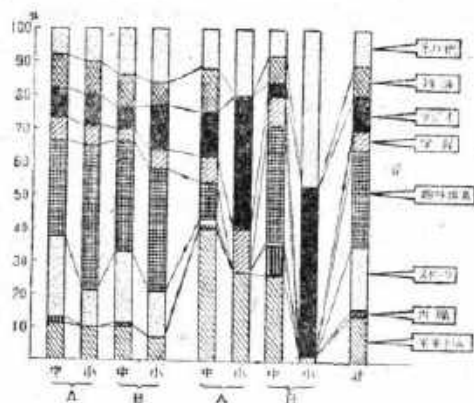
性別 産業別 規模別	区 分	計	家事 の手 伝	内職	スポ ー ツ	趣味 娯 楽	学 習	ラ ジ オ	雑 談	そ の 他
	計	142134	20175	3080	26385	41700	8730	13805	13070	15189
男 A	中規模	73455	8375	1460	17625	21080	4990	7260	6665	6000
	小規模	4850	480	—	540	2130	300	440	480	480
子 B	中規模	30739	3050	480	6600	10340	1020	1995	3045	4209
	小規模	9120	660	—	1290	3360	510	1230	570	1500
女 A	中規模	12030	4820	180	210	1280	980	1620	1470	1470
	小規模	450	120	—	—	—	60	180	—	90
子 B	中規模	10080	2640	960	120	3510	870	360	840	780
	小規模	1410	30	—	—	—	—	720	—	660

第 6 表 休日の余暇時間利用（比率）

性別 産業別 規模別	区 分	計	家事 の手 伝	内職	スポ ー ツ	趣味 娯 楽	学 習	ラ ジ オ	雑 談	そ の 他
	計	100	14.2	2.2	18.6	29.3	6.1	9.7	9.2	10.7
男 A	中規模	100	11.4	2.0	24.0	28.6	6.8	9.9	9.1	8.2
	小規模	100	9.9	—	11.1	43.9	6.2	9.1	9.9	9.9
子 B	中規模	100	9.9	1.6	21.5	33.6	3.3	6.5	9.9	13.7
	小規模	100	7.2	—	14.1	36.9	5.6	13.6	6.2	16.4
女 A	中規模	100	40.1	1.5	1.7	10.6	8.1	13.6	12.2	12.2
	小規模	100	26.7	—	—	—	13.3	40.0	—	20.0
子 B	中規模	100	26.2	9.5	1.2	34.9	8.6	3.6	8.3	7.7
	小規模	100	2.1	—	—	—	—	51.1	—	46.8

労働者の余暇利用状態をみると、全体の傾向としては「趣味娯楽」が 29.3% で相当の比率を占めている。次は「スポーツ」の 18.6%、「家事の手伝い」の 14.2% となつている。男子と女子を較べた時女子は「家事の手伝い」が圧倒的に多いのに、男子は「スポーツ」「趣味娯楽」が多くなっている。産業による差異は殆どみられな

第2図 休日の余暇時間の利用



い。規模別にみると「家事の手伝い」「内職」「スポーツ」等は男女とも中規模の方が比率が高いが、「趣味・娯楽」の男子と、「ラジオ」の女子の場合のみは中規模の比率が高くなっている。以上をまとめてみると公休日には男子年少労働者は「趣味・娯楽」に最も多くの時間を費しているが、女子の場合は「家事の手伝い」をする時間が非常に多くこの傾向は、労働日の余暇時間利用の状態と同じである。そして「スポーツ」「学習」等は公休日には案外行われていなかった。又、男子の小規模の年少労働者は、労働日の余暇には中規模より「趣味・娯楽」の比率が低かつたためか、公休日にはその比率が逆に高くなっている。女子では小規模の「ラジオ」「その他」の時間の比率が高く、その他の項目では例外を除き中規模より比率が低くなっている。

第2問 あなたは現在何かスポーツをやっていますか。

ここでは現在スポーツをやっているものと何もスポーツをやっていないものの比率をみた。第7表、第8表によると、345名の年少労働者中、「やっている」と答えた者は71.9%、248名で「やっていない」と答えた者は28.1%、97名に過

第7表 スポーツ (実数)

区分	計	やっている	やっていない
産業別	性別		
A・B	計	345	97
	男	248	56
	女	218	41

第8表 スポーツ (比率)

区分	計	やっている	やっていない
産業別	性別		
A・B	計	100	28.1
	男	71.9	20.4
	女	42.3	57.7

ぎなかつた。次に男女別に比べてみると、男子は「やっている」と云う者79.6%であるのに、女子は42.3%となっていて、「やっていない」と云う者の方が多くなっている。このことは前の第一問の余暇時間利用の状態をみても明らかである。

あなたが現在やっているスポーツは何ですか。

第9表 スポーツの種類 (実数)

区分	計	野球	野球	庭球	卓球	籠球	陸上競技	水泳	相撲	ソフトボール	ラゲビー	登山	柔道	その他の
産業別	性別													
A・B	計	418	168	12	15	97	14	6	51	8	10	4	9	610
	男	384	168	7	9	81	13	6	50	8	10	4	6	697
	女	34	—	5	6	16	1	—	1	—	—	—	3	11

現在やっているスポーツの種類別に人員数を調べたのが第9表で、それを比率で表したのが第10表である。この場合、項目別の人員数は重複するので件数で表してある。これによると、年少労働者全体では、「野球」の40.3%と「卓球」の23.3

第10表 スポーツの種目 (比率)

産業別	区分 性別	計	野	排	庭	卓	籠	陸	水	相	ソフト	ラ	登	柔	旅	そ
			球	球	球	球	球	上	泳	撲	ボール	グ	山	道	行	他
A	計	100	40.3	2.9	3.6	23.3	3.3	1.4	12.2	1.9	2.4	0.9	2.1	1.4	2.4	1.9
B	男	100	43.8	1.8	2.3	21.1	3.4	1.6	13.0	2.1	2.6	1.0	1.6	1.6	2.3	1.8
	女	100	—	14.7	17.7	47.2	2.9	—	2.9	—	—	—	8.8	—	2.9	2.9

第10図 スポーツ実施状況



% が最も多く、男子のみの場合も殆ど同じような比率を示している。女子の場合は「卓球」47.2% と、約半分を占めている外、男子よりも行うスポーツの種目数が少くなっている。1950年4月から5月にかけて婦人少年局が行った電球、真空管製造業に働く年少者のスポーツの種類別の比率をみると、「野球」「卓球」の比率は中小企業の調査の場合より低く、他の種類の項目の比率が相当高くなっている。この場合両調査で選んだスポーツの種目数に差異があるため、厳密な比較は困難であるが、前記のように明らかな違いが現れた事は、電球、真空管製造業の調査は大、中、小規模の事業場を含めているのに、小企業調査の場合は事業場規模50人未満となつていたので、施設その他の差異が、比較的設備が少なくてすむ「野球」「卓球」等の比率を高くした一因となつていられるのかもしれない。

あなたが将来やりたいと思つているスポーツは何か。

第11表 希望するスポーツ (実数)

産業別	区分 性別	計	野	排	庭	卓	籠	陸	水	相	ソフト	ラ	登	柔	旅	そ
			球	球	球	球	球	上	泳	撲	ボール	グ	山	道	行	他
A	計	467	58	22	28	37	11	9	64	8	4	4	76	39	96	11
B	男	373	56	8	10	28	9	9	54	8	3	4	64	39	73	8
	女	94	2	14	18	9	2	—	10	—	1	—	12	—	23	3

第12表 希望するスポーツ (比率)

産業別	区分 性別	計	野	排	庭	卓	籠	陸	水	相	ソフト	ラ	登	柔	旅	そ
			球	球	球	球	球	上	泳	撲	ボール	グ	山	道	行	他
A	計	100	12.4	4.7	6.0	7.9	2.4	1.9	13.7	1.7	0.8	0.8	16.3	8.4	20.6	2.4
B	男	100	15.0	2.1	2.7	7.5	2.4	2.4	14.5	2.1	0.8	1.1	17.2	10.5	19.6	2.1
	女	100	2.1	14.9	19.1	9.6	2.1	—	10.5	—	1.1	—	12.8	—	24.5	3.2

ここでは現在はやつていないが将来やる機会に恵れればやつてみたいスポーツに印をつけさせた。この件数別の比率をみると一般的な傾向としては「旅行」20.6%「登山」16.3%、「水泳」13.7%、「野球」12.4% 等が高く、男子も大体同じで種目はここに挙げた全種目に及んでいる。女子は「旅行」24.5%、「庭球」19.1%、「排球」14.9% 等が多くなっている。そして殆どの者が何らかの希望を出していることが注目される。

第3問 あなたは現在趣味、娯楽をもつていますか。

趣味娯楽を「もつている」と答えた者は、全員345名中317名、91.9%を占め、「もつていない」と答えた者は僅に28名8.1%に過ぎない。男子と女子を較べた時、男子は「もつている」と答えた者は90.1%だが、女子は98.6%と多少

第13表 趣 味 娯 楽 (実 数)

区 分		計	もっている	もっていない
産業別	性別			
A・B	計	345	317	28
	男	274	247	27
	女	71	70	1

第14表 趣 味 娯 楽 (比 率)

区 分		計	もっている	もっていない
産業別	性別			
A・B	計	100	91.9	8.1
	男	100	90.1	9.9
	女	100	98.6	1.4

上回っている。尙この場合、調査環境、調査者の質問の仕方等によつて、実際には趣味娯楽をもっていないでも「もっている」と答えた場合も考えられるので、その点は考慮に入れなければならないであろう。

あなたが現在もっている趣味娯楽は何ですか。

年少労働者の趣味娯楽の傾向は件数の比率によると「映画」22.2%、「読書」19.5%、「歌謡曲」17.6%で、男子も大体同じ傾向であるが、女子は「歌謡曲」の比率が男子よりも高く、「洋裁」の12.5%が高い外、一応全項目に分布しているが比率は非常に低いものである。ここでみられる「映画」「読書」「歌謡曲」の比率の高い事は、余暇時間利用の場合、「趣味娯楽」「ラジオ」「その他」の項目の比率の高かつた点と一致するもので、これらがその内容となつていゝものと思われる。更にこれらの内容の詳しいことはこの後の調査で明らかにされる。

第15表 趣 味 娯 楽 の 種 目 (実 数)

区 分		計	洋 裁	和 裁	手 芸	細 工 物	書 道	茶 道	お 花	俳 句	和 歌	団 芸	将 棋	社交 ダンス	ス タ エ ダンス	読 書	映 画	演 劇	歌 謡 曲	歌謡曲を 除いた音楽	そ の 他
産業別	性別																				
A・B	計	766	21	6	3	16	10	2	3	7	2	10	60	15	6	149	171	25	135	92	33
	男	605	1	—	—	15	4	—	1	5	1	8	60	12	3	117	146	22	105	73	32
	女	161	20	6	3	1	6	2	2	2	1	2	—	3	3	32	25	3	30	19	1

第16表 趣 味 娯 楽 の 種 目 (比 率)

区 分		計	洋 裁	和 裁	手 芸	細 工 物	書 道	茶 道	お 花	俳 句	和 歌	団 芸	将 棋	社交 ダンス	ス タ エ ダンス	読 書	映 画	演 劇	歌 謡 曲	歌謡曲を 除いた音楽	そ の 他
産業別	性別																				
A・B	計	100	2.7	0.8	0.4	2.1	1.3	0.3	0.4	0.9	0.3	1.3	7.8	2.0	0.8	19.5	22.2	3.3	17.6	12.0	4.3
	男	100	0.2	—	—	2.5	0.7	—	0.2	0.8	0.2	1.3	9.8	2.0	0.5	19.2	24.1	3.6	17.3	12.1	5.3
	女	100	12.5	3.7	1.9	0.6	3.7	1.2	1.2	1.2	0.6	1.2	—	1.9	1.9	19.9	15.1	1.9	18.7	11.8	0.6

第4図 趣味娯楽の実施状況



第 17 表 希 望 す る 趣 味 娯 楽 (実 数)

区分 業別	計	洋 裁	和 裁	手 芸	細 工 物	書 道	茶 道	お 花	俳 句	和 歌	西 茶	将 棋	社交 ダンス	ス タ エ ア ダンス	読 書	映 画	演 劇	歌 謡 曲	歌謡曲を 除いた音楽	その他
A・B	計 男 女	312 177 135	38 1 37	18 — 18	4 1 3	9 8 1	8 4 4	3 — 3	22 1 22	4 2 2	2 1 1	5 5 —	14 14 —	39 26 13	14 13 1	29 24 5	29 25 4	15 10 5	26 18 8	25 16 9

第18表 希望する趣味娯楽 (比率)

区 分		計	洋 裁	和 裁	手 芸	細 工 物	富 道	茶 道	お 花	俳 句	和 歌	国 語	将 棋	社交 ダンス	ス タ ダ ン ス エ ア	読 書	映 画	演 劇	歌 謡 曲	除いた音楽 歌謡曲を	そ の 他
産業利	性 別																				
A・B	計	100	12.1	5.8	1.3	2.9	2.6	1.0	7.1	1.3	0.6	1.5	4.5	12.4	4.5	9.3	9.3	4.8	8.3	8.0	2.6
	男	100	0.6	—	0.6	4.5	2.3	—	0.6	1.1	0.6	2.8	7.9	14.7	7.3	13.6	14.1	5.6	10.2	9.0	4.3
	女	100	27.5	13.4	2.2	0.7	3.0	2.2	15.6	1.5	0.7	—	—	9.6	0.7	3.7	3.0	3.7	5.9	6.6	—

第19表 龍 書

項目 区分	計	就 住	請 意 な い
実 数	345	297	48
比 率	100	86.1	13.9

この表によると、読まない者は 13.9 %
48 名にすぎない。

第 20 表、第 21 表は読んだと答えた者の読んだ内容別の件数と比率を示したものである。年少労働者全体の傾向とし

比率が高いということは、年少労働者の教育、或はレクリエーション活動を行う上に一つの問題を提起するものと思われる。

第4問 あなたが最近読んだ本の名前と種類、その本を手に入れた方法を書き入れて下さい。

最近本を読んだものと、読まない者の人数と比率をみたのが第 19 表である。

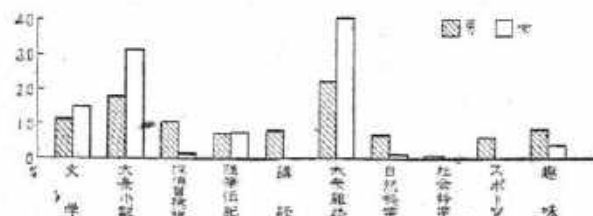
第20表 読 書 傾 向 (実数)

産業別	区分 性別	読 書 傾 向												読 ま な い	
		小 計	文 学 書	大 衆 小 説	探 偵 冒 険 小 説	随 筆 伝 記	講 談	大 衆 雑 誌	科 学 書	社 会 科 学	ス ポ ー ツ	趣 味	そ の 他		
A・B	計男女	368 289 79	40 29 11	69 46 23	28 27 1	24 19 5	21 21 —	88 58 30	19 18 1	2 2 —	16 16 —	25 22 3	8 8 —	28 23 5	48 39 9
	A B	245 123	27 13	47 22	17 11	17 7	11 10	61 27	12 7	2 —	14 2	15 10	5 3	17 11	29 19

第21表 読 書 傾 向 (比率)

区 分		小 計	文 学	大 衆 小 説	探 偵 冒 険 小 説	随 筆 伝 記	講 談	大 衆 雑 誌	自 然 科 学	社 会 科 学	ス ポ ー ツ	趣 味
産業別	性別											
A・B	計	100	12.1	20.8	8.4	7.2	6.3	26.6	5.7	0.6	4.8	7.5
	男	100	11.3	17.9	10.5	7.3	8.1	22.6	6.9	0.7	6.2	8.5
	女	100	14.9	31.2	1.3	6.7	—	40.6	1.3	—	—	4.0
A B	計	100	12.1	21.1	7.6	7.6	4.9	27.4	5.4	0.9	6.3	6.7
		100	11.9	20.2	10.1	6.4	9.2	24.8	6.4	—	1.8	9.2

第5図 読 書 傾 向



では「大衆雑誌」26.6%、「大衆小説」20.8%が最も高く、科学物は非常に低い比率しか占めていない。男子と女子とを比較した場合も同じような傾向を示しているが、女子が大衆物に多く集中しているのに比べ、男子は科学物、(自然科学)、講談等にいたるまで広い種目に分布している。産業別に比較した場合、機械器具製造業の方は「探偵冒険小説」、「趣味」、「講談」等の比率が低いが、「社会科学」、「スポーツ」等は金属製造業よりも幾分高い比率を示している。

第22表 書 籍 の 種 類

区 分		計	単 行 本	文 庫	雑 誌	そ の 他
産業別	性別					
A・B	実数	368	172	39	155	2
	割合	100	46.8	10.5	42.2	0.5

第22表は本の種類別に分けたものである。これによると「単行本」と「雑誌」が圧倒的に多くなっている。

第23表 読 書 の 方 法 (実数)

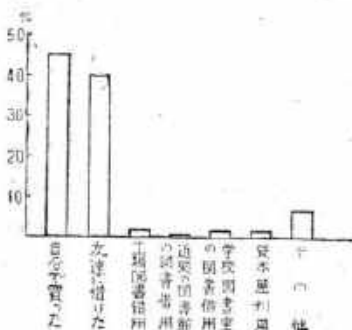
産業別 区分 性別	読 書 の 方 法							
	計	自 分 で 購 入	友 達 の 図 書 用	工 場 図 書 借 用	近 所 の 図 書 館 借 用	学 校 図 書 室 借 用	貸 本 屋 利 用	そ の 他
A・B	334	149	134	8	4	7	8	23
A	220	100	85	5	3	5	6	15
B	114	49	49	3	1	2	2	8

第24表は本を手に入れた方法を「その他」と「不明」を除いた件数の比率で表したものである。この表によると、「自分で購入」と云う者が約45%、「友達の間書信用」と云う者が約40%で、工場、学校、その他の図書施設、貸本屋等の利用は非常に少い事が明らかにされている。友達から借りたというものには、友達と交

第24表 読書の方法(比率)

区分 産業別	計	自分で購入	友達の図書用	工場図書借用	近所の図書館借用	学校図書室の借用	貸本屋利用	その他
A・B	100	44.8	40.2	2.4	1.2	2.1	2.4	6.9
A	100	45.7	38.8	2.3	1.4	2.3	2.7	6.8
B	100	43.0	43.0	2.6	0.9	1.7	1.7	7.1

第6図 読書の方法



換して読みもっているものかと思われる。

第25表 読書の場所(実数)

区分 産業別	計	自分の家	工場	近所の図書館	貸本屋	その他	不明
A・B	332	276	25	4	1	24	3
A	210	174	13	4	1	18	3
B	122	104	12	—	—	6	—

第26表 読書の場所(比率)

区分 産業別	計	自分の家	工場	近所の図書館	貸本屋	その他
A・B	100	83.8	7.5	1.2	0.3	7.2
A	100	82.8	6.2	1.6	0.5	8.6
B	100	85.3	9.8	—	—	4.9

第26表は本を読んだ場所を示す件数の比率であるが「自分の家」で読むと答えた者が一番多く、工場で読む者は約7~8%に過ぎなかった。

第5問 あなたが最近みた映画はどんな映画ですか。それはどこでみましたか。

第27表 映画

区分 産業別	計	見ない	見た
A・B	実数 345	63	282
	比率 100	18.3	81.7

最近、映画を「みた」者は282名81.7%となつている。見た映画の内容については、後の機会に結果を出すこととしてここでは省略した。

第28表 映画をみる場所

区分 産業別	計	映画館	学校	その他
A・B	実数 308	286	3	19
	比率 100	92.8	1.1	6.1

この表によると映画を見た場所は解答者308名中92.8%が「映画館」で、「工場」、「公民館」等でみた場合は一例もなかった。

第6問 あなたはどのような音楽が好きですか。

この項では、項目の分け方に不備な点があつたが、件数の比率をみると「歌謡曲」

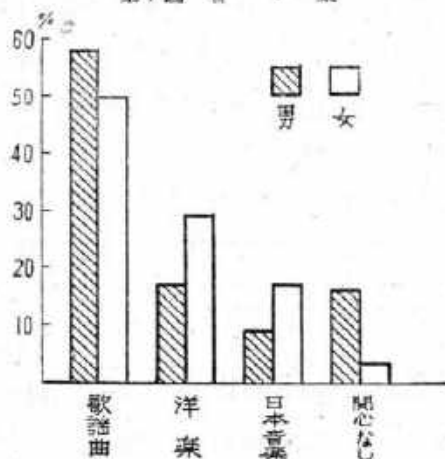
第29表 音楽 (実数)

区分		計	歌謡曲	洋楽	日本音楽	関心なし
産業別	性別					
A・B	計	442	249	85	48	60
	男	350	203	58	32	57
	女	92	46	27	16	3

第30表 音楽 (比率)

区分		計	歌謡曲	洋楽	日本音楽	関心なし
産業別	性別					
A・B	計	100	56.5	17.9	11.9	13.7
	男	100	58.1	16.5	9.1	16.3
	女	100	50.0	29.4	17.3	3.2

第7図 音楽



を好むものが男女ともに半数以上を占めている。「洋楽」と「日本音楽」では、洋楽を好む者の方が多く、特に女子はその点で著しい。

第7問 あなたはラジオのどんな種目を主にききますか。

この調査の第1問の余暇時間利用状態を見ると、年少労働者の多くはラジオを相

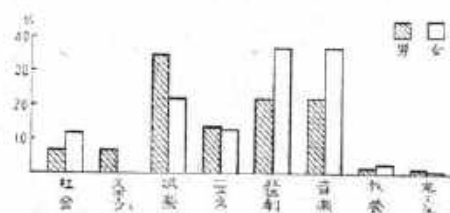
第31表 ラジオ聴取傾向 (実数)

区分		計	社	ス	娛	ニ	放	音	教	定
産業別	性別		会	ポ	楽	ュ	送	楽	養	い
A・B	計	634	48	37	207	86	79	157	11	9
	男	515	34	37	181	70	64	113	8	8
	女	119	14	—	26	16	15	44	3	1

第32表 ラジオ聴取傾向 (比率)

区分		計	社	ス	娛	ニ	放	音	教	定
産業別	性別		会	ポ	楽	ュ	送	楽	養	い
A・B	計	100	7.6	5.8	32.6	13.6	12.5	24.8	1.7	1.4
	男	100	6.6	7.1	35.1	13.6	12.4	22.0	1.6	1.6
	女	100	11.8	—	21.9	13.4	12.6	37.0	2.5	0.8

第8図 ラジオ聴取の傾向



当利用していることが明らかである。そこでラジオのどのような種目を主にきいているか調べた結果が第32表である。

同この場合も各項目にわたる人員数が重複するので、表は件数の比率で表しても

第33表 種 取 希 組

曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲	曲</
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

第34表 勉 強 し て い る 学 課 (実 数)

区 分		計	社	國	理	数	家	体	英	洋	和	華	音	機	書	職	ソ	設	電	工	手	応	法	経	そ	不	な
産 業 別	性 別		会	語	科	学	庭	育	語	裁	裁	道	楽	械	道	業	ロ	計	製	気	業	芸	用	規	済	他	明
A・B	計男女	818	91	82	63	99	13	68	89	19	10	—	22	33	17	13	33	24	35	14	3	11	4	19	6	13	37
		704	83	76	61	91	8	64	77	3	1	—	18	33	11	13	26	24	34	13	1	11	4	16	5	13	18
		114	8	6	2	8	5	4	12	16	9	—	4	—	6	—	7	—	1	1	2	—	—	3	1	—	19

第35表 勉 強 し て い る 学 課 (比 率)

区 分	計	社 会	国 語	理 科	数 学	家 庭	体 育	英 語	洋 裁	和 裁	華 道	音 楽	機 械	書 道	職 業	ソ ロ バ ン	設 計 製 図	電 気	工 業 化 学	手 芸	応 用 力 学	法 規	経 済	そ の 他	不 明	な し
A・B	計男女	100	11.9	10.8	8.2	12.9	1.7	8.8	11.7	2.5	1.3	—	2.8	4.2	2.2	1.7	4.2	3.1	4.6	1.8	0.4	1.4	0.5	2.5	0.8	0.8
		100	12.3	11.4	9.1	13.6	1.2	9.5	11.5	0.4	0.1	—	2.7	5.0	1.6	1.9	3.9	3.6	5.0	1.9	0.1	1.6	0.6	2.3	0.7	0.7
		100	8.4	6.3	2.1	8.4	5.3	4.2	12.7	16.9	9.5	—	4.2	—	6.3	—	7.4	—	1.0	1.0	2.1	—	—	3.2	1.0	1.0

る。(同この種目の細かい内容の分類については、第33表に示したが、これの項目別の実数及び比率については、省略した。)

年少労働者全体の傾向としては、「娯楽」32.6%、「音楽」24.7%等が高く、この内容をみると「娯楽」では20の扉、話の泉等が各々10%強を占めており、「音楽」では、今週の明星と歌謡曲が約50%を占めている。男子と女子を比較してみると男子は「娯楽」の35.1%が最も高いが、女子は「音楽」の37.0%が高い。その他「社会」「教養」では女子が高い比率を示しているが、「スポーツ」は女子の場合一例もない。

第8問 あなたが今勉強している学課名があつたら印をつけて下さい。又将来どんな学課を勉強したいと思いますか。

現在勉強している学課は件数の比率によると「数学」「社会」「英語」「国語」等の比率が高く約10%を占めている。男子の傾向も大体同じであるが、女子の場合

は「洋裁」が最も高く 16.9 % , 「英語」が 12.7 % で他は男子に比べ比率が低く, 「機械」「職業」「設計製図」「応用力学」「法規」等は全然ない。

第 36 表 希 望 す る 学 課 (実 数)

産 業 別	区 分 性別	計	社	国	理	数	家	体	英	洋	和	華	音	機	書	職	ソ	設	電	工	手	応	法	経	そ	不	な
			会	語	科	学	庭	育	語	裁	裁	道	楽	械	道	業	ロ	計	気	業	芸	力	規	済	他	明	し
A・B	計	526	23	28	17	29	9	11	57	41	24	8	36	50	11	5	37	22	35	22	7	11	13	12	11	—	7
	男	361	21	19	16	22	1	9	44	1	—	—	27	50	6	4	19	22	35	22	—	11	13	11	8	—	—
	女	165	2	9	1	7	8	2	13	40	24	8	9	—	5	1	18	—	—	—	7	—	—	1	3	—	7

第 37 表 希 望 す る 学 課 (比 率)

産 業 別	区 分 性別	計	社	国	理	数	家	体	英	洋	和	華	音	機	書	職	ソ	設	電	工	手	応	法	経	そ
			会	語	科	学	庭	育	語	裁	裁	道	楽	械	道	業	ロ	計	気	業	芸	力	規	済	他
A・B	計	100	4.4	5.4	3.3	5.6	1.7	2.1	11.1	8.0	4.6	1.5	6.9	9.7	2.1	1.0	7.2	4.2	6.7	4.2	1.3	2.1	2.5	2.3	2.1
	男	100	5.8	5.3	4.4	6.1	0.3	2.5	12.2	0.3	—	—	7.5	13.8	1.7	1.1	5.3	6.1	9.7	6.1	—	3.0	3.6	3.0	2.2
	女	100	1.3	5.7	0.6	4.4	5.1	1.3	8.2	25.3	15.2	5.1	5.7	—	3.2	0.6	11.4	—	—	—	4.4	—	—	0.6	1.9

第 38 表 通 学 状 況 (実 数)

区 分 産 業 別 性別		総 計	行 つ て い る						行 つ て い な い										無 記 入
			種 別 計	定 時 制	職 業 校	学 校	裁 縫	無 記 入	理 由 計	行 要 く な し	行 き た い が 行 け な い							理 由 不 明	
											小計	経済的	時間的	身体的	仕事上	家庭上	その他 の理由		
A・B	計 男 女	345	96	31	9	2	6	48	244	65	179	45	49	11	8	7	26	33	5
		274	80	28	5	2	1	44	190	57	133	31	30	9	8	4	25	26	4
		71	16	3	4	—	5	4	54	8	46	14	19	2	—	3	1	7	1
A		228	70	23	6	2	4	35	154	36	118	31	32	7	5	1	15	27	4
		183	59	20	3	2	1	33	120	32	88	20	19	7	5	1	15	26	4
		45	11	3	3	—	3	2	34	4	30	11	13	—	—	—	—	1	—
B		117	26	8	3	—	2	13	90	29	61	14	17	4	3	6	11	6	1
		91	21	8	2	—	—	11	70	25	45	11	11	2	3	3	10	5	—
		26	5	—	1	—	2	2	20	4	16	3	6	2	—	3	1	1	1

将来勉強したい学課として全体では「英語」11.1%、「機械」9.7%、「洋裁」8.0%、男子の場合は「機械」13.8%、「英語」12.2%、「電気」9.7%、女子の場合は「洋裁」25.3%、「和裁」15.2%、「ソロバン」11.4%が高く、すぐに役立つと思われるようなものが希望されていて基礎的学課の希望が少かった。

第9問 あなたは夜学（定時制高校、英語、ソロバン、裁縫その他の学校或は塾のようなもの）に行っていますか。

第39表 通学状況（比率）

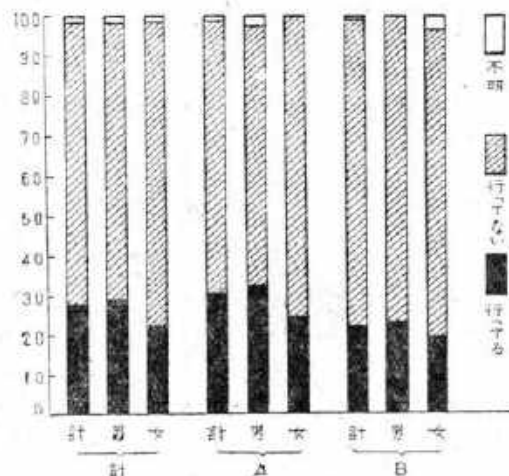
区分		計	行つて いる	行つて いない	無記入
産業別	性別	計			
		計			
		計			
A・B	計 男女	100	27.8	70.7	1.5
		100	29.2	69.3	1.5
		100	22.5	76.1	1.4
A	計 男女	100	30.7	67.5	1.2
		100	32.2	65.6	2.2
		100	24.4	75.6	—
B	計 男女	100	22.2	76.9	0.9
		100	23.1	76.9	—
		100	19.2	76.9	3.9

ここでは年少労働者が一日の仕事を終えてからの余暇時間を利用して、どのような学校或は塾に通つて、その知的向上を図っているかを調べたものである。

先ず就学の有無についてみるならば、機械器具製造業では男子32.2%、女子24.4%、金属製品製造業では男子23.1%、女子19.2%が一応学校に通っている事が分る。

即ち、女子よりは男子が、金属製品製造業よりは機械器具製造業の方が、通学している率が高くなっている。又全体の傾向としていうならば、年少労働者の約3分の2以上の者は就学の機会に恵まれていない事が分る。

第9図 通学状況

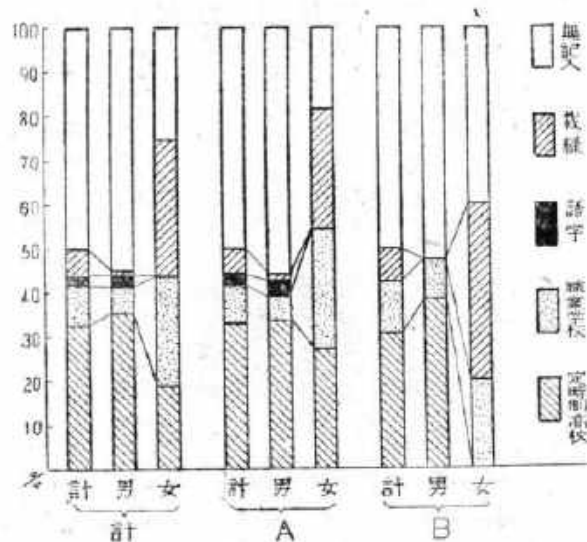


第40表 学校の種類（比率）（通学者のみ）。

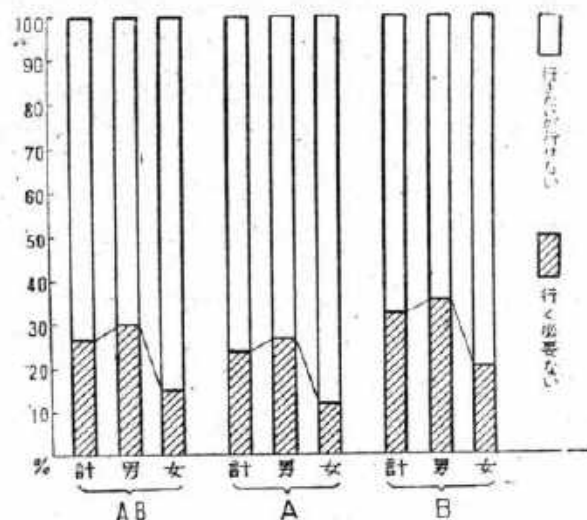
区分		計	定時制	職業学校	語学	裁縫	無記入
産業別	性別	計					
		計					
		計					
A・B	計 男女	100	32.3	9.4	2.1	6.3	50.0
		100	35.0	6.2	2.5	1.3	55.0
		100	18.8	25.0	—	31.2	25.0
A	計 男女	100	32.9	8.6	2.8	5.7	50.0
		100	33.9	5.1	3.4	1.7	55.9
		100	27.3	27.3	—	27.3	18.1
B	計 男女	100	30.8	11.5	—	7.7	32.2
		100	38.1	9.5	—	—	35.7
		100	—	20.0	—	40.0	20.0

更に就学している者についてその就学内容をみれば、男子は定時制高校35.0%、職業学校6.2%、語学2.5%、裁縫1.3%、その他55%となっており、女子は定

第10図 学校の種類



第11図 通学の希望 (不通学者のみ)



第41表 通学の希望 (比率) (不通学者のみ)

区分 産業別性別	計	行く必要 がない	行きたいが 行けない
A・B	計	100	73.4
	男	100	70.0
	女	100	85.2
A	計	100	76.6
	男	100	73.3
	女	100	88.2
B	計	100	67.8
	男	100	64.3
	女	100	80.0

時制高校 18.8%, 職業学校 25.0%, 語学なし、裁縫 31.2%, その他 25.0% となつてゐる。即ち男子の場合は定時制高校が最も多数を占め、女子の場合は裁縫を習うものが多い。

又、男女とも無記入の者が非常に多数を占めているのは調査票の不備か、或は

調査方法が悪かつた為であろうか。

次に学校に行つていないものについてみると、行く必要がないと答えたものは男子 30%, 女子 14.8% で、残りの男子 70%, 女子 85.2% の多くの者が行きたいか行かれないと答えている事は注目されよう。

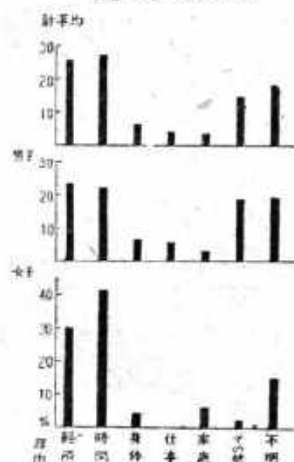
このように就学を切望しているにも拘らず就学する事が出来ないものは何故であるか。その理由を調べたのが第 42 表である。経済的に困難を訴えている者は男子 23.3% 女子 30.4% であり、時間的に余裕がないというものは男子 41.4%, 女子 27.1% となつていて、これら二つの理由が、学校へ行きたくても行く事が出来ない主な原因となつてゐることと思われる。

又ここにおいて仕事上の都合から就学する事が出来ないという者があるが、仕事の時間が長いから、或は仕事が疲れるからという様なものはそれぞれ時間的或は身

第42表 不通学理由 (比率) (不通学者のみ)

区 分		計	経済的	時間的	身体的	仕事上	家庭上	その他の理由	理由不明
産業別	性別								
A・B	計	100	25.1	27.4	6.1	4.5	3.9	14.5	18.4
	男	100	23.3	22.6	6.8	6.0	3.0	18.8	19.5
	女	100	30.4	41.4	4.3	—	6.5	2.2	15.2
A	計	100	26.3	27.1	5.9	4.2	0.8	12.7	22.9
	男	100	22.7	21.6	8.0	5.7	1.1	17.0	23.9
	女	100	36.7	43.3	—	—	—	—	20.0
—	計	100	22.9	27.4	6.2	4.9	9.8	18.0	9.8
	男	100	24.4	24.4	4.4	6.7	6.7	22.2	11.1
	女	100	18.7	37.5	12.5	—	18.7	6.3	6.3

第12図 不通学理由
(就学希望者のみ)



体的原因に基づくものとして区分した。故にここにおける仕事上というのは回答者が単に仕事上とのみ記したもので、他に分類出来なかつたものである。

しかし、これら通学出来ない理由は、多く原因が互に相関連し、重複し合つて生ずるのであつて、ただ一つの原因によるものではないと思われる。

即ち年少労働者の大部分は就学を希望しているにも拘らず、比較的家の貧しい者が多く、又低賃金により経済的に貧困である為と、時間的に余裕がない事、即ち小企業に比較的多い労働の過重、適切な習学施設の欠乏等が原因とな

つてその向上意欲をふみにじられようとしているのではなからうか。又、全体の三分の一にも満たないわずかな通学者においても、その習学内容が知識的でないもの

が多い。

第10問 あなたは休みの時間や、仕事が終わつてからの時間を過ごすために工場でどんな活動が行われるとよいと思いますか。

第43表 事業場における余暇時間利用の希望(実数)

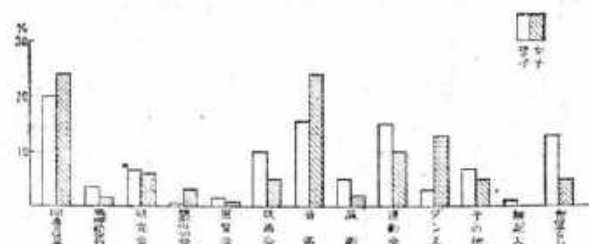
区分 産業別 性別	計	図書 の貸出	機関 紙発行	研 究 会	短歌 俳句 会	展 覧 会	映 画 会	音 楽	演 劇 演 芸	運 動 会	ダ ン ス	そ の 他	希 望 な し	無 記 入
A・B	計	516	108	16	32	5	6	45	90	23	72	25	32	57
	男	395	79	14	25	1	5	39	61	20	60	9	26	51
	女	121	29	2	7	4	1	6	29	3	12	16	6	6
A	計	353	72	11	29	3	5	29	58	14	59	15	17	36
	男	276	53	9	23	1	4	23	39	13	53	6	14	35
	女	77	19	2	6	2	1	6	19	1	6	9	3	3
B	計	163	36	5	3	2	1	16	32	9	13	10	15	19
	男	119	26	5	2	—	1	16	22	7	7	3	12	16
	女	44	10	—	1	2	—	—	10	2	6	7	3	3

第44表 事業場における余暇時間利用の希望(比率)

区分 性別	計	図書 貸出	機関 紙発行	研 究 会	短歌 俳句 会	展 覧 会	映 画 会	音 楽	演 劇 演 芸	運 動 会	ダ ン ス	そ の 他	希 望 な し	無 記 入
計	100	20.9	3.1	6.2	1.0	1.2	8.7	17.4	4.5	14.0	4.8	6.2	11.1	1.0
	男	100	20.0	3.5	6.3	0.3	1.3	9.9	15.4	5.1	15.2	2.3	6.6	13.0
	女	100	24.0	1.7	5.8	3.3	0.8	5.0	24.0	2.5	10.0	13.2	5.0	5.0

年少労働者は余暇時間を利用するために工場でどの様な活動が行われる事を希望しているだろうか。男子では先ず図書の貸出 20.9 %、音楽 17.4 %、運動会 14.0 % がその主なものとなつており、女子では図書の貸出及び音楽の 24.0 % を筆頭にダンス 13.2 %、運動会 10.0 % がこれに次ぎ、大体男女共ほぼ同じ傾向を示し

第13図 事業場における余暇時間の利用の希望



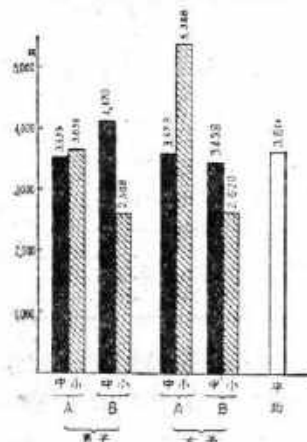
ている。ここに於いても明らかな様に、彼等は読書する事によつて知識欲を満たし、殺伐な工場での嫌いを音楽に求めようとし、又運動会を希望する者が多いのは中小企業の事業場には運動する事の出来る様な空地のない事をも示すものである。

第11問 先月の給料の使いみちについて。

第45表 給料手取額

給与別		先月手取額平均
区分		
計平均		3,611円
男	A 中規模	3,535
	小規模	3,651
	B 中規模	4,120
	小規模	2,598
女	A 中規模	3,573
	小規模	5,346
	B 中規模	3,438
	小規模	2,620

第14図 給料手取額



先月の手取額について性別、産業別、事業場規模別平均額を調べたのが第45表である。これによつてその正確な額を知る事は出来ないが、大体の傾向を述べるならば、男子は平均 3,500~4,000 円、女子は 2,500~3,500 円となつてゐる。又、小企業を更に中規模 (11~50 人) 小規模 (1~10 人) に分けてみると、機械器具製造業においては中企業事業場より小企業事業場の方が手取額が多くなつてゐるのは、小企業にありがちな労働時間の延長による時間外手当が含まれている為ではないかと考えられるが、これらについて一概に言う事は出来ない。

第46表 給料の使途 (延金額)

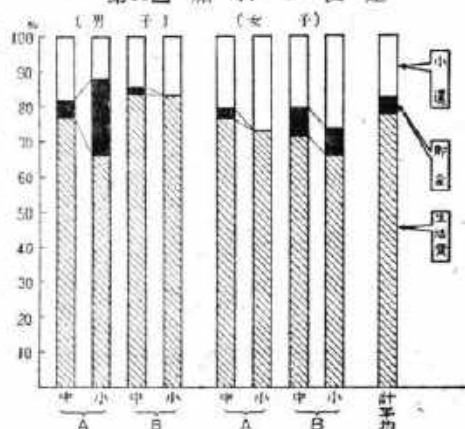
給与別		計	生活費	貯金	小遣
区分					
計		1,056,344	821,646	47,750	186,948
男	A 中規模	503,311	386,453	24,600	92,258
	小規模	37,920	25,260	8,000	4,660
	B 中規模	251,933	210,428	4,550	36,955
	小規模	37,965	31,330	—	6,635
女	A 中規模	142,138	108,908	4,300	28,930
	小規模	4,110	3,000	—	1,110
	B 中規模	73,737	52,812	5,900	15,025
	小規模	5,230	3,455	400	1,375

第47表はこれら先月の給料の使途についてその内訳を調べたものである。これによつて先づ明らかな事は、生活費として占められる比率の非常に大きい事で、平均して給料の 77.8%, 約 8 割は生活費として用いられている。これは年少労働者の家計負担が大きい事、言いかえれば家庭の経済状態が悪く、年少者を働かせなければならない状態にある事が想像される。殊にこの傾向は女子より男子に著しいのは家庭における経済的負担が男子に多く課せられているからである。

第47表 給料の用途 (比率)

区分		給料用途別	計	生活費	貯金	小遣
計			100	77.8	4.5	17.7
男	A 中規模	小規模	100	76.8	4.9	18.3
		小規模	100	65.6	21.1	12.3
	B 中規模	小規模	100	83.5	1.8	14.7
		小規模	100	83.1	—	16.9
女	A 中規模	小規模	100	76.6	3.0	20.4
		小規模	100	73.0	—	27.0
	B 中規模	小規模	100	71.6	8.0	20.4
		小規模	100	66.0	7.7	26.3

第15図 給料の用途



貯金については小規模機械器具工業に於ける男女の特例を除いて全般的に少い。

小遣いは全体の 17.7% を占めている。

調査票では更に小遣いの細かい内訳も記入する様に欄を設けたのであるが、実際に調べた結果をみると無記入のものが非常に多くこれを纏める事が出来なかつたのは残念である。

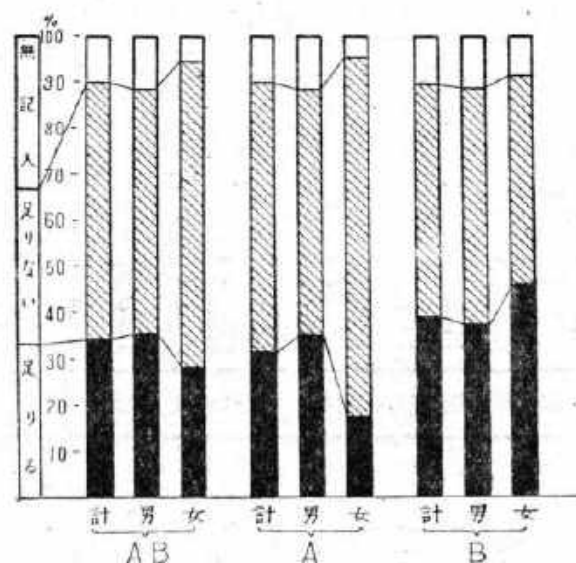
第 8 問 今の給料で足りていますか。

次にこれらの給料で年少労働者は満足しているだろうか。第 48 表によつてこれを見ると半数以上のものは足りないと答えている。特に金属製造業において著しい。

第48表 給料の過不足 (実数)

区分		計	足りる	足りない	無記入
産業別	計	345	118	192	35
	性別	274	98	145	31
A・B	計	71	20	47	4
	性別	228	72	133	23
A	計	183	64	98	21
	性別	45	8	35	2
B	計	117	46	59	12
	性別	91	34	47	10
	計	26	12	12	2
	性別				

第16図 給料の過不足



第49表 給料の過不足(割合)

区分		計	足 り る	足りない	無 記 入
産業別	性別				
A・B	計男女	100	34.2	55.7	10.1
		100	35.7	52.9	11.4
		100	28.2	66.2	5.6
A	計男女	100	31.4	58.3	10.1
		100	35.0	53.6	11.4
		100	17.8	77.8	4.4
B	計男女	100	39.3	50.4	10.3
		100	37.2	51.6	11.2
		100	45.4	45.6	8.8

第50表 給料不足額(実数) (足りないと答えたもののみ)

区分		計	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	無記入
産業別	性別																
A・B	計男女	192	4	7	2	33	3	3	83	10	19	3	2	23			
		145	3	6	1	20	3	2	64	8	18	2	1	17			
		47	1	1	1	13	—	1	19	2	1	1	1	6			
A	計男女	133	2	4	1	24	2	—	62	5	10	2	2	19			
		84	1	3	—	14	2	—	48	3	10	1	1	15			
		35	1	1	1	10	—	—	14	2	—	1	1	4			
B	計男女	59	2	3	1	9	1	3	21	5	9	1	—	4			
		47	2	3	1	6	1	2	16	5	8	1	—	2			
		12	—	—	—	3	—	1	5	—	1	—	—	2			

第51表 給料不足額(比率) (足りないと答えたもの)

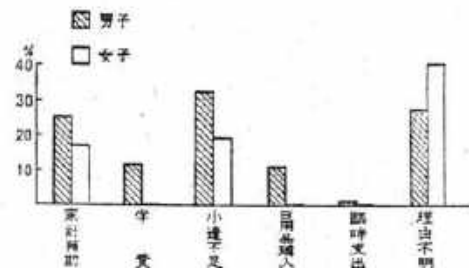
区分		計	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	無記入
産業別	性別																
A・B	計男女	100	2.6	3.6	1.0	17.2	1.5	1.5	43.1	5.2	9.8	1.5	1.0	11.8			
		100	2.3	4.1	0.7	13.7	2.3	1.3	44.1	5.5	12.4	1.3	0.7	11.6			
		100	2.2	2.2	2.2	27.6	—	2.2	40.4	4.3	2.2	2.2	2.2	12.7			

第17図 給 料 の 不 足 額



足りないと答えた者のみについて、その不足額を具体的に調べると、男女ともその半数近くの者が 1,000 円の不足を訴え、500 円がこれに次いでいる。しかしこれらの数字の供覧については、必ずしも明白でないように思われる。

第18図 給 料 不 足 理 由



給料の不足を訴えた者について、それは何故かという理由を調べたのが第 52 表である。これによると小遣不足と共に家計補助がその大部分を占めており(11)の間における給料の使途内訳と共に、ここにおいても家庭の貧困、年少者の低賃金等が見られるのである。又、女子より男子の方が不足理由を積極的に述べて居り、女子の方は理由不明、即ち何故か分らないが足りないという様なものが多い。第 13 問給料が足りない時は何で補っていますか。

第52表 給料不足理由 (実数) (足りないと答えた者のみ)

産 業 別 性 別	区 分	計	家計補助	学 費	小遣不足	日用品 購 入	臨時支出	理由不明
A・B	計	192	44	17	56	16	1	59
	男女	145	36	17	47	16	1	40
A	計	133	31	13	37	13	—	42
	男女	98	25	13	29	13	—	31
B	計	59	13	4	19	3	1	17
	男女	47	11	4	18	3	1	9
B	計	12	2	—	1	—	—	8
	男女	12	2	—	1	—	—	8

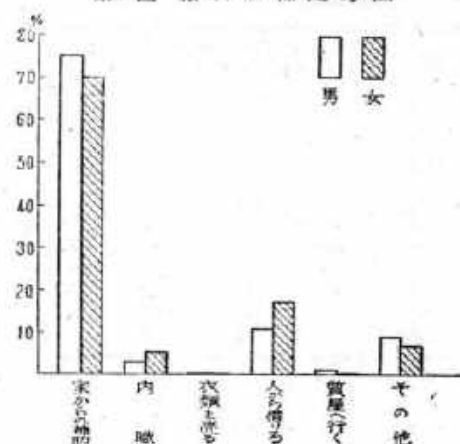
第53表 給料不足理由(比率) (足りないと答えた者のみ)

産 業 別 性 別	区 分	計	家計補助	学 費	小遣不足	日用品 購 入	臨時支出	理由不明
A・B	計	100	22.9	8.9	29.2	8.3	0.5	30.7
	男女	100	24.8	11.7	32.4	11.0	0.7	27.6
A	計	100	17.0	—	19.1	—	—	40.4
	男女	100	23.3	9.8	34.2	9.8	—	31.6
A	計	100	25.3	13.3	29.6	13.3	—	31.6
	男女	100	17.1	—	22.9	—	—	31.4
B	計	100	22.0	6.8	32.2	5.1	1.6	28.8
	男女	100	23.4	10.7	38.3	6.4	2.1	19.1
B	計	100	16.7	—	8.3	—	—	66.7
	男女	100	16.7	—	8.3	—	—	66.7

第54表、第55表は給料が足りない時、どの様な方法でこれを補っているかを調べたものである。

これは一人で幾種類も答えたものもあるのでこれらの件数の合計を100としてそれぞれの比率を出した。なおこの場合の「不明」は補う方法が不明であると共に補う必要のないもの即ち現在の給料で満足している者も含まれているものと思われる。

第19図 給料の補足方法



る。従つて比率を出す時「不明」のものについてはこれを除外した。

これによると家から補助を受けるものが最も多く70%以上を占めている。次いで人から借りる、内職する等で、衣類を売り或は質屋へ行くものは殆どないと言つてよい。しかしこれらの方法は年少者自身の場合のみであつて、彼等の家庭の経済状態は相当苦しいものと想像される。

第54表 給料の補足方法 (実数)

産 業 別 性 別	区 分	合 計	給 料 の 不 足 を 補 う 方 法							不明
			計	家からの補助	内職	衣類等を売る	人から借りる	質屋に行く	その他	
A・B	計	354	251	186	9	—	32	2	22	103
	男女	281	194	146	6	—	22	2	18	87
A	計	73	57	40	3	—	10	—	4	16
	男女	73	57	40	3	—	10	—	4	16
A	計	232	169	131	1	—	17	1	19	63
	男女	185	132	104	1	—	10	1	16	53
B	計	47	37	27	—	—	7	—	3	10
	男女	47	37	27	—	—	7	—	3	10
B	計	122	82	55	8	—	15	1	3	40
	男女	96	62	42	5	—	12	1	2	34
B	計	26	20	13	3	—	3	—	1	6
	男女	26	20	13	3	—	3	—	1	6

第55表 給料の補足方法 (比率)

区分 産業別 性別	計	家からの補助	内職	衣類等を売る	人から借りる	質屋に行く	その他
A・B	計 男女	100 100 100	74.1 75.3 70.2	3.6 3.1 5.3	— — —	12.7 11.3 17.5	0.8 1.0 —
A	計 男女	100 100 100	77.5 78.8 73.0	0.6 0.8 —	— — —	10.1 7.6 18.9	0.6 0.8 —
B	計 男女	100 100 100	67.1 67.7 65.0	9.8 8.1 15.0	— — —	18.3 19.4 15.0	1.2 1.6 —

第14問 あなたの工場に労働組合がありますか。

第56表 労働組合の有無 (実数)

区分 産業別 性別	計	ない	ある	知らない	無記入
A・B	計 男女	345 274 71	279 227 52	41 29 12	4 4 —
A	計 男女	228 183 45	193 159 34	22 14 8	— — —
B	計 男女	117 91 26	89 68 18	19 15 4	4 4 —

年少者の属している事業場に労働組合があるか否かを調べたのが第56表であり「ある」と答えた者、即ち組合の結成されている事業場に行っている者は、機械器具工業 9.6%、金属製造業 16.2% 平均して 11.9% となっている。

次に労働組合があると答えた者について、組合に加入しているかどうかを調べたのが第58表である。この中組合に入っていると答えた者の総人員に対する割合

第57表 労働組合の有無 (比率)

区分 産業別 性別	計	ない	ある	知らない	無記入
A・B	計 男女	101 100 100	80.8 82.8 73.2	11.9 10.6 16.9	1.2 1.5 —
A	計 男女	100 100 100	84.6 73.5	9.6 16.2	— 3.4
B	計 男女	100 100 100	67.1 67.7 65.0	9.8 8.1 15.0	— — —

第58表 組合加入の有無(実数) (組合のあると答えたもののみ)

区分 産業別 性別	計	入っている	入っていない	不明
A・B	計 男女	41 29 12	13 9 4	26 19 7
A	計 男女	22 14 8	3 — 3	17 13 4
B	計 男女	19 15 4	10 9 1	9 6 3

* 第59表 組合組織率

区分 産業別 性別	総計	組合加入者	組合組織率
A・B	計 男女	345 274 71	13 9 4
A	計 男女	228 183 45	3 — 3
B	計 男女	117 91 26	10 9 1

即ち組合組織率は第59表に示される様に、機械器具製造業に於いて 3.8%、金属製品製造業 8.5%、平均して僅か 3.8% に過ぎない。これを全産業の組織率 45.9%、或は製造業の 41.6% に比べても如何に低い分かるであろう。

即ち小企業においては機械器具製造業金属製品製造業を問わず殆どの事業場が組合を有せず、組織率は極めて低い事が明らかである。

第15問 労働組合についてどう思いますか。

第60表 産業別組合組織率(1930年6月末現在)

産業別 区分	全産業	農業	林業及狩猟業	漁業及水産養殖業	鉱業	建設業	製造業	卸売及小売業	金融保険業	不動産業	運輸通信及その 他公益事業	サービス業	公務	分類不能の産業
推定 組織率	45.9	1.0	25.9	24.3	93.4	26.7	41.6	21.6	74.5	—	85.8	53.5	32.7	—

労働統計調査月報第三巻第二号「労働組合の組織状況」による

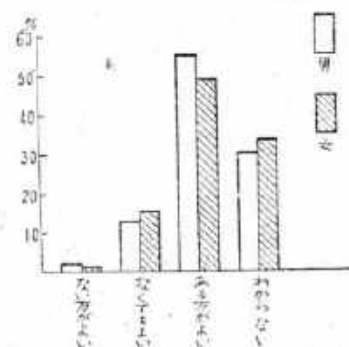
第61表 労働組合の有無についての可否 (実数)

産業別 区分	計	ない方がよい	なくてもよい	ある方がよい	わからない
A・B	計 男 女	7 6 1	46 35 11	185 150 35	107 83 24
A	計 男 女	5 5 —	34 27 7	124 97 27	62 54 11
B	計 男 女	2 1 1	12 8 4	61 53 8	42 29 13

第62表 労働組合の有無についての可否(比率)

産業別 区分	性別	計	ない方がよい	なくてもよい	ある方がよい	わからない
A・B	計 男 女	100 100 100	2.0 2.2 1.4	13.2 12.8 15.5	53.7 54.7 49.3	31.0 30.3 33.8
A	計 男 女	100 100 100	2.2 2.7 —	14.9 14.8 15.7	54.4 53.0 59.9	28.5 29.5 24.4
B	計 男 女	100 100 100	1.7 1.1 3.8	10.3 8.8 15.4	52.1 58.3 30.8	35.9 31.9 50.0

第20図 労働組合の有無についての可否



労働組合についての意見は男女共その半数以上が「ある方がよい」と答えている。又少数ではあるが「ない方がよい」或は「なくてもよい」と答えているが、「わからない」という者も多く約30%を占めている事からも組合意識の低調な事が窺われるのである。

第63表 労働組合の有無についての可否理由(実数)

区 分 産業別 性別		ない方がよい				な く て も よ い						あ る 方 が よ い					
		計	あつてもな くても別に 要らない	その他	理由不明	計	あつても従業員が 不活動だ少数だから	現状に 満足	その他	理由不明	計	意志表 示のため	生活安 定の為	民主化 のため	その他	理由不明	
A・B	計 男 女	7	2	3	2	46	2	5	13	10	16	185	48	61	13	7	56
		6	2	3	1	35	2	2	8	10	13	150	44	56	5	7	38
		1	—	—	1	11	—	3	5	—	3	35	4	5	8	—	18
A	計 男 女	5	2	2	1	34	1	2	6	9	16	124	44	25	10	3	42
		5	2	2	1	27	1	1	3	9	13	97	40	20	3	3	31
		—	—	—	—	7	—	1	3	—	3	27	4	5	7	—	11
B	計 男 女	2	—	1	1	12	1	3	7	1	—	61	4	36	3	4	14
		1	—	1	—	8	1	1	5	1	—	53	4	36	2	4	7
		1	—	—	1	4	—	2	2	—	—	8	—	—	1	—	7

第64表 労働組合の有無についての可否理由(比率)

区 分 産業性 性別		ない方がよい				な く て も よ い						あ る 方 が よ い					
		計	あつてもなくとも別に要らない	その他	理由不明	計	あつても不活動だから	従業員が少数だから	現状に満足	その他	理由不明	計	意志表示のため	生活安定のため	民主化のため	その他	理由不明
A・B	計	100	28.6	42.8	28.6	100	4.3	10.9	28.3	21.7	34.8	100	25.8	32.8	7.0	3.8	30.6
	男	100	33.3	50.0	16.7	100	5.7	5.1	22.9	28.6	37.1	100	29.3	37.3	3.3	4.7	25.4
	女	100	—	—	100.0	100	—	27.3	45.4	—	27.3	100	11.4	14.3	22.9	—	51.4
A	計	100	40.0	40.0	2.0	100	2.9	5.9	17.6	26.5	47.1	100	35.5	20.2	8.1	2.4	33.8
	男	100	40.0	40.0	2.0	100	3.7	3.7	11.1	33.3	48.1	100	41.2	20.6	3.0	3.0	32.2
	女	100	—	—	—	100	—	14.3	42.9	—	42.9	100	14.8	18.5	25.9	—	40.8
B	計	100	—	50.0	50.0	100	8.3	25.0	58.3	8.3	—	100	6.6	59.0	4.9	6.6	23.9
	男	100	—	100.0	—	100	12.5	12.5	62.5	12.5	—	100	7.5	67.9	3.8	7.5	13.3
	女	100	—	—	100.0	100	—	50.0	50.0	—	—	100	—	—	12.5	—	87.5

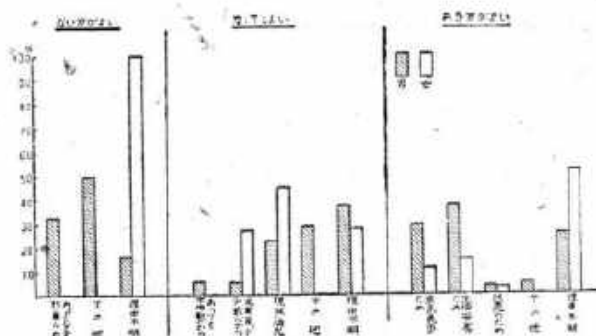
では、何故労働組合がある方がよいのだろうか、或はない方がよいのだろうか。

先ずない方がよいと答えた者について調べてみるならば、その理由はいずれも甚だ漠然としてはいるが、大体組合が不活動な故に、あつてもなくとも別に要りはないというのがその主なものである。その他の理由或は理由不明の者もそれにほぼ近

いものと想像される。

なくともよいと答えたものには現在組合を有せず、しかも現状の儘で別に不満を感じていないものが最も多数を占めており、殊に金属製品製造業に於いてその傾向が著しい。従業員が少数だから、或は組合があつても不活動だからなくともよいと

第21図 労働組合の有無についての可否理由



答える者、その他理由不明曖昧な答えをする者も多数を占め、全体的にみて致し方がないからという様な諦めの観が強く見られる。

最後に組合がある方がよいという理由についてはどうであろうか。先ず男子の場合からいうならば、第一に生活安定の為 37.3%、次に意志表示の機関として 29.3% が多数を占めている。民主化の為、その他の理由によるものは極く少数で、理由不明の者も比較的多く 25.4% もある。次に女子の場合は民主化の為 22.9% 生活安定のため 14.3%、意志表示の為 11.4%、そして理由不明、即ち、ただ漠然と何となくある方がよいという者が 51.4% もある。

むすび 以上述べて来た事をまとめると次の如くである。

1 年少労働者が余暇時間をどのように用いているか全体的な傾向をみると、男子の場合は趣味娯楽、女子の場合は家事の手伝いの比率が高くなっている。そして趣味娯楽の内容としては映画、歌謡曲、読書等が男女共に高くなっている。特に読書傾向として大衆物が約 50% を占めているのは注目すべきことであろう。学習、スポーツ等に用いる時間は比較的少い。

就学している者は全体の 3 分の 1 にも達せず、その内容も知識的なものが少くて家事技能的なものが多い。非就学者の約 70% は就学希望を訴えているが、その半分以上が経済的、時間的理由で就学不可能となつてゐる。

スポーツは男子約 80%、女子約 40% が主として野球、卓球を行っているが、余暇時間全体からみるとその占める割合はごく僅かなものである。

2 余暇時間利用の為、将来の希望としては次のような結果が示されている。

- (イ) スポーツについては殆どの者が希望を出している。
- (ロ) 趣味娯楽の中では、社交ダンスの希望が非常に多い。
- (ハ) 学課では英語、機械、裁縫等、すぐ役に立つものの希望が多い。
- (ニ) 工場に対しては、図書の貸出、音楽、運動会等の希望が多い。

3 余暇時間利用の状態を経済面からみると、給料のつかいみちは約 80% が生活費で、しかも半数以上が不足を訴えている。そこで、余暇利用のための経済的裏づけの不足が、余暇善用の一つの障碍となつてゐることも考えられる。

4 余暇利用の為の工場内の設備は主として企業規模の大小に依存すると思われるが、同時に労働組合の有無、強弱等も影響を及ぼすものとみられる。この調査によると 11 人以上 50 人未満の従業員をもつ事業場が 71 カ所、10 人未満の従業員をもつ事業場は 22 カ所で全体の 23.7% を占めている。又組合を有する事業場は 93 事業場中 6 事業場で僅か 6.4% に過ぎない。そこで組合があると答えた者は全体の 11.9% に過ぎず、組合加入率は 3.8% と云う僅かなものである。そして年少労働者の約半数以上は生活不安、意思表示の為、等の理由をあげて組合がある方がよいと答えている。このように労働組合を有する事業場が少く、組合加入率も低く、しかも組合の必要を望まれているのは、現在の余暇利用設備の不足の一因を示すと共に、今後労働組合の結成、その活動が余暇利用の面からも必要とされる事を表しているように思われる。

年少労働調査資料 (発行したもの)

- 第 1 集 鉄道連結手災害調査 (1948 年 5 月 — プリント)
- 第 2 集 衛生上有害物質を取扱う業務に関する特殊調査 (1948 年 6 月 — プリント)
- 第 3 集 “サーカスを視て” — サーカスの年少労働者演技の調査 (1948 年 7 月 — プリント)
- 第 4 集 年少労働者災害統計 (1948 年 8 月 — プリント)
- 第 5 集 国営鉄道事業における年少従業者の適業基準 (1949 年 9 月 — プリント)
- 第 6 集 “働く少年少女のメモ” — 年少労働者の労働および労働態度調査 (1949 年 8 月 — 活版)
- 第 7 集 “学びながら働く年少者” — 労働基準法による使用許可証明をえて働く年少者の調査 (1949 年 8 月 — 活版)
- 第 8 集 “街頭に働く年少者” — 年少街頭労働者実態調査の報告 — (1949 年 10 月 — 活版)
- 第 9 集 “サーカスに働く年少者” — サーカスに働く年少者実態調査の報告 — (1950 年 1 月 — 活版)
- 第 10 集 電球および真空管製造業に働く年少者の実態調査 — (1951 年 6 月 — プリント)
- 第 11 集 電球および真空管製造業 — 年少労働者の適業 (1950 年 9 月 — プリント)
- 第 12 集 電球および真空管製造業に働く年少者の余暇生活調査—余暇生活施設調査 (1950 年 11 月—活版)
- 第 13 集 “ ” “ ” —余暇生活個人調査 (1950 年 11 月—活版)
- 第 14 集 電球および真空管製造業に働く年少者の労働条件および労働環境実態調査 (1951 年 1 月—活版)

GAa1/1

労働省婦人少年局



女性と仕事の未来館



00730151